

次期子どもに関する総合計画骨子案

I 計画策定の考え方

1 策定の趣旨、計画の位置づけ

- 子どもに関する施策を総合的かつ計画的に実施していくため、なごや子どもの権利条例第20条に基づく「子どもに関する総合的な計画」として策定する
- 子ども・子育て支援法第61条第1項に基づく「市町村子ども・子育て支援事業計画」及び子どもの貧困対策の推進に関する法律第9条第2項に基づく「市町村における子どもの貧困対策についての計画」を包含した計画として策定する
- こども基本法第10条第2項に基づく「市町村こども計画」として位置づける
- 次世代育成支援対策推進法第8条第1項に基づく「市町村行動計画」として位置づける
- 名古屋市総合計画やその他の関連する各施策分野の個別計画と整合性をはかり、子ども・若者・子育て家庭の支援に関する施策・事業を実施・推進する

2 計画の期間

令和7年度から令和11年度までの5年間

3 計画の対象

すべての子ども・若者・子育て家庭とそれを支える社会

子育て家庭は「養育者、里親等を含む子どもを養育している家庭」、社会は「社会全体と社会を構成するあらゆる団体(市、地域住民等、学校等関係者、事業者等)」を指す。

4 計画の基本的な視点

次の視点を踏まえて施策・事業を組み立てるとともに、施策の推進・事業の実施に際しても、この考え方を重視しながら進めていく。

(1)子どもの最善の利益を重視し、権利を保障する視点

子どもは、生まれながらにして一人ひとりかけがえのない存在であり、権利を持つ主体である。なごや子どもの権利条例において、「安全に安心して生きる権利」「一人一人が尊重される権利」「豊かに育つ権利」「主体的に参加する権利」は、特に大切なものとして保障されなければならないとされている。

あらゆる場面で、こうした子どもの権利を保障するとともに、子どもの視点に立ち、子どもとともに最善の方法は何かを考え、子どもの最善の利益を重視するという視点を持ち、すべての施策・事業を推進する。

(2)当事者参画の視点

子どもは、自分たちに関わることについて主体的に参加することを通じて、当事者意識を高め、自分たちを取り巻く社会に関わり、他者と共生し、自立した大人へと成長していく。子どもが参加すること、子どもが考えや思いを表明する機会を与えられること、子どもの考えや思いが尊重されること、子どもが考えや思いを表明するために必要な支援を受けられることといった「主体的に参加する権利」の保障につとめる。

(3)一人ひとりの発達に応じた切れ目のない支援と共生の視点

予測困難な社会情勢の変化の中で、子ども自身がどのように生きていくかを考える上で、子どもの権利意識を醸成していくことは欠かせない視点であり、できるだけ早い段階から子ども一人ひとりの発達に応じた支援を行い、子どものライフステージを通じた切れ目のない支援を進めていく。

また、様々な背景を持つ子どもが共生し、自分だけでなく他者も尊重し、一人ひとりの個性をお互いに認め合いながら育っていける環境を推進する。

(4)支援を必要とする対象につながるための情報提供や居場所の視点

子ども・若者・子育て家庭が、それぞれ必要とする情報を得られるよう、情報提供の時期や方法などを工夫する。特に、困難を有する子ども・若者・子育て家庭は、自ら支援の場に出向くことができない場合があることに留意し、支援する側がアウトリーチすることにより、実効性ある支援がなされるようつとめる。

また、子ども・若者・子育て家庭が持つそれぞれの経験があることを大切にし、誰もが安心できる居場所を持てるよう、より個別の状況に応じた支援を充実させていく。

(5)民間団体との協働と相談・支援ネットワークの充実をはかる視点

多様化・複雑化する問題に対応していくため、支援する側の量的拡充をはかるとともに、質の向上を進める。安定した支援を継続的に行えるよう、専門職の安定的な配置や研修の充実等の必要な援助により、支援する側への支援に取り組む。

地域における見守りや助け合いが求められており、子ども・若者・子育て家庭への支援に多様な地域コミュニティが協働できるとともに、一方的な支援の関係性だけではなく、

双方向に支援を循環させることのできるような仕組みづくりにつとめる。

さらに、それぞれの分野ごとの縦割りの対応を克服し、相談・支援の機関や組織を横につなぎ、包括的な相談・支援ネットワークの強化をはかる取り組みを進める。

Ⅱ めざす姿と成果指標

1 めざすまちの姿

なごや子どもの権利条例の理念に基づき、子どもの権利を保障するとともに、子どもの視点に立ち、子どもとともに最善の方法は何かを考え、子どもの健やかな育ちを社会全体で支援するまちをつくる。

- (1)子どもの権利への理解を深め、子どもの権利を守る文化を育むまち
- (2)子どもの主体性を重視し、子どもの幸福感を大切にするまち
- (3)子どもの特性などを考慮しながら、子どもの成長を支えるまち
- (4)子どもと関わり育てることに喜びを感じられるまち

2 めざす姿

対 象	め ざ す 姿
子 ども	安心して健やかに育ち、他を思いやる心を持ち、豊かな人間性と創造性を備えるとともに、肯定的な自己概念を形成し、物事を考え、自分らしさを表現することができる子ども
若 者	自らの居場所を得て成長するとともに、主体的に社会に参画し、他者と共生しながら、日々の生活において幸せを実感できる若者
子育て家庭	保護者が仕事と家庭生活のバランスを図りながら、子育てをすることに喜びを感じ、子どもが安心して生活し、健やかに成長できる家庭
社 会	子どもの最善の利益を実現するため、社会全体で子ども・若者・子育て家庭を支えることにより、子どもを安心して生み、育てることができるとともに、個人の多様性を認め合う魅力にあふれる社会

3 成果指標

めざす姿にどれだけ近づけたかを評価するため、下記の成果指標を用いて、5年後に達成すべき目標値を設定

対 象	成 果 指 標
子 ども	自分のことを好きと答える子どもの割合
	いろいろなことに積極的に挑戦できる子どもの割合
	まわりの子の意見を大切にしながらも、自分の意見を言える子どもの割合
	今の生活に満足している子どもの割合
若 者	ほっとできる場所、居心地のよい場所がある若者の割合
	5年後の自分に幸せなイメージを持っている若者の割合
	他の人に必要とされていると感じる若者の割合
	社会のために役に立ちたいと思う若者の割合
子育て家庭	保護者が子育てを通じて幸せを感じた割合
	子育てに関する悩みや困りごとを相談する相手や場所がある保護者の割合
	仕事と家庭生活のバランスに不満のある父親の割合
	仕事と家庭生活のバランスに不満のある母親の割合
社 会	子どもにとって大切な権利が保障されていると感じる子どもと子育て家庭の割合
	子ども・子育てに関わる活動に参加したことのある市民の割合
	地域の人が子育てを温かく見守ってくれていると感じる子育て家庭の割合
	名古屋市の子ども・子育て支援策に満足していない子育て家庭の割合

Ⅲ 現状と課題

1 現状

(1)子ども

- (例) ・体験や交流機会の減少
- ・不登校児童生徒数の増加 等

(2)若者

- (例) ・居場所のない若者の存在
- ・結婚や出産の希望の低下 等

(3)子ども・若者

- (例) ・増加傾向にある児童生徒の自殺者数 等

(4)子育て家庭

- (例) ・就労している母親の増加
- ・経済的な支援に満足しない保護者の増加
- ・地域で孤立する保護者の増加 等

(5)社会

- (例) ・子どもを取り巻く環境に関心のある市民割合の減少 等

2 課題

(1)子ども

①体験・交流の場や機会の提供

少子化や家庭環境の多様化等により、体験活動の場や交流の機会が減少傾向であったところに、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う移動制限などにより、減少傾向に拍車がかかった。体験や交流は子どもの社会性を育み、自己肯定感を高めるために重要であり、多様な体験・交流の場や機会を提供することが求められる。

②不登校児童生徒への対応

市立小学校・中学校での不登校児童生徒数が増加している。この背景には、長期化する新型コロナ禍の影響による生活リズムの乱れや交友関係が築きにくかったことなども考えられる。一方で、新型コロナ禍では子どものインターネット使用時間が増加するとともに、学びの場においても急速に ICT 化が進められた。様々な理由で学校に通えていないなどの子どもの個々の状況に応じた学びや居場所を確保するため、インターネットの活用も含めた多様な支援を進めていく必要がある。

(2)若者

①居場所の提供

多くの居場所を持つことは、若者の自己肯定感や援助希求力にも関わる重要な要素であるが、地域のつながりの希薄化や少子化の進展、新型コロナ禍の接触制限などの影響により、若者が居場所を持つことが困難になった。価値観も多様化する中で、物理

的な場所のみならず、遊びや体験活動、インターネット空間も含め、多様なニーズに応じた多様な居場所が求められる。

②将来への希望をかなえる支援

若者が結婚や妊娠・出産、子育て、仕事を含めて自らの将来を見通し希望を抱くことができるような取り組みが求められている。また、結婚や子どもを持つことを希望する若者が、希望するタイミングで、その希望をかなえられるような支援が求められる。さらに、若者がどのような選択をしても、社会全体で応援する機運の醸成が必要である。

(3)子ども・若者

○子ども・若者の自殺対策

子ども・若者の自殺者数が増加傾向にあり、危機的な状況であると言える。自殺リスクの早期発見や、様々な手段を用いた相談支援など、総合的な取り組みが重要である。また、子どもや若者が抱える困難や課題は、多様な要因が複合的に重なり合い、様々な形で表出するものであることから、表出している課題を早期に把握し適切な支援につなげるとともに、その課題の背景にある困難を解消する重層的な支援が求められる。

(4)子育て家庭

①ワーク・ライフ・バランスの確保

就労している母親の増加や出産前後で仕事を継続した母親の増加の一方で、依然として、家事・育児を主に担っているのが母親である割合が高いことから、仕事と家庭生活の両立が可能な職場環境の整備を進めるとともに、家庭における家事・育児の役割分担が性別によって偏ることがないよう、子育て家庭や社会全体を含めた意識醸成に取り組むことが重要である。

②経済的な支援

子育てにかかる経済的な負担を感じる子育て家庭を支援するとともに、物価上昇や教育費負担の増加などの社会情勢の変化による子育てへの影響を軽減するため、柔軟な経済的支援の取り組みが求められる。また、家庭の経済的な状況により、子どもの今や将来の選択が狭められることのないよう、子どもへの経験や機会の提供も含めた支援が必要である。

③子育ての孤立感の解消

共働き家庭やひとり親家庭の増加、新型コロナ禍での接触制限や各種施設の利用制限などを経て、子育て家庭の孤立感が深まっている。身近な相談相手がいないまま、悩みや困りごとを抱え込むことで深刻化する恐れがある。子育てする方の孤立の解消に向け、子育て家庭が必要とする支援や関わりを地域で適切に提供できる仕組みづくりを進める必要がある。

(5)社会

○子ども・若者・子育て家庭を応援する社会づくり

子どもを取り巻く環境に関心のある市民の割合は減少しているが、子どもや若者の

権利を保障し、誰一人取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押しするためには、子ども・若者や子育て家庭を応援する社会の機運の醸成が重要である。さらに、地域、民間等に子ども・子育て支援に積極的に関わってもらうために、地域全体で子育てをするという意識を醸成することも必要である。

IV 施策・事業

1 施策

「なごや子ども・子育てわくわくプラン 2024」の施策体系(下表)をもとに、現状と課題を踏まえ、今後検討

施 策	
(1)	子どもの権利を守り生かすことへの支援
(2)	子どもの健康の支援
(3)	居場所と安全の支援
(4)	学びの支援
(5)	多様な交流と体験の支援
(6)	子ども・親総合支援
(7)	安心して子どもを生み、親として成長することへの支援
(8)	経済的負担の軽減
(9)	地域全体での子育て支援
(10)	子どもや子育て家庭が快適で安全に過ごせる環境づくり
(11)	多様な働き方に対応できる環境整備の促進
(12)	質の高い乳幼児期の教育・保育の総合的な提供
(13)	社会的自立に困難を有する子ども・若者への総合的な支援
(14)	児童虐待への対応
(15)	ひとり親家庭の子どもとその家庭への支援
(16)	いじめなどの未然防止と早期発見・解決への対応
(17)	社会的養育が必要な子どもへの支援
(18)	障害や発達に遅れなどのある子どもとその家庭への支援
(19)	外国につながる子どもとその家庭への支援
(20)	子どもの将来が生まれ育った環境に左右されないための貧困対策の推進

2 事業

施策のもとに、施策を推進する事業を位置づけ

3 進捗管理

計画の実施状況等について、なごや子ども・子育て支援協議会の意見を聴くとともに、子どもを含めた市民の意見を聴き、それらの意見を総合計画等に反映させるよう努める

V 子ども・子育て支援事業計画

1 子ども・子育て支援事業計画の対象

妊娠期から乳幼児期を経て 18 歳に達する日以後の最初の 3 月 31 日までの間にある子ども及びその保護者

2 基本的な考え方と事業

(1)「量の見込み」算出の基本的な考え方

こども家庭庁より発出された「第三期市町村子ども・子育て支援事業計画における『量の見込み』の算出等の考え方」を基本として、子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査の結果及び利用実態等を踏まえて量を見込む

(2)量の見込み及び提供体制の確保の内容

子ども・子育て支援法で規定される以下の事業について、量の見込み及び確保策を掲載。新規事業や各事業の制度変更等については、国の動向を踏まえ検討。

	事業名
【1】	教育・保育施設及び地域型保育事業
【2-1】	利用者支援事業(基本型:エリア支援保育所事業)
【2-2】	利用者支援事業(特定型:保育案内人の配置)
【2-3】	利用者支援事業(母子保健型:子育て総合相談窓口(子育て世代包括支援センター))
【3】	時間外保育事業(延長保育事業)
【4】	実費徴収に係る補足給付事業
【5-1】	多様な事業者の参入促進・能力活用事業(新規参入施設等への巡回支援)
【5-2】	多様な事業者の参入促進・能力活用事業(認定こども園特別支援教育・保育事業)
【5-3】	多様な事業者の参入促進・能力活用事業(地域における小学校就学前の子どもを対象とした多様な集団活動事業の利用支援)
【6】	放課後児童健全育成事業(トワイライトルーム、留守家庭児童健全育成事業)
【7】	子育て短期支援事業(ショートステイ事業)
【8】	乳児家庭全戸訪問事業(新生児乳児等訪問指導)
【9-1】	養育支援訪問事業(特定妊婦訪問支援事業)
【9-2】	養育支援訪問事業(新生児乳児等訪問指導)
【10】	地域子育て支援拠点事業(子育て応援拠点事業、地域子育て支援拠点事業等)
【11-1】	幼稚園における預かり保育事業(一時預かり事業(幼稚園型)、私立幼稚園における子育て支援事業、幼稚園心の教育推進プラン)
【11-2】	一時預かり事業(一時保育事業、のびのび子育てサポート事業、子育て応援拠点事業)
【12】	病児保育事業(病児・病後児デイケア事業)
【13】	妊婦健康診査
【14-1】	家庭支援事業(子育て世帯訪問支援事業)
【14-2】	家庭支援事業(親子関係形成支援事業)

3 進捗管理

「IV施策・事業 3進捗管理」に準じて実施

各種調査結果の概要

参考2-1 定性調査報告書

参考2-2 子ども・若者・子育て家庭意識・生活実態調査
(令和5年7月実施)

参考2-3 ひとり親世帯等実態調査
(令和5年7～9月実施)

定性調査報告書

区 分		対 象	内 容	頁
イベント等におけるアンケート	①なごや子ども・若者わくわくフェスタ	来場者 (主に小中学生)	子どもの権利の中で「特に大切だと思うもの」について	1
	②ファミリーデーなごや	来場者 (主に小学生)		7
	③ひとり親家庭向けイベント	参加者 (小1～中3)		13
	④なごっちワークショップ	参加者 (小5～中3)	困っていること、相談先について	19
	⑤高校生まちづくりプロジェクト	参加者(高校生)	子ども・若者の意見表明に関する考えについて	27
	⑥愛知学院大学法学部「法実務概論Ⅱ」	受講生(大3・4)	若者の意見表明に関する考え方について	33
	⑦すこやかフェスタ	来場者(保護者)	名古屋の子育てしやすさについて	39
⑧なごっちサミット		参加者 (小1～中3)	子どもの権利が守られるまちについて考え、意見表明	47
⑨ステップアップルーム等における若者からのヒアリング調査		北部ステップアップルーム及びなごや若者サポートステーション利用者	自立に困難感を有る若者から、現状や必要な支援などについて意見聴取	53
⑩名古屋市立大学生による事業利用者及び支援者ヒアリング		中学生の学習支援事業の利用者及び支援者	名古屋市立大学「地域連携参加型学習」受講生が事業利用者や支援者を対象にヒアリング	65
⑪子育て世代の座談会	座談会	0～18歳の子どもを育てる保護者利用者	「自分のことが好きと答える子どもを育てるには」をテーマに、市の子育て支援の課題等について意見交換	69
	子育て家庭アンケート	子ども・子育て支援センター	座談会に先駆け、出産前に不安だったこと、子育ての状況などについてアンケート	

なごや子ども・若者わくわくフェスタにおけるアンケート調査 報告書

1 実施概要

目 的： 子どもたちが特に大切にしたい権利、権利を守るために大人にしてほしいことなどをアンケート形式で聞き、子どもの考える「子どもの権利」について把握し、子どもに関する総合計画策定の参考とするもの。

実施場所： イオンモールナゴヤドーム前（なごや子ども・若者わくわくフェスタ）

実施日時： 令和5年7月25日(火) 10時～15時

対 象 者： イベントに来場した子ども

回答者数： 131人

2 アンケート項目

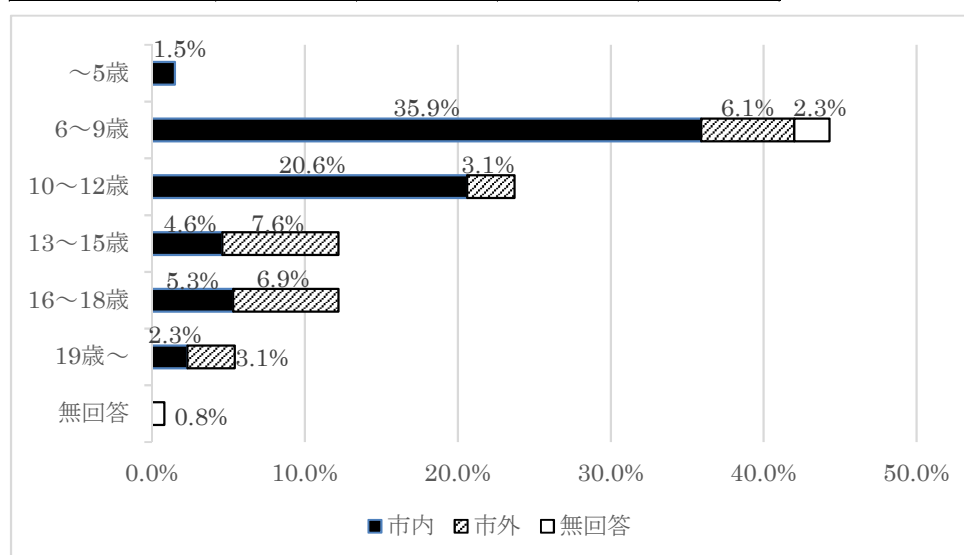
- (1) 回答者の年齢
- (2) 回答者の住所（名古屋市内、名古屋市外の別）
- (3) なごや子どもの権利条例を知っているか
- (4) 子どもにとって特に大切だと思うこと
- (5) (4) を大切にするために、大人にしてほしいこと

3 アンケート結果

(1) 年齢、居住地（名古屋市内、名古屋市の別）

- ・回答者の平均年齢は 10.8 歳
- ・回答者の多かった年齢は 6～9 歳
- ・回答した子どものうち、市内在住者は 92 名 (70.2%)

		居住地			計
		市内	市外	無回答	
年 齢 区 分	～5歳	2	0	0	2
	6～9歳	47	8	3	58
	10～12歳	27	4	0	31
	13～15歳	6	10	0	16
	16～18歳	7	9	0	16
	19歳～	3	4	0	7
	無回答	0	0	1	1
計		92	35	4	131



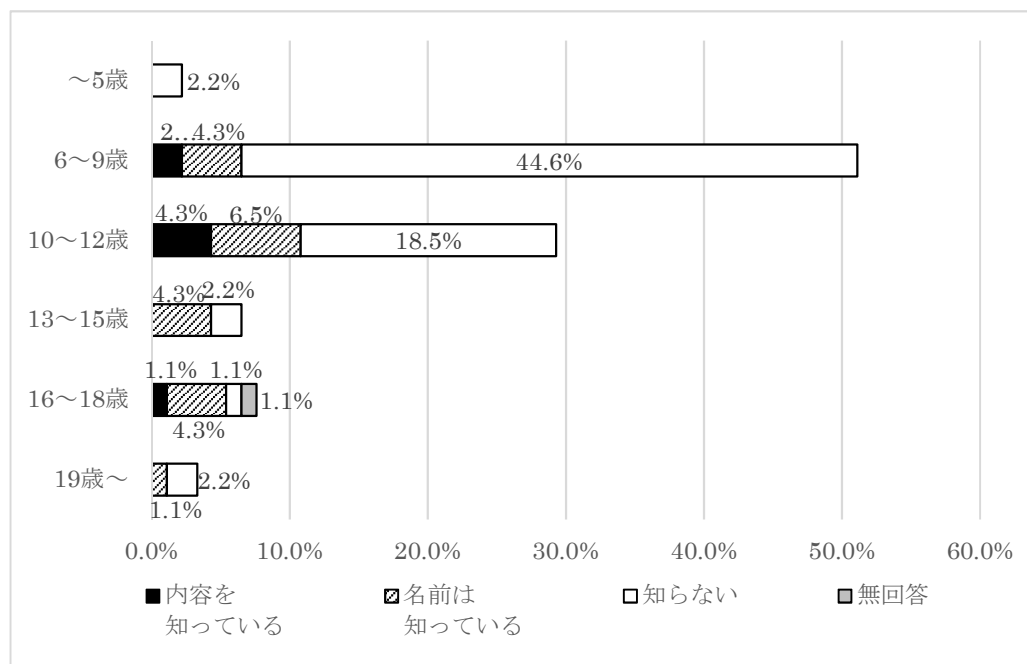
N=131

(2) 子どもの権利について

①「なごや子どもの権利条例」を知っているか＜市内居住者のみ＞

- ・「内容を知っている」と答えた子どもが 7人(7.6%)
- ・「名前は知っているが、内容は知らない」と答えた子どもが 19人(20.5%)
- ・「知らない」と答えた子どもが 65人(70.8%)

		子どもの権利条例の認知度				計
		内容を 知っている	名前は 知っている	知らない	無回答	
年 齢 区 分	～5歳	0	0	2	0	2
	6～9歳	2	4	41	0	47
	10～12歳	4	6	17	0	27
	13～15歳	0	4	2	0	6
	16～18歳	1	4	1	1	7
	19歳～	0	1	2	0	3
計		7	19	65	1	92



N=92

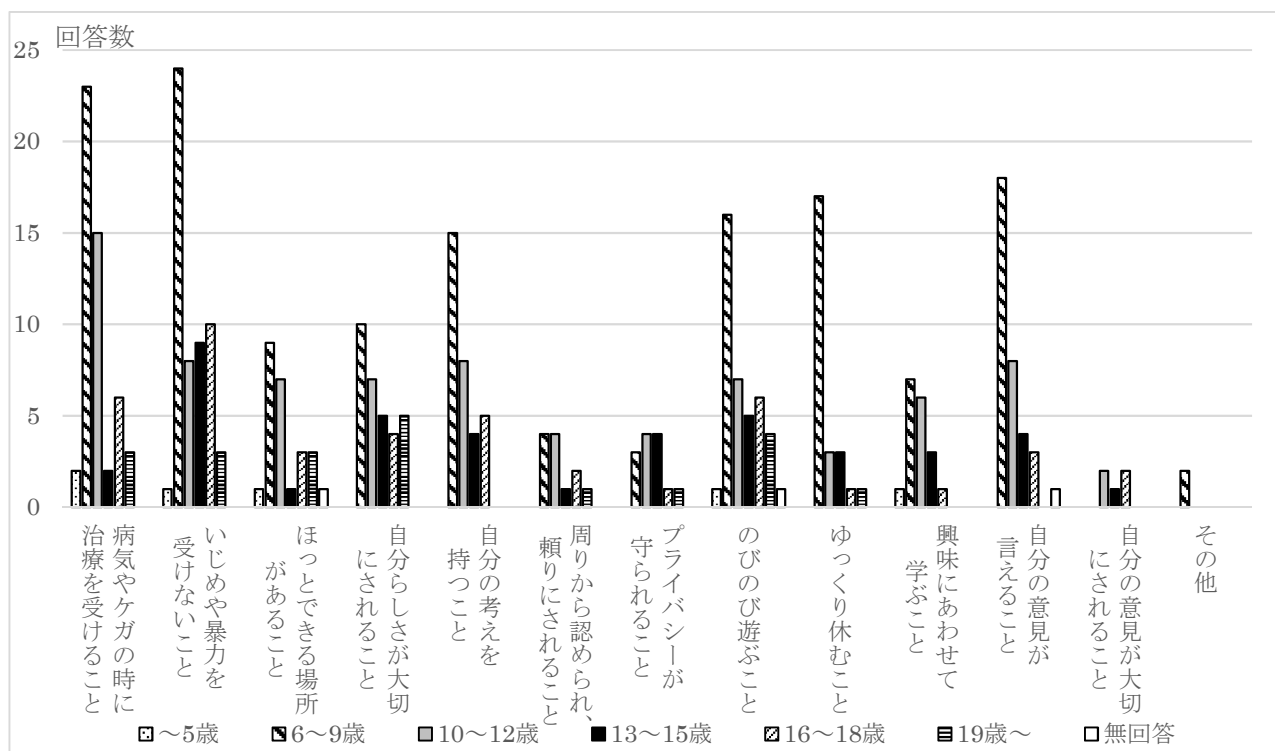
②子どもにとって特に大切だと思うことについて（3つまで選択）

- ・「いじめや暴力を受けないこと」を選んだ子どもが 55人(42.0%)
- ・「病気やケガの時に治療を受けること」を選んだ子どもが 51人(38.9%)
- ・「のびのび遊ぶこと」を選んだ子どもが 40人(30.5%)

	回答数	割合
いじめや暴力を受けないこと	55	42.0%
病気やケガの時に治療を受けること	51	38.9%
のびのび遊ぶこと	40	30.5%
自分の意見が言えること	34	26.0%
自分の考えを持つこと	32	24.4%
自分らしさが大切にされること	31	23.7%
ほっとできる場所があること	25	19.1%
ゆっくり休むこと	25	19.1%
興味にあわせて学ぶこと	18	13.7%
プライバシーが守られること	13	9.9%
周りから認められ、頼りにされること	12	9.2%
自分の意見が大切にされること	5	3.8%
その他	2	1.5%

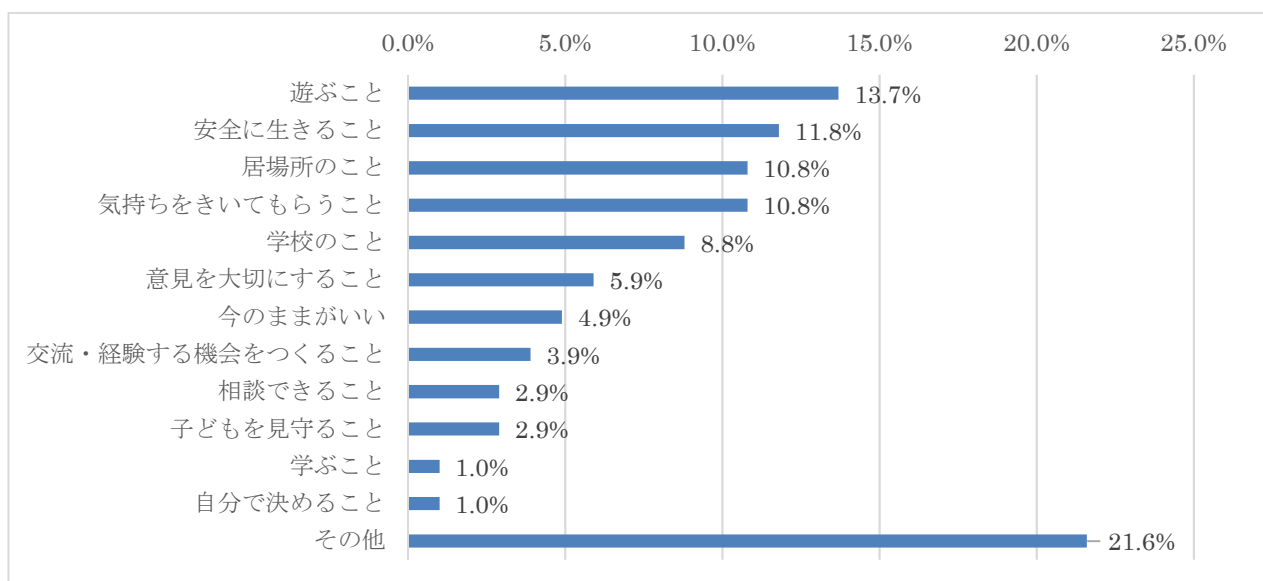
(n=131)

【その他の記述】
 あいさつすること／全部／いのち／元気、希望、ゆめ／人をたいせつにする／
 1人でも簡単に相談ができる場所が身近にあること など



③大人にしてほしいことについて

- ・「遊ぶこと」について答えた子どもが **13.7%**
(例：もっと遊べる時間をつくってほしい、勉強ばかりではなく少しは遊びたい)
- ・「安全に生きること」について答えた子どもが **11.8%**
(例：すぐに病院につれていってほしい、いじめを早く見つけて対処してほしい)
- ・「居場所」について答えた子どもが **10.8%**
(例：あんしんできるばしょを作ってほしい、子どもだけで行ける所を増やしてほしい)
- ・「気持ちをきいてもらうこと」について答えた子どもが **10.8%**
(例：自分の意見がまとまるまでゆっくり聞いてほしい、おはなしをきいてほしい)
- ・その他の意見として「もっとトイレをきれいにしてほしい」「物のねだんを安くしてほしい」等の意見があった



【調査票】

なごやし 名古屋市からのアンケート

あなたのことを教えてください

ねんれい 年齢	さい 歳	じゅうしょ 住所	なごやしな 名古屋市内	しがい 市外
------------	---------	-------------	----------------	-----------

1 なごや子どもの権利条 例 について

なごや子どもの権利条 例を知っていますか。下の1～3から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|-------------|
| 1 ないよう
内容を知っている | 3 し
知らない |
| 2 なまえ
名前は知っているが、内容は知らない | |

2 子どもにとって大切だと思ふこと

子どもにとって特に大切だと思ふことは何ですか。下の1～13から3つまで選んで、番号に○をつけてください。

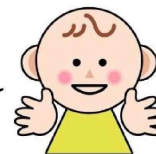
- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1 びょうき
病気やケガの時に治療を受けること | 8 のびのびあそ
遊ぶこと |
| 2 いじめやぼうりょく
暴力を受けないこと | 9 ゆっくりやす
休むこと |
| 3 ほっとできるばしょ
場所があること | 10 きょうみ
興味にあわせてまな
学ぶこと |
| 4 じぶん
自分らしさがたいせつ
大切にされること | 11 じぶん
自分の意見がいけん
言えること |
| 5 じぶん
自分の考えを持つこと | 12 じぶん
自分の意見がたいせつ
大切にされること |
| 6 まわり
周りに認められ、たよ
頼りにされること | 13 その他 |
| 7 プライバシーがまも
守られること | |

3 大人にしてほしいこと

2で選んだことを大切にするために、大人にしてほしいことは何ですか。どんなことでもいいので教えてください。

(例: 学校と家以外に過ごせる場所がほしい、自分の意見を伝える手伝いをしてほしい)

お答えいただき、ありがとうございました。
アンケートはこれで終わりです。
記入が終わったら、近くの職員へ渡してください。



なごや子どもの権利条 例 マスコットキャラクター なごつち

ファミリーデーなごやにおけるアンケート調査 報告書

1 実施概要

目 的： 子どもたちが特に大切にしたい権利、権利を守るために大人にしてほしいことなどをアンケート形式で聞き、子どもの考える「子どもの権利」について把握し、子どもに関する総合計画策定の参考とするもの。

実施場所： 旧御園小学校

実施日時： 令和6年1月27日(土) 10時～15時30分

対 象 者： ファミリーデーなごや 市青少年育成市民会議ブースに来場した子ども

回答者数： 72人

2 アンケート項目

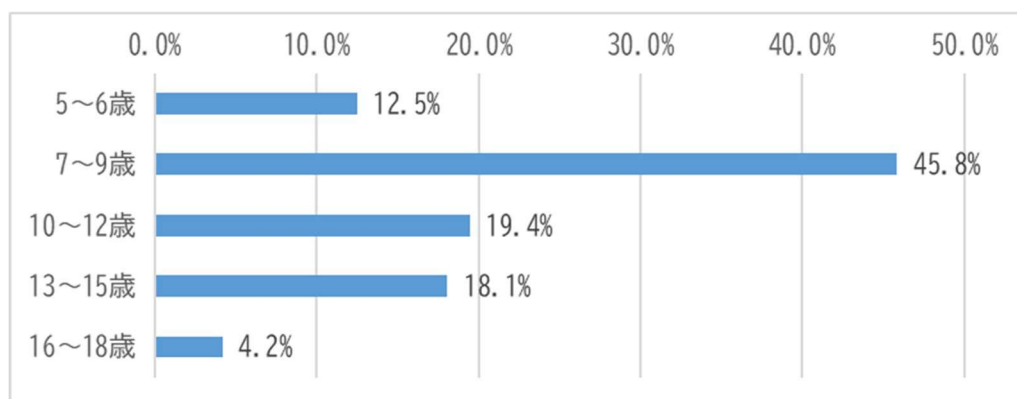
- (1) 回答者の年齢
- (2) なごや子どもの権利条例を知っているか
- (3) 子どもにとって特に大切だと思うこと
- (4) (3) を大切にするために、大人にしてほしいこと

3 アンケート結果

(1) 年齢

- ・回答者の平均年齢は **9.7 歳**
- ・回答者の多かった年齢は 7～9 歳

年齢区分	回答者数
5～6歳	9
7～9歳	33
10～12歳	14
13～15歳	13
16～18歳	3
計	72

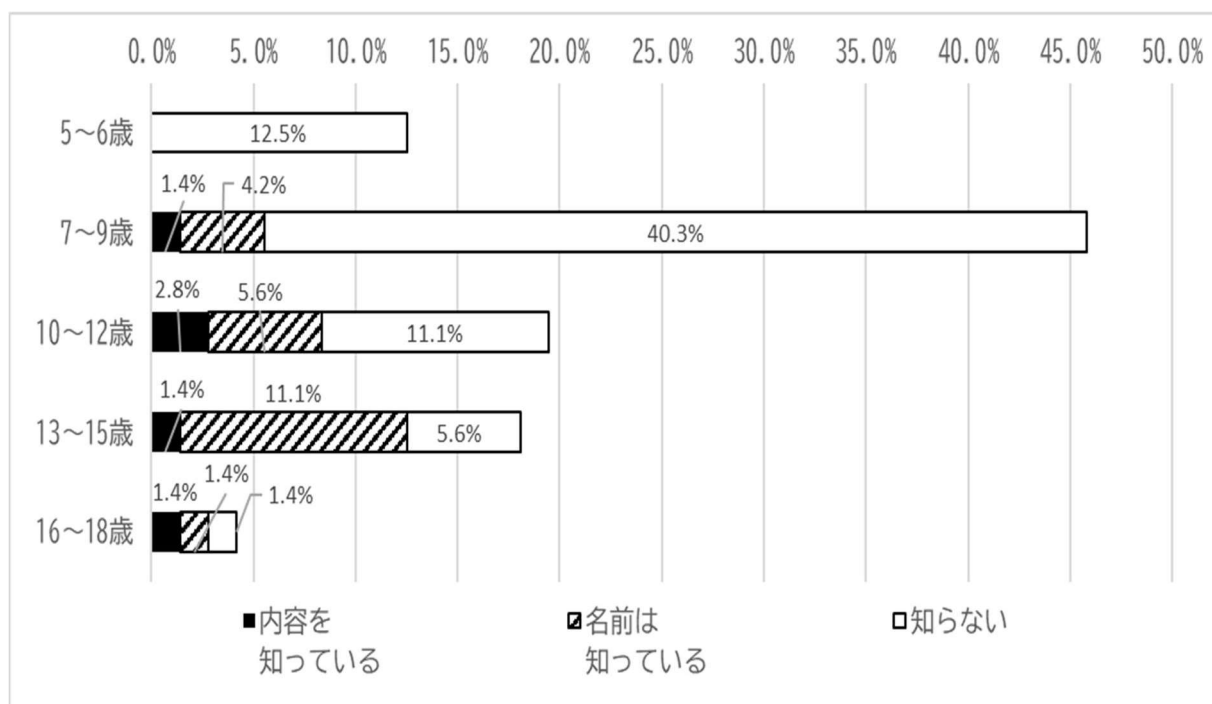


(2) 子どもの権利について

①「なごや子どもの権利条例」を知っているか

- ・「内容を知っている」と答えた子どもが 5人(6.9%)
- ・「名前は知っているが、内容は知らない」と答えた子どもが 16人(22.2%)
- ・「知らない」と答えた子どもが 51人(70.8%)

年齢区分	子どもの権利条例の認知度				計
	内容を 知っている	名前は 知っている	知らない	無回答	
5～6歳	0	0	9	0	9
7～9歳	1	3	29	0	33
10～12歳	2	4	8	0	14
13～15歳	1	8	4	0	13
16～18歳	1	1	1	0	3
計	5	16	51	0	72



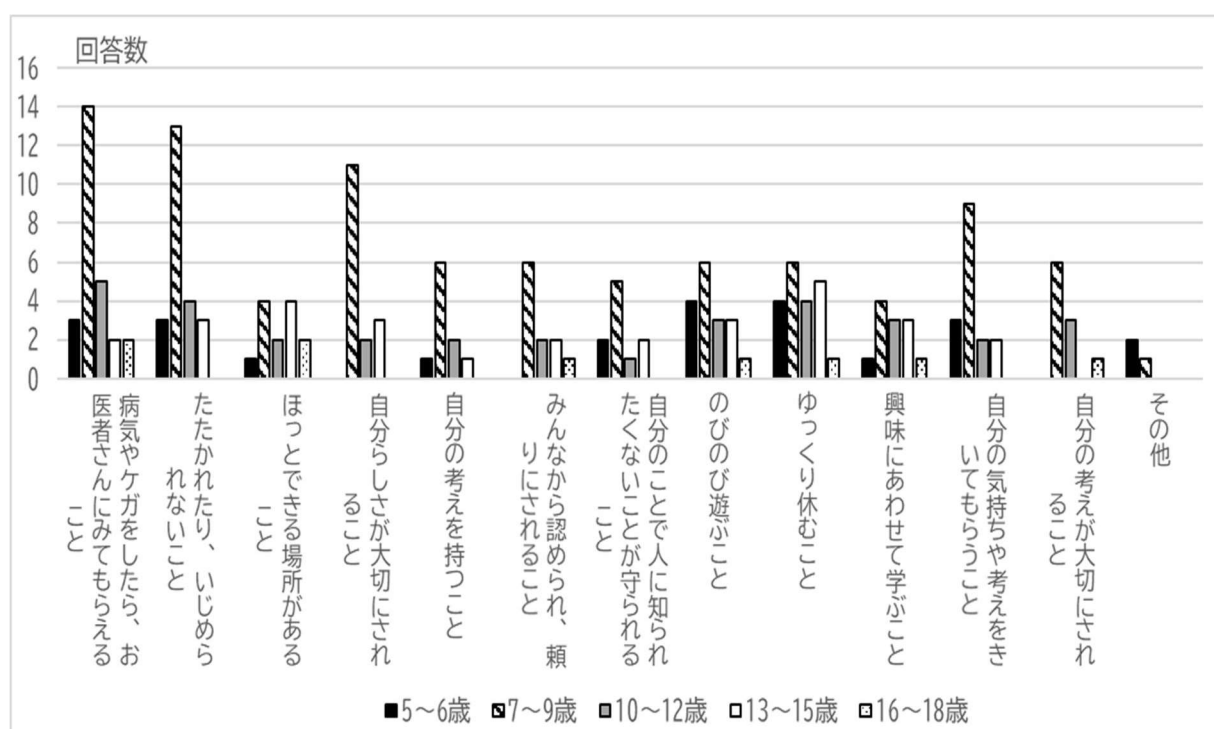
②子どもにとって特に大切だと思うことについて（3つまで選択）

- ・「病気やケガの時に医者さんにみてもらえること」を選んだ子どもが 26人(36.1%)
- ・「たたかれたり、いじめられないこと」を選んだ子どもが 23人(31.9%)
- ・「ゆっくり休むこと」を選んだ子どもが 20人(27.8%)

	回答数	割合
病気やケガをしたら、お医者さんにみてもらえること	26	36.1%
たたかれたり、いじめられないこと	23	31.9%
ほっとできる場所があること	13	18.1%
自分らしさが大切にされること	16	22.2%
自分の考えを持つこと	10	13.9%
みんなから認められ、頼りにされること	11	15.3%
自分のことで人に知られたくないことが守られること	10	13.9%
のびのび遊ぶこと	17	23.6%
ゆっくり休むこと	20	27.8%
興味にあわせて学ぶこと	12	16.7%
自分の気持ちや考えをきいてもらうこと	16	22.2%
自分の考えが大切にされること	10	13.9%
その他	3	4.2%

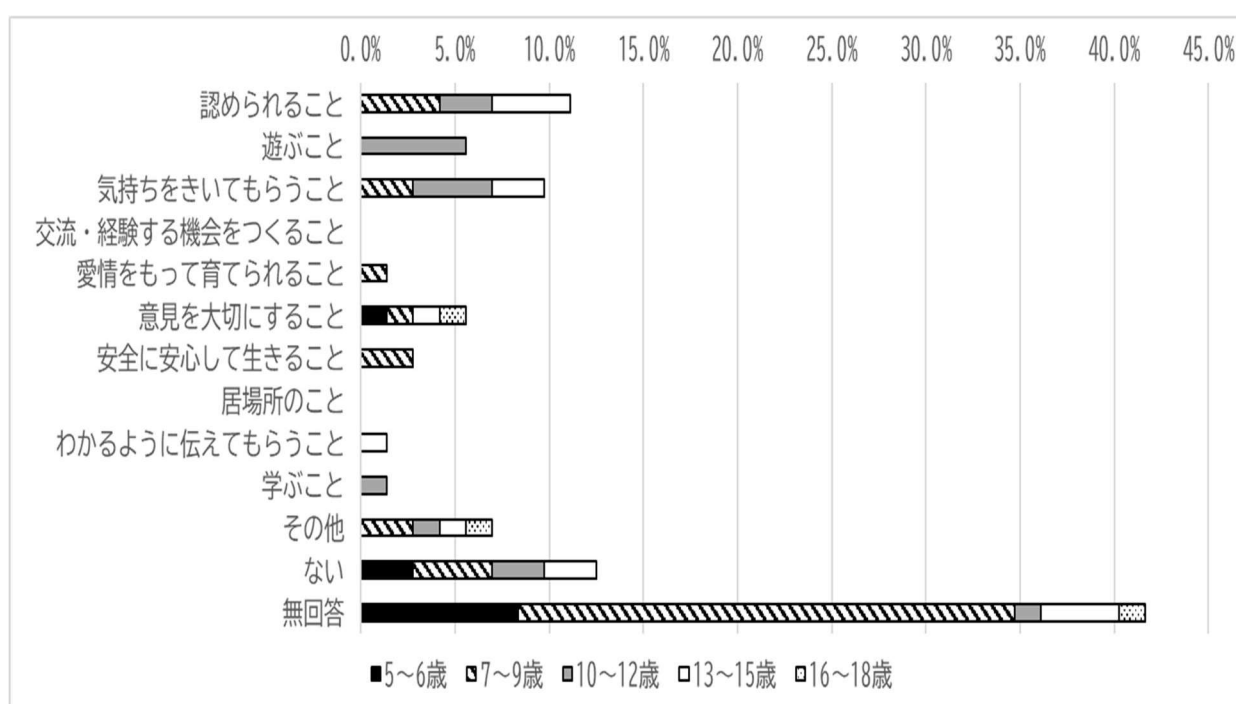
(n=72)

【その他の記述】いのち／うんどうすること



③大人にしてほしいことについて

- ・「認められること」について答えた子どもが 11.1%
(例：がんばったときほめてほしい、勉強をしたらほめてほしい)
- ・「気持ちをきいてもらうこと」について答えた子どもが 9.7%
(例：ゆっくり話をきいてほしい、困ったことを聞いてほしい)
- ・「遊ぶこと」について答えた子どもが 5.6%
(例：いっしょにあそんでほしい、ゲームをする時間をふやしてほしい)
- ・「意見を大切にすること」について答えた子どもが 5.6%
(例：みんなのいけんをきくこと、子どもも他の大人などのように自由にさせてほしい)
- ・「その他」の意見として「おうちのひとにけんかをしてほしくない」「なにかあってもしつこくきかないでほしい」等の意見があった



【調査票】

名古屋市からのアンケート【子ども用】

あなたのねんれい

さい

1 なごや子どもの権利条例について

なごや子どもの権利条例を知っていますか。下の1～3から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- 1 知っている
- 2 名前を聞いたことはあるが、内容は知らない
- 3 知らない



なごっち
なごや子どもの権利条例
マスコットキャラクター

2 子どもにとって大切なこと

あなたが特に大切なと思うことは何ですか。下の1～13から3つまで選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 病気やケガをしたら、お医者さんにみてもらえること | 7 自分のことで人に知られたくないことが守られること |
| 2 たたかれたり、いじめられないこと | 8 のびのび遊ぶこと |
| 3 ほっとできる場所があること | 9 ゆっくり休むこと |
| 4 自分らしさが大切にされること | 10 興味にあわせて学ぶこと |
| 5 自分の考えを持つこと | 11 自分の気持ちや考えをきいてもらうこと |
| 6 みんなから認められ、頼りにされること | 12 自分の考えが大切にされること |
| | 13 その他 [] |

3 大人にしてほしいこと

子どもが幸せでいるために、大人(おうちの人、学校の先生、近所の人など)にしてほしいことは何ですか。どんなことでもいいので教えてください。

(例: ゆっくり話をきいてほしい、がんばったときはほめてほしい)



アンケートはこれで終わりです。
お答えいただき、ありがとうございました。

ひとり親家庭の子ども向けイベントにおけるアンケート調査 報告書

1 実施概要

(1) 目的

子どもたちが特に大切にしたい権利、権利を守るために大人にしてほしいことなどをアンケート形式で聞き、子どもの考える「子どもの権利」について把握し、子どもに関する総合計画策定の参考とするもの。

(2) 実施日・対象者等

	実施日	イベント内容	対象者	回答数
①	令和5年8月23日	ライフプラン講習	小1～小3	11
②	令和5年8月27日	ライフプラン講習	小4～小6	8
③	令和5年8月30日	保育士体験	小3～中3	10
④	令和5年10月14日	親子サッカー教室	小3～小6	25
⑤	令和5年11月18日	野球体験教室	小1～小4	25
計				79

※ 対象者はいずれも市内在住のひとり親家庭の子ども

2 アンケート項目

(1) 回答者の年齢

(2) なごや子どもの権利条例を知っているか

(3) 子どもにとって特に大切だと思うこと

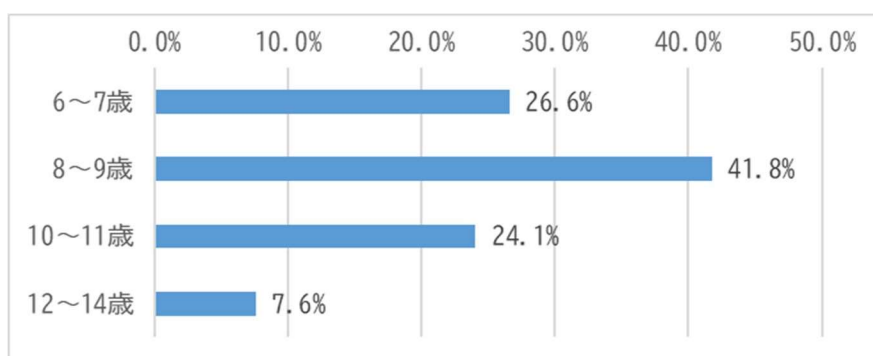
(4) (3) を大切にするために、大人にしてほしいこと

3 アンケート結果

(1) 年齢

- ・回答者の平均年齢は 8.9 歳
- ・回答者の多かった年齢は 7～10 歳

年齢区分	回答者数
6～7歳	21
8～9歳	33
10～11歳	19
12～14歳	6
計	79

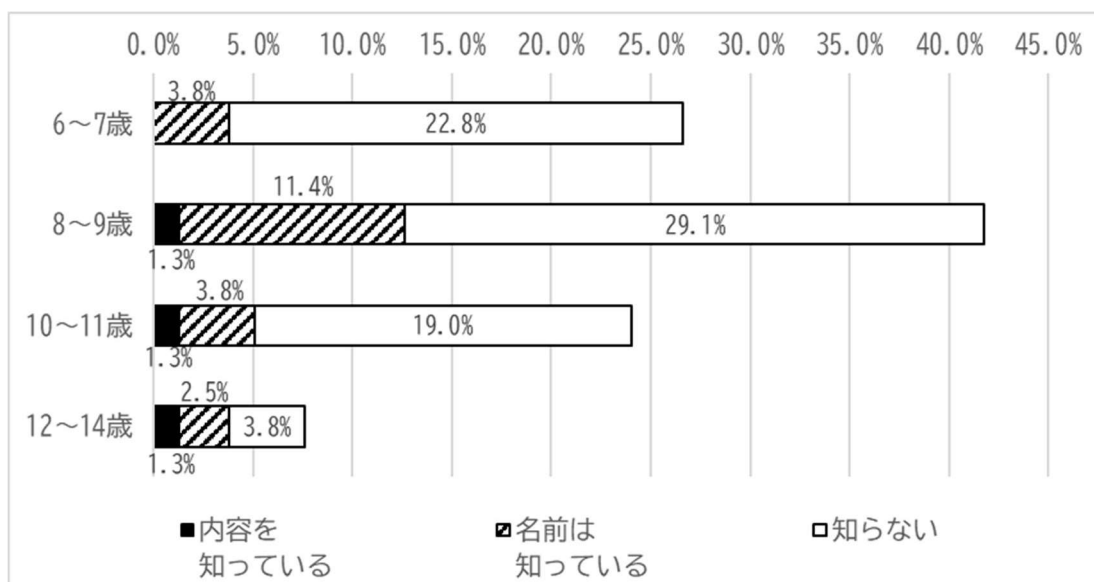


(2) 子どもの権利について

①「なごや子どもの権利条例」を知っているか

- ・「内容を知っている」と答えた子どもが 3人 (3.8%)
- ・「名前は知っているが、内容は知らない」と答えた子どもが 17人 (21.5%)
- ・「知らない」と答えた子どもが 59人 (74.7%)

年齢区分	子どもの権利条例の認知度				計
	内容を知っている	名前は知っている	知らない	無回答	
6～7歳	0	3	18	0	21
8～9歳	1	9	23	0	33
10～11歳	1	3	15	0	19
12～14歳	1	2	3	0	6
計	3	17	59	0	79



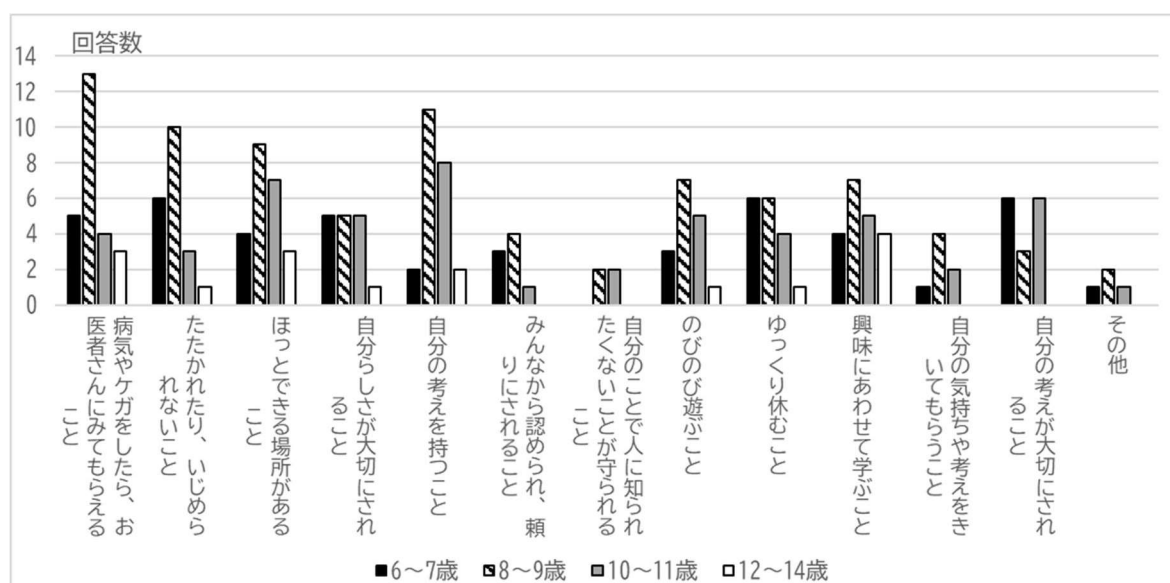
②子どもにとって特に大切だと思うことについて（3つまで選択）

- ・「病気やケガの時に医者にみてもらえること」を選んだ子どもが 25人(31.6%)
- ・「ほっとできる場所があること」を選んだ子どもが 23人(29.1%)
- ・「自分の考えを持つこと」を選んだ子どもが 23人(29.1%)

	回答数	割合
病気やケガをしたら、お医者さんにみてもらえること	25	31.6%
たたかれたり、いじめられないこと	20	25.3%
ほっとできる場所があること	23	29.1%
自分らしさが大切にされること	16	20.3%
自分の考えを持つこと	23	29.1%
みんなから認められ、頼りにされること	8	10.1%
自分のことで人に知られたくないことが守られること	4	5.1%
のびのび遊ぶこと	16	20.3%
ゆっくり休むこと	17	21.5%
興味にあわせて学ぶこと	20	25.3%
自分の気持ちや考えをきいてもらうこと	7	8.9%
自分の考えが大切にされること	15	19.0%
その他	4	5.1%

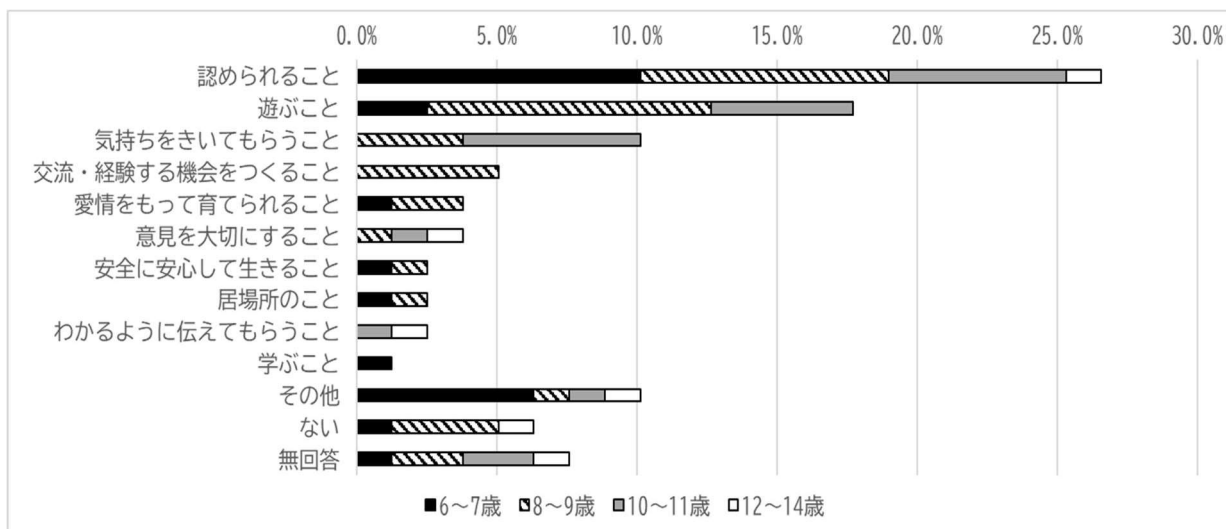
(n=79)

【その他の記述】
 体をたいせつにする／自分の好きなことをすること など



③大人にしてほしいことについて

- ・「認められること」について答えた子どもが **26.6%**
(例：がんばったときはほめてほしい、せいちょうしたねっていつてもらいたい)
- ・「遊ぶこと」について答えた子どもが **17.7%**
(例：もっといっしょにこうやってあそんでほしい、いっぱい遊んでほしい)
- ・「気持ちをきいてもらうこと」について答えた子どもが **10.1%**
(例：自分のきもちやはなしをきちんときいてもらう、ゆっくり話をきいてほしい)
- ・その他の意見として「まちをきれいにしてほしい」「ぜい金をはいしすること」等の意見があった



【調査票】

名古屋市からのアンケート【子ども用】

あなたのねんれい

さい

1 なごや子どもの権利条 例について

なごや子どもの権利条 例を知っていますか。下の1～3から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- 1 知っている
- 2 名前を聞いたことはあるが、内容は知らない
- 3 知らない



なごっち
なごや子どもの権利条 例
マスコットキャラクター

2 子どもにとって大切なこと

あなたが特に大切なこと何ですか。下の1～13から3つまで選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 病気やケガをしたら、お医者さんにみてもらえること | 7 自分のことで人に知られたくないことが守られること |
| 2 たたかれたり、いじめられないこと | 8 のびのび遊ぶこと |
| 3 ほっとできる場所があること | 9 ゆっくり休むこと |
| 4 自分らしさが大切にされること | 10 興味にあわせて学ぶこと |
| 5 自分の考えを持つこと | 11 自分の気持ちや考えをきいてもらうこと |
| 6 みんなから認められ、頼りにされること | 12 自分の考えが大切にされること |
| | 13 その他 [] |

3 大人にしてほしいこと

子どもが幸せでいるために、大人(おうちの人、学校の先生、近所の人など)にしてほしいことは何ですか。どんなことでもいいので教えてください。

(例: ゆっくり話をきいてほしい、がんばったときはほめてほしい)



アンケートはこれで終わりです。
お答えいただき、ありがとうございました。

なごっちフレンズワークショップにおけるアンケート調査 報告書

1 実施概要

目 的： 子どもたちに悩みや困っていること、解決するために周りの人にしてほしいこと、相談方法などをアンケート形式で聞き、子どもの悩みとそれぞれが望む対応方法について把握し、子どもに関する総合計画策定の参考とするもの。

実施場所： 名古屋市青少年交流プラザ（なごっちフレンズワークショップ）

実施日時： 令和5年8月25日（金） 15時30分頃

対 象 者： ワークショップに参加した小学5年～中学2年の子ども

回答者数： 12人

2 アンケート項目

- （1）悩んだり困ったりしていることはあるか
- （2）悩みや困りごとを解決するために、周りの友達や大人にしてほしいこと
- （3）悩みや困りごとを相談しやすい方法
- （4）悩みや困りごとを相談したくない理由
- （5）悩みや困りごとを相談してみようと思うところ

3 アンケート結果

（0）参加者の年齢

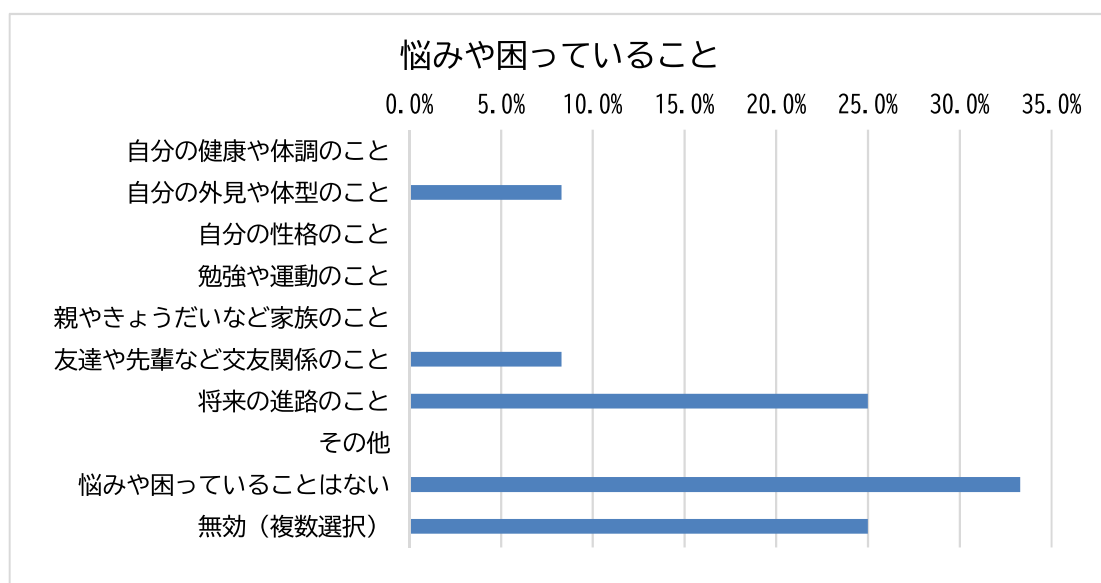
学年	人数
小学5年	3
小学6年	4
中学1年	3
中学2年	2
計	12

(1) 悩みや困っていることの相談方法について

「今、悩んだり困ったりしていることはありますか。」＜1つ選択＞

- ・「悩みや困っていることはない」と答えた子どもが 4人(33.3%)
- ・「将来の進路のこと」と答えた子どもが 3人(25.0%)
- ・「自分の外見や体型のこと」「友達や先輩など交友関係のこと」と答えた子どもがそれぞれ 1人(8.3%)

悩みや困っていること（1つ）	人数	割合
自分の健康や体調のこと	0	0.0%
自分の外見や体型のこと	1	8.3%
自分の性格のこと	0	0.0%
勉強や運動のこと	0	0.0%
親やきょうだいなど家族のこと	0	0.0%
友達や先輩など交友関係のこと	1	8.3%
将来の進路のこと	3	25.0%
その他	0	0.0%
悩みや困っていることはない	4	33.3%
無効（複数選択）	3	25.0%
回答者数	12	100.0%



(2) 悩みや困っていることの解決方法について

「悩んだり困ったりしていることを解決するために、周りの友達や大人などにしてほしいこと・こうなってほしいと思うことはありますか。」＜自由記述＞

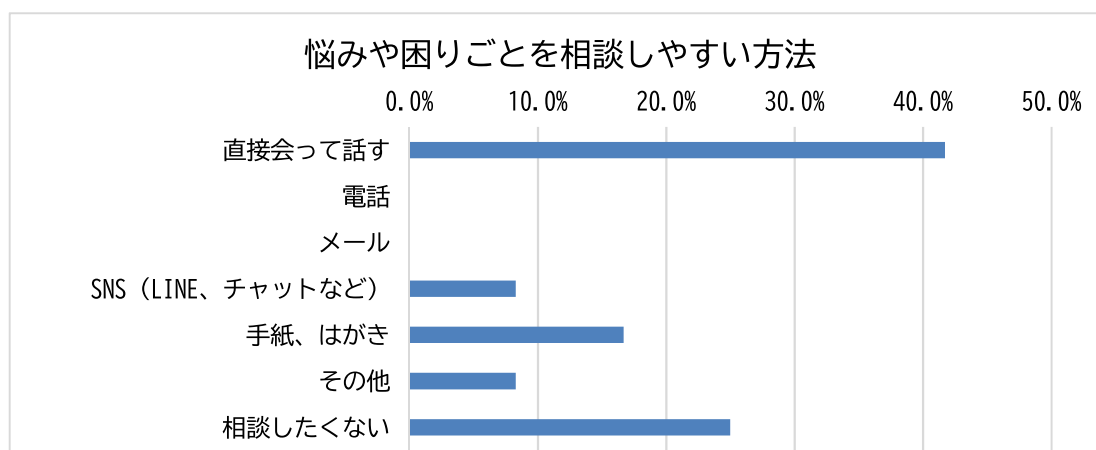
悩みや困りごとを解決するため、周りの人にしてほしいこと【自由記述】
分からないことを教えてほしい。
(生活) いつものまんまでだいじょうぶです！！ (学校) 静かにしてほしい。
特にない。
なし
周りにやってほしいことはない
人が困っていたら すぐ気にかけてほしい。
同じことを考えている人といっしょに集まりたい

(3) 悩みや困っていることの相談方法について

「悩みや困っていることがあるとき、あなたはどのような方法が相談しやすいですか。」＜1つ選択＞

- ・「直接会って話す」と答えた子どもが 5人(41.7%)
- ・「手紙、はがき」と答えた子どもが 2人(16.7%)
- ・「相談したくない」と答えた子どもが 3人(25.0%)

悩みや困りごとの相談方法（1つ）	人数	割合
直接会って話す	5	41.7%
電話	0	0.0%
メール	0	0.0%
SNS（LINE、チャットなど）	1	8.3%
手紙、はがき	2	16.7%
その他	1	8.3%
相談したくない	3	25.0%
回答者数	12	100.0%



(4) 悩みや困っていること相談しない理由について

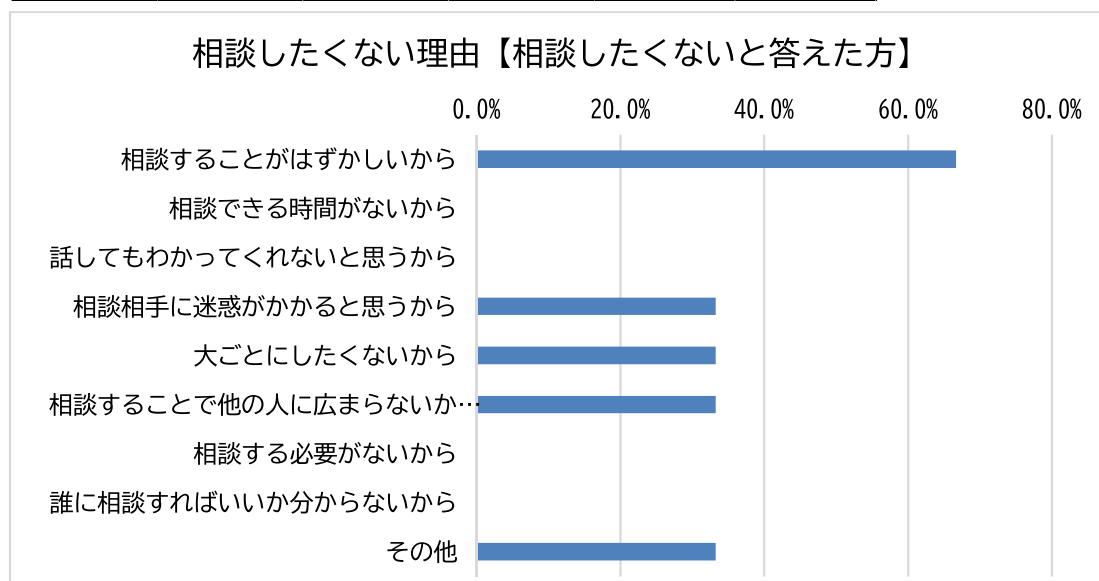
「悩みや困っていることを相談したくない理由は何ですか。」＜すべて選択＞

【(3) で「相談したくない」と答えた方】

「悩みや困っていることを相談したくない理由は何ですか。」＜すべて選択＞

・「相談することがはずかしいから」と答えた子どもが 2人 (66.7%)

相談しない理由 (すべて)	人数	割合
相談することがはずかしいから	2	66.7%
相談できる時間がないから	0	0.0%
話してもわかってくれないと思うから	0	0.0%
相談相手に迷惑がかかると思うから	1	33.3%
大ごとにしたくないから	1	33.3%
相談することで他の人に広まらないか心配だ	1	33.3%
相談する必要があるから	0	0.0%
誰に相談すればいいか分からないから	0	0.0%
その他	1	33.3%
回答者数	3	100.0%

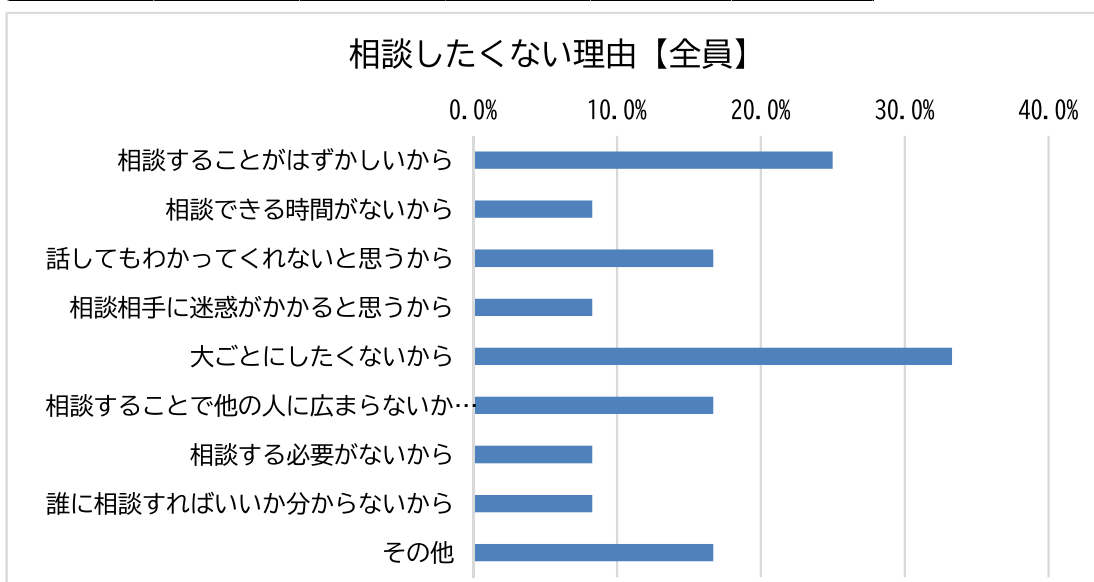


【全員】

※（３）で「相談したくない」と答えていない子どもも含め、全員が（４）に回答しているため、参考に集計する。

- ・「大ごとにしたくないから」と答えた子どもが 4人 (33.3%)
- ・「相談することがはずかしいから」と答えた子どもが 3人 (25.0%)
- ・「話してもわかってくれないと思うから」と答えた子どもが 2人 (16.7%)
- ・「相談することで他の人に広まらないか心配だから」と答えた子どもが 2人 (16.7%)

相談しない理由（すべて）	人数	割合
相談することがはずかしいから	3	25.0%
相談できる時間がないから	1	8.3%
話してもわかってくれないと思うから	2	16.7%
相談相手に迷惑がかかると思うから	1	8.3%
大ごとにしたくないから	4	33.3%
相談することで他の人に広まらないか心配だから	2	16.7%
相談する必要があるから	1	8.3%
誰に相談すればいいか分からないから	1	8.3%
その他	2	16.7%
回答者数	12	100.0%



その他の記述

- ・自分で考えた方が良い結論にたどりつけると思うから
- ・自分で解決したいから

(5) 悩みや困っていることの相談場所について

「悩みや困っていることがあるとき、あなたはどのようなところなら相談してみようと思いますか。」＜自由記述＞

- ・「相談内容が他の人に知られない」という内容を答えた子どもが 3人 (25.0%)
- ・「自分を知らない人に相談したい」という内容を答えた子どもが 2人 (16.7%)
- ・曜日や時間帯を答えた子どもが 2人 (16.7%)

悩みや困っていることの相談場所【自由記述】
学校
兄がうざい
秘密を守ってくれて、土日に行けるところ。
信頼関係が築けるところ
親や友だちに知られないところ
自由（特にない）
特にない。
秘密を守ってくれるところ
何も言わずに聞いてくれるところ
夜に1人で知らん人とちょくせつあってはなしたい
名前とか言わずに相談できるところ

名古屋市からのアンケート

名古屋市では、みんなで子どもを支える、子どもにやさしいまちをめざす計画を作っています。

このアンケートでは、みなさんの悩みや困っていること、その解決方法などをおききし、これからの名古屋のまちを考えていく参考にしたいと思います。

名前は書かなくてよいので、誰が答えたかはわかりません。ご協力よろしくお願いします。

問 1 悩みや困っていることについて

今、悩んだり困ったりしていることはありますか。1～9の中から1つ選んで○を付けてください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 自分の健康や体調のこと | 6. 友達や先輩など交友関係のこと |
| 2. 自分の外見や体型のこと | 7. 将来の進路のこと |
| 3. 自分の性格のこと | 8. その他 |
| 4. 勉強や運動のこと | |
| 5. 親やきょうだいなど家族のこと | 9. 悩みや困っていることはない |

問 2 悩みや困っていることの解決方法について

あなたが悩んだり困ったりしていることを解決するために、周りの友達や大人などにしてほしいこと・こうなってほしいと思うことはありますか。

【困っていることを解決するために周りにやってほしいこと・こうなればいいと思うこと】
(例: 分からないことをやさしく教えてほしい、みんな授業を真面目に聴いてほしい)

裏面に続きます→

問3 悩みや困っていることの相談方法について

悩みや困っていることがあるとき、あなたはどのような方法が相談しやすいですか。1～7の中から1つ選んで○を付けてください。

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1. 直接 ^{ちよくせつ} 会って話す | 5. 手紙、はがき |
| 2. 電話 | 6. その他 [|
| 3. メール | |
| 4. SNS (LINE、チャットなど) | 7. 相談したくない |

問3で「7」を選んだ方は、問4もお答えください。

「1」～「6」を選んだ方は、問5に進んでください。

問4 悩みや困っていることを相談しない理由について

悩みや困っていることを相談したくない理由は何ですか。1～9の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 相談することがはずかしいから
2. 相談できる時間がないから
3. 話してもわかってくれないと思うから
4. 相談相手に迷惑^{めいわく}がかかると思うから
5. 大ごとにしたくないから
6. 相談することで他の人に広まらないか心配だから
7. 相談する必要があるから
8. 誰に相談すればいいか分からないから
9. その他 [

問5 悩みや困っていることの相談場所について

悩みや困っていることがあるとき、あなたはどのようなところなら相談してみようと思いますか。どのようなことでもよいので、自由に書いてください。

(例: 平日の夜に相談できるところ、子ども1人でも行きやすいところ、秘密を守ってくれるところ)

アンケートはこれで終わりです。
お答えいただき、ありがとうございました！

なごや子どもの権利^{はみりけんりつ}条例 マスコットキャラクター なごっち



高校生まちづくりプロジェクトにおけるアンケート調査 報告書

1 実施概要

目 的： 市の情報の取得方法や意見表明の方法などをアンケート形式で聞き、高校生の意見表明に対する考え方などについて把握し、子どもに関する総合計画策定の参考とするもの。

実施場所： 名古屋市青少年交流プラザ（高校生まちづくりプロジェクト ※）

実施日時： 令和5年9月2日(土)にアンケートの協力依頼

Logo フォーム回答期間は 9 月 2 日(土)～9 月 10 日(日)

対 象 者： プロジェクトに参加した高校生世代(市内在住または市内高校在学)19 人

回答者数： 11 人(回収率 57.9%)

※ 高校生まちづくりプロジェクト

高校生世代が自分の興味関心をもとにまちの課題を考え、その課題解決策を名古屋市に提案する社会参画プロジェクト

2 アンケート項目

(1)居住地

(2)名古屋市の制度や施策についての情報取得方法

(3)名古屋市に意見を伝えやすい方法

(4)高校生世代の若者が名古屋市に意見を伝えやすくなる工夫、ルール

3 アンケート結果

(1)回答者の居住地

居住地	人数
名古屋市内	8
名古屋市外	3
計	11

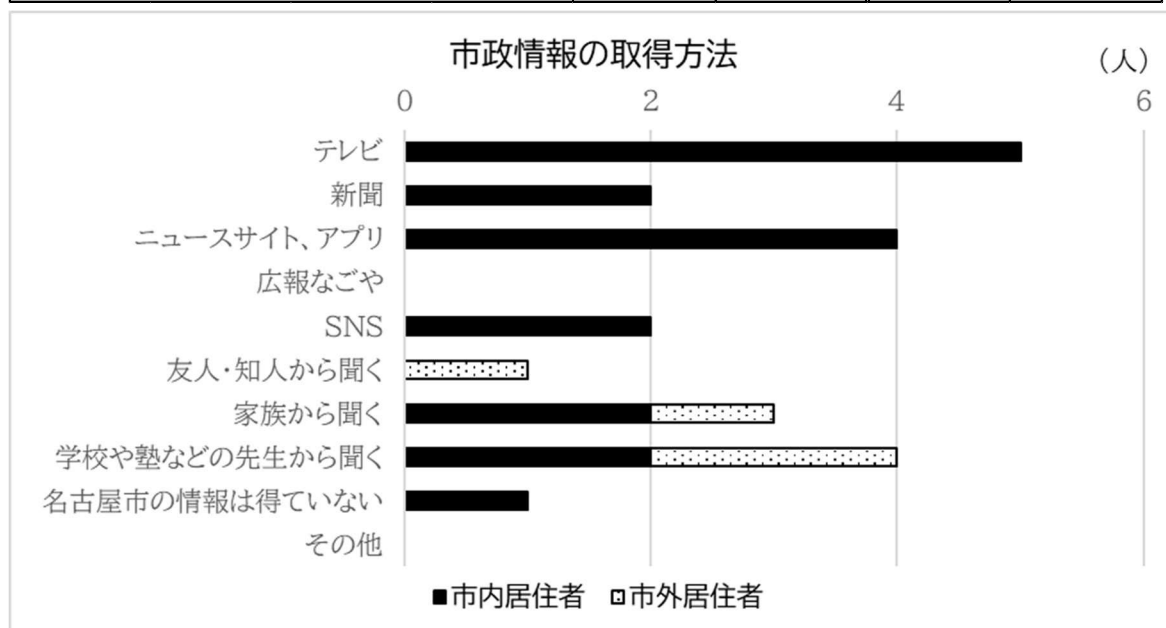
(2)名古屋市の制度や施策についての情報取得方法について

「ふだん名古屋市の制度や施策について、どのように情報を得ていますか。」

<3つまで選択>

- ・「テレビ」と答えた子どもが 5人(45.5%)
- ・「ニュースサイト、アプリ」と答えた子どもが 4人(36.4%)
- ・「学校や塾などの先生から聞く」と答えた子どもが 4人(36.4%)

情報取得方法	全体		市内居住者のみ	
	人数	割合	人数	割合
テレビ	5	45.5%	5	62.5%
新聞	2	18.2%	2	25.0%
ニュースサイト、アプリ	4	36.4%	4	50.0%
広報なごや	0	0.0%	0	0.0%
SNS	2	18.2%	2	25.0%
友人・知人から聞く	1	9.1%	0	0.0%
家族から聞く	3	27.3%	2	25.0%
学校や塾などの先生から聞く	4	36.4%	2	25.0%
名古屋市の情報は得ていない	1	9.1%	1	12.5%
その他	0	0.0%	0	0.0%
回答者数	11	100.0%	8	100.0%



※ SNS と答えた 2 人に、具体的にどのような SNS を使っているのかを聞いたところ、「LINE NEWS」、「X(旧 Twitter)」との回答があった。

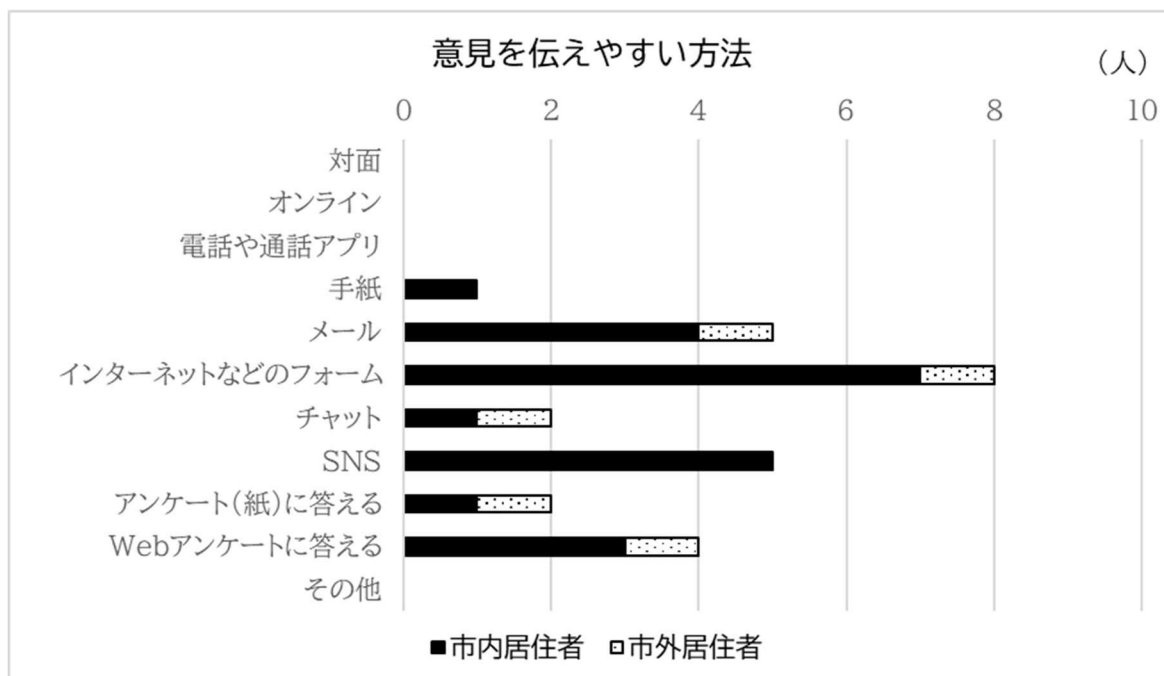
(3)名古屋市に意見を伝えやすい方法について

「どのような方法があれば、あなたは名古屋市に対して意見を伝えやすいですか。」

<3 つまで選択>

- ・「インターネットなどのフォーム」と答えた子どもが 8 人(72.7%)
- ・「メール」と答えた子どもが 5 人(45.5%)
- ・「SNS」と答えた子どもが 5 人(45.5%)

意見を伝えやすい方法	全体		市内居住者のみ	
	人数	割合	人数	割合
対面	0	0.0%	0	0.0%
オンライン	0	0.0%	0	0.0%
電話や通話アプリ	0	0.0%	0	0.0%
手紙	1	9.1%	1	12.5%
メール	5	45.5%	4	50.0%
インターネットなどのフォーム	8	72.7%	7	87.5%
チャット	2	18.2%	1	12.5%
SNS	5	45.5%	5	62.5%
アンケート(紙)に答える	2	18.2%	1	12.5%
Webアンケートに答える	4	36.4%	3	37.5%
その他	0	0.0%	0	0.0%
回答者数	11	100.0%	8	100.0%



(4)高校生世代の若者が名古屋市に意見を伝えやすくなる工夫、ルールについて

「どのような工夫やルールがあれば、高校生世代の若者は名古屋市に意見を伝えやすいと思いますか。」＜自由記述＞

※ 自分自身だけでなく、自分からは意見を発しにくそうな友人等も含めて、どうすれば意見を伝えやすいかを考えてもらうよう、口頭で補足説明

- ・「学校」を通じたアンケート等について答えた子どもが 6人(54.5%)
- ・「匿名性」について答えた子どもが 3人(27.3%)
- ・「SNS」の活用について答えた子どもが 3人(27.3%)

意見を伝えやすくなる工夫やルール
身元を明かさなくても良い 学校等でアンケートに協力してもらう
自分の名前や顔を公にしなくても意見を伝えることができる方が意見を出しやすいと思います。今の高校生はめんどくさがってアンケートなどに応えないことがあると思うので、名古屋市内に通っている高校に協力してもらい、公共や社会参画の授業の一環としてアンケートの義務化のような形をして意見を吸い上げるか、先生方に協力してもらって授業で出た意見をそのまま名古屋市に伝えてもらうといったことをすると意見が集まりやすいかなと思いました。
高校などよく行く場所に意見箱などがある
学校などで強制的にアンケートに答えるようにする(受動的にアンケートに答えるようにする)と、ハードルが下がります
高校生は学校関連の意見が多いと思うので、学校から名古屋市に意見を伝えられる手段を作る。伝えた意見がどのような理由で実現でき、実現できないかが明確である。
・学校の総合型探究の授業で名古屋市の政策について扱う ・YouTubeに広告などを流す
まず、高校生が名古屋市の政策を知る機会が少ないと思うのでSNS(特にインスタグラム)などで情報発信をしていく必要があると思います。自分から意見を発することはハードルが高い子が多いので選択式のアンケートから始めるといいと思います。
tiktokのコメント欄に意見を募集すると、匿名で答えられ、小中高生も答えやすいと思う。
名古屋市へ意見を述べてほしいと言われると、とても堅苦しく感じてしまうし、堅苦しくないものだと言われても、ダルいと感じるので、アンケートのタイトルを変えたり、もっとテーマを絞ったアンケートにするといいと思う。
自分の声で発信するのではなく、文面で提出できる
もう少し子供だけではなく大人も意見が言えるところや相談する場所があった方が良い。 大人も悩んでいる人もいるから

【調査画面】

名古屋市からのアンケート

入力フォーム

1 入力 2 確認 3 完了

名古屋市では現在、「なごや子どもの権利条例」に基づく「名古屋市子どもに関する総合計画」の策定作業を進めています。この条例では、子どもに関する基本的施策を策定する際には、「子どもが主体的に参加し、及び意見を表明する機会を設けるとともに、子どもの意見を尊重するよう努める」こととしています。

このアンケートでは、みなさんの意見表明に関する考えなどをお聴きして、子どもや若者が意見を出しやすい仕組みを考えていく参考にしたいと思います。計画をより良いものにするため、ぜひご協力よろしくお願いします。

Q1. あなたのお住まいはどちらですか。

☐ 名古屋市内

☐ 名古屋市外

Q2. あなたは、ふだん名古屋市の制度や施策について、どのように情報を得ていますか。主なものを3つまで選んでください。

「SNS」を選んだ方は、Q3にも答えてください。「SNS」を選ばなかった方は、Q4に進んでください。 **必須**

☐ テレビ

☐ 新聞

☐ ニュースサイト、アプリ

☐ 広報なごや

☐ SNS

☐ 友人・知人から聞く

☐ 家族から聞く

☐ 学校や塾などの先生から聞く

☐ 名古屋市の情報は得ていない

☐ その他

Q3. Q2でSNSを選んだ方に質問です。どのようなSNSを使って情報を得ているか、具体的に教えてください。

LINE、X(旧Twitter) など

0 / 100

Q4. どのような方法があれば、あなたは名古屋市に対して意見を伝えやすいですか。あてはまるものを3つまで選んでください。 必須

- ☐ 対面
- ☐ オンライン
- ☐ 電話や通話アプリ
- ☐ 手紙
- ☐ メール
- ☐ インターネットなどのフォーム
- ☐ チャット
- ☐ SNS
- ☐ アンケート（紙）に答える
- ☐ Webアンケートに答える
- ☐ その他

Q5. どのような工夫やルールがあれば、高校生世代の若者は名古屋市に意見を伝えやすいと思いますか。どのようなことでも良いので、教えてください。 必須

意見の伝え方や伝える意見のテーマについて事前に学ぶ機会がある、伝えた意見がどのように扱われるのかわかる、自分の顔や名前を明かさずに参加できる

0 / 400

→ 確認画面へ進む

📁 入力内容を一時保存する

愛知学院大学におけるアンケート調査 報告書

1 実施概要

目 的： 自治体の情報の取得方法や意見表明の方法などをアンケート形式で聞き、大学生の意見表明に対する考え方などについて把握し、子どもに関する総合計画策定の参考とするもの。

実施場所： 愛知学院大学「法実務概論Ⅱ(地域行政実務)」

実施日時： 令和5年11月29日(水)に講義し、事後課題としてアンケート実施
forms 回答期間は11月29日(水)～12月3日(日)

対 象 者： 講義受講者(法学部 3・4 年生) 62人

回答者数： 62人(回収率100.0%)

2 アンケート項目

(1)居住地

(2)居住自治体の制度や施策についての情報取得方法

(3)居住自治体に意見を伝えやすい方法

(4)若者が行政課題について意見を言う場への参加意向

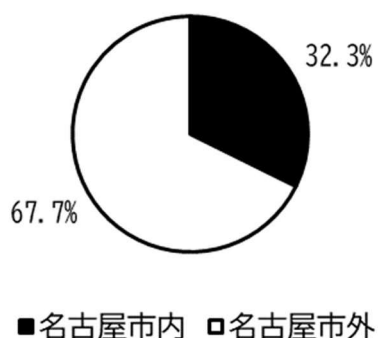
(4)大学生世代の若者が居住自治体に意見を伝えやすくなる工夫、ルール

3 アンケート結果

(1)回答者の居住地

居住地	人数	割合
名古屋市内	20	32.3%
名古屋市外	42	67.7%
回答者数	62	100.0%

回答者の居住地



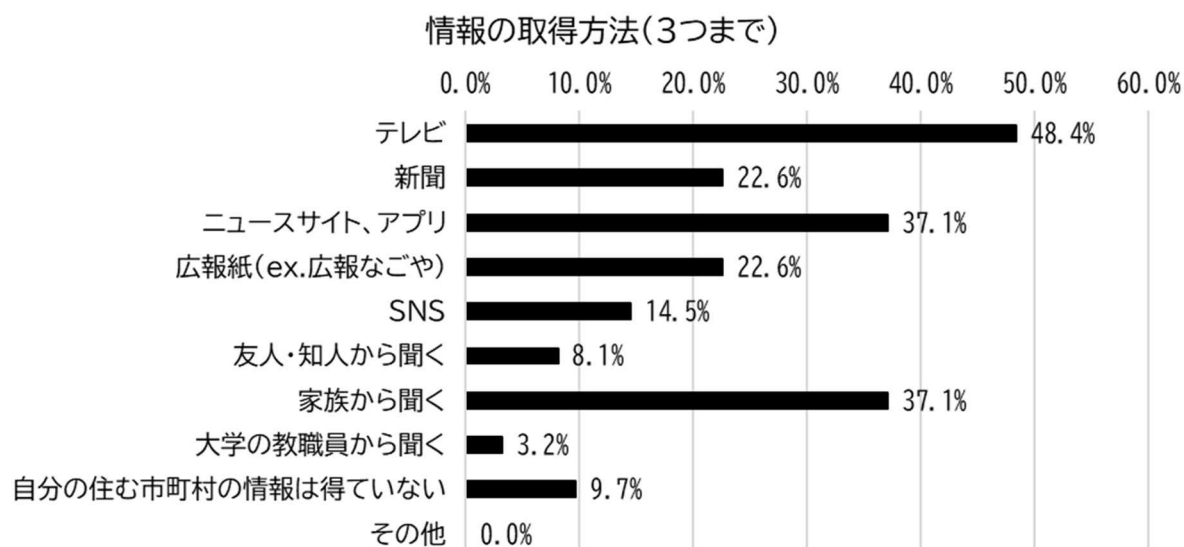
(2)居住自治体の制度や施策についての情報取得方法について

「ふだん、お住まいの市町村の制度や施策について、どのように情報を得ていますか。」

<3つまで選択>

- ・「テレビ」と答えた学生が 30人(48.4%)
- ・「ニュースサイト、アプリ」と答えた学生が 23人(37.1%)
- ・「家族から聞く」と答えた学生が 23人(37.1%)

情報の取得方法（3つまで）	人数	割合
テレビ	30	48.4%
新聞	14	22.6%
ニュースサイト、アプリ	23	37.1%
広報紙(ex.広報なごや)	14	22.6%
SNS	9	14.5%
友人・知人から聞く	5	8.1%
家族から聞く	23	37.1%
大学の教職員から聞く	2	3.2%
自分の住む市町村の情報は得ていない	6	9.7%
その他	0	0.0%
回答者数	62	100.0%



「SNS」の具体的な種類(重複を含む)

X(旧 Twitter)	6
YouTube	3
Instagram	2
LINE	2
	等

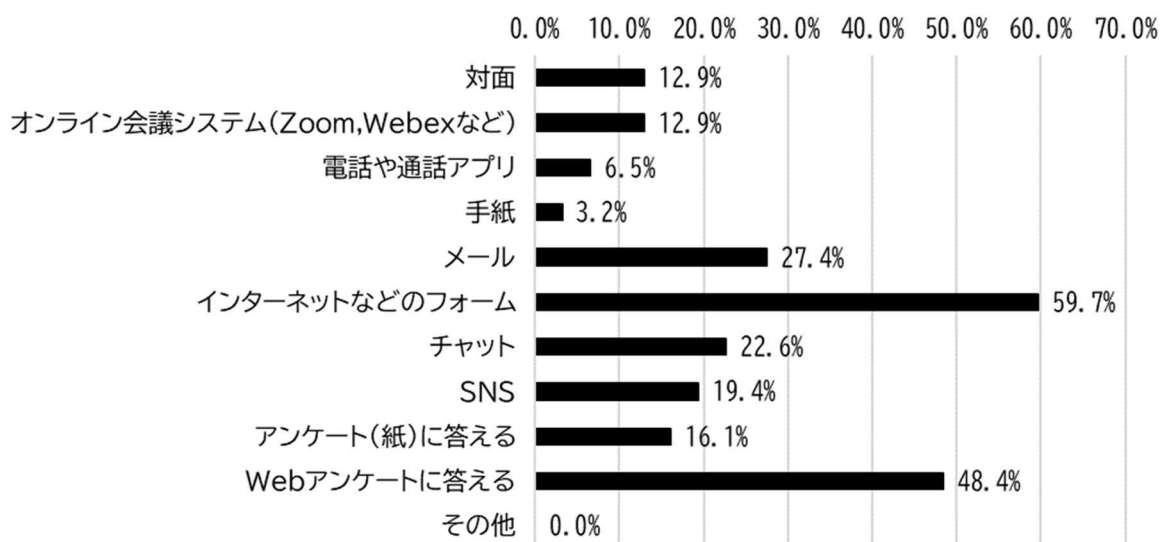
(3) 居住自治体に意見を伝えやすい方法について

「どのような方法があれば、あなたはお住まいの市町村に対して意見を伝えやすいですか。」
 <3 つまで選択>

- ・「インターネットなどのフォーム」と答えた学生が 37 人(59.7%)
- ・「Web アンケートに答える」と答えた学生が 30 人(48.4%)
- ・「メール」と答えた学生が 17 人(27.4%)

意見を伝えやすい方法（3つまで）	人数	割合
対面	8	12.9%
オンライン会議システム（Zoom, Webexなど）	8	12.9%
電話や通話アプリ	4	6.5%
手紙	2	3.2%
メール	17	27.4%
インターネットなどのフォーム	37	59.7%
チャット	14	22.6%
SNS	12	19.4%
アンケート（紙）に答える	10	16.1%
Webアンケートに答える	30	48.4%
その他	0	0.0%
回答者数	62	100.0%

意見を伝えやすい方法(3つまで)



「SNS」の具体的な種類(重複を含む)

Instagram	8	
X(旧 Twitter)	7	
TikTok	1	
LINE	1	等

(4)若者が行政課題について意見を言う場への参加意向について

「事前登録をした若者が集まり、あなたのお住まいの市町村の課題について意見を言う場があったら、あなたは参加したいと思いますか。」
 <1つ選択>

行政課題の意見を言う場への参加意向	人数	割合
参加したい	21	33.9%
頻度や時間、場所などの条件があれば参加したい	22	35.5%
参加したくない	19	30.6%
回答者数	62	100.0%

「条件」の具体的な記述(主なものの抜粋、重複を含む)

頻度、時間	12 (54.5%)
●休日や夜 ●大学の授業とかぶらない時間帯 ●頻度は2か月に1回程度で時間は夕方から夜 ●月1回、平日の仕事終わりの時間帯	
場所	8 (36.4%)
●家から近くの区役所や公民館など ●駅や中心街など利便性がある場所 ●学校の中	
方法	4 (18.2%)
●オンライン参加も可能であること ●非接触型でお互いの顔が見えない状態 ●できるだけ参加者が多いこと、事前に定員が示される	
その他	4 (18.2%)
●参加特典がある ●意見を聞いて終わりにしないこと	

「参加したくない」理由の具体的な記述(主なものの抜粋、重複を含む)

興味がない、意見がない	7 (36.8%)
●自分の住む市町村に興味がない ●今のところ不満があまりないから。また、興味があまりないから ●主張できるほどの意見が自分にはないから	
意見を言うことが苦手	5 (26.3%)
●自分の意見を発信することが苦手であるため ●対面での集まりで意見を発することに抵抗がある	
言っても意味がない	4 (21.1%)
●自分たちが課題を言ったところで大して何も変わらないと思う ●意味があると感じない	
その他	3 (15.8%)
●面倒 ●時間がない	

(4)大学生世代の若者が居住自治体に意見を伝えやすくなる工夫、ルールについて

「どのような工夫やルールがあれば、大学生世代の若者はお住まいの市町村に意見を伝えやすいと思いますか。」＜自由記述＞

※ 自分自身だけでなく、自分からは意見を発しにくそうな友人等も含めて、どうすれば意見を伝えやすいかを考えてもらうよう、口頭で補足説明

・「SNS」や「Web 等」の活用について答えた学生が 44 人(71.0%)

・「匿名性」について答えた学生が 22人(35.5%)

・「インセンティブ」の付与について答えた学生が 16 人(25.8%)

具体的な記述(主なものの抜粋、重複を含む)

SNSやWeb等の活用	44 (71.0%)
●YouTubeやアプリ、SNSの広告に付随するような形でアンケートを行う ●SNSなどのチャット機能などを活用し簡単に意見を述べられる ●ウェブサイトやアプリにより、オンラインで簡単にアクセスできる意見箱やフォーム ●大学掲示板や駅に意見の応募フォームのQRコードを貼る	
匿名性	22 (35.5%)
●意見が市役所の方にどう思われるかが気になるので、匿名で意見を言える場 ●Web上で無記名回答 ●VRアバター等を使って身分が分からないような状況下での話し合い	
インセンティブ	16 (25.8%)
●意見を出してくれた方に抽選で市内で使えるクーポン券などリターンを設ける ●参加してくれた人には図書カードなど景品を渡す	
アンケート形式	15 (24.2%)
●意見を選択式(その他含む)で最も当てはまるものにチェックする形式とする ●簡単なアンケートだったり、丸バツで答えるもの	
大学等教育機関との連携	13 (21.0%)
●講義や授業の中で居住市への意見をアンケートフォームで送る時間をとる ●大学の授業内で自身の住む地区の調査研究をする機会を設ける	
フィードバック	11 (17.7%)
●実際に寄せられた意見でこういった取り組みを行ったという内容の発信 ●できる限り見える形で政策に反映されればよい	
知識の提供	9 (14.5%)
●市町村について深く知らないなので、意見がない。市町村について詳しく知れる機会が ●デジタルメディアやソーシャルメディアを活用して、若者が行政に関する情報を手軽に入手できる環境を整える	
その他	19 (30.6%)
●小グループで話し合って、グループ意見として全体に共有することでハードルが下が ●意見は最後まで聞き、途中で遮って否定しないこと ●1人で参加するのは勇気がいる。仲間と一緒に参加して地元について考えてもらうのがいい ●地元インフルエンサーも交えて一緒になって意見を言う場を設ける ●取っつきにくい、意見を言ったら不都合なことになるという行政イメージを改善	

【調査内容】 ※実際は大学講師から学生に対し Microsoft forms で展開

「若者の社会参画について」アンケート

1. お住まいについて教えてください。

(1) 名古屋市内

(2) 名古屋市外

2. あなたは、ふだん、あなたの住む市町村の制度や施策について、どのように情報を得ていますか。
主なものを 3 つまで選んでください。

(1) テレビ

(6) 友人・知人から聞く

(2) 新聞

(7) 家族から聞く

(3) ニュースサイト、アプリ

(8) 大学の教職員から聞く

(4) 広報紙(ex.広報なごや)

(9) 自分の住む市町村の情報は得ていない

(5) SNS ⇒具体的に()

(10) その他()

3. どのような方法があれば、あなたは、あなたの住む市町村に対して意見を伝えやすいですか。
あてはまるものを 3 つまで選んでください。

(1) 対面

(7) チャット

(2) オンライン会議システム

(8) SNS

(Zoom、Webex など)

⇒具体的に()

(3) 電話や通話アプリ

(9) アンケート(紙)に答える

(4) 手紙

(10) Web アンケートに答える

(5) メール

(11) その他

(6) インターネットなどのフォーム

()

4. 事前登録した若者が集まり、あなたの住む市町村の課題について意見を言う場があったら、あなたは参加したいと思いますか。

(1) 参加したい

(2) 頻度や時間、場所などの条件があれば参加したい

⇒具体的に希望する条件があれば教えてください

()

(3) 参加したくない

⇒参加したくない理由を教えてください

()

5. どのような工夫やルールがあれば、大学生世代の若者はあなたの住む市町村に意見を伝えやすいと思いますか。声をあげにくい方でも意見を伝えやすい方法について、自由な発想で 400 字程度にまとめてください。

[]

チュウキョ〜くんのすこやかフェスタ 2023

におけるアンケート調査 報告書

1 実施概要

目 的： 子育て中の方たちが子育てに対して感じていること等を聞き、子どもに関する総合計画策定の参考とするもの。

実施場所： 日本ガイシホール （すこやかフェスタ）

実施日時： 令和5年10月14日(土)・15日(日) 10時～16時

対 象 者： イベント来場者

回答者数： 800 人

2 アンケート項目

- (1) 回答者の居住地（名古屋市内、名古屋市外の別）
- (2) 来場した子どもからみた回答者の続柄
- (3) 来場した子どもの年齢層
- (4) 居住自治体の子育てのしやすさ（10点満点）
- (5) 子育てする上での居住自治体の「いいところ」
- (6) 子育てする上での居住自治体の「不満なところ」
- (7) 子育てする上での要望・意見

3 アンケート結果

(1) 居住地

・回答者のうち、市内在住者は 468 名 (58.5%)

居住地	回答者数	割合
名古屋市内	468	58.5%
千種区	19	2.4%
東区	14	1.8%
北区	15	1.9%
西区	22	2.8%
中村区	24	3.0%
中区	13	1.6%
昭和区	23	2.9%
瑞穂区	21	2.6%
熱田区	18	2.3%
中川区	52	6.5%
港区	35	4.4%
南区	63	7.9%
守山区	34	4.3%
緑区	51	6.4%
名東区	11	1.4%
天白	34	4.3%
不明	19	2.4%
名古屋市外	332	41.5%
愛知県	282	35.3%
岐阜県	22	2.8%
三重県	28	3.5%
合計	800	100.0%

(2) 続柄

- ・市内居住者のうち「母親」が 354 人 (75.6%)
「父親」が 90 人 (19.2%)
- ・市外居住者のうち「母親」が 230 人 (69.3%)
「父親」が 90 人 (27.1%)

続柄	市内		市外		計	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
母親	354	75.6%	230	69.3%	584	73.0%
父親	90	19.2%	90	27.1%	180	22.5%
祖母	13	2.8%	10	3.0%	23	2.9%
祖父	3	0.6%	0	0.0%	3	0.4%
その他	8	1.7%	2	0.6%	10	1.3%
合計	468	100.0%	332	100.0%	800	100.0%

(3) 来場している子どもの年齢層（複数回答）

- ・市内居住者のうち「0歳～2歳」の子どもと来場している方が 291 人 (62.2%)
「3歳～5歳」の子どもと来場している方が 216 人 (46.2%)
- ・市外居住者のうち「0歳～2歳」の子どもと来場している方が 187 人 (56.3%)
「3歳～5歳」の子どもと来場している方が 183 人 (55.1%)

年齢層	市内		市外		計	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
0歳～2歳	291	62.2%	187	56.3%	478	59.8%
3歳～5歳（年少～年長）	216	46.2%	183	55.1%	399	49.9%
小学校1～3年生	80	17.1%	58	17.5%	138	17.3%
小学校4～6年生	23	4.9%	20	6.0%	43	5.4%
中学生以上	3	0.6%	4	1.2%	7	0.9%

(4) 子育てしやすさ (10 点満点)

①居住自治体別の評価

- ・市内居住者の平均点は 7.16 点
- ・区別で平均点が高いのは①西区 7.95 点、②名東区 7.91 点、③千種区 7.68 点
低いのは①瑞穂区 6.57 点、②昭和区 6.70 点、③中川区 6.71 点
- ・市外居住者の平均点は 6.89 点

居住地	平均点
名古屋市内	7.16
千種区	7.56
東区	7.64
北区	7.21
西区	7.95
中村区	7.04
中区	7.62
昭和区	6.70
瑞穂区	6.40
熱田区	6.88
中川区	6.71
港区	7.09
南区	7.00
守山区	7.50
緑区	7.26
名東区	7.91
天白	7.03
名古屋市外	6.89
愛知県	6.91
岐阜県	6.82
三重県	6.79

(5) 子育てする上での名古屋市の「いいところ」(市内のみ、自由記述)

- ・「0歳～2歳」「3歳～5歳」の子どもと来場している方の回答で多かったのは

① 「公園・遊び場」 具体的には「公園が近い」「遊び場がたくさんある」など

② 「経済的支援」 具体的には「医療費助成」「ベビーエールがある」など

- ・「小学生」の子どもと来場している方の回答で多かったのは

① 「経済的支援」 具体的には「医療費助成」「ぴよか」など

区分	0歳～2歳	3歳～5歳	小学校1～3年生	小学校4～6年生	中学生以上
公園・遊び場	55	38	7	2	1
経済的支援	44	35	12	5	1
支援機関	25	5	2	1	0
交通	10	11	8	1	0
保育・教育	15	8	2	0	0
イベント・行事	8	12	5	0	0
支援制度	8	6	2	0	0
医療	2	6	0	0	0
放課後施策	0	0	4	0	0
その他	81	56	27	10	0
なし	43	39	11	4	1

【参考】子育てしやすさの平均点が高い自治体での「いいところ」

- ・「こどもが遊べる施設がある」、「こども未来館で無料で遊べる」など（小牧市）
- ・「支援、イベントが多い」、「子どもの遊ぶところが多い」など（長久手市）
- ・「公園が多い」、「公園が綺麗」など（刈谷市）

(6) 子育てする上での名古屋市の「不満なところ」(市内のみ、自由記述)

- ・ いずれの年齢層の子どもと来場している方の回答でも多かったのは
「公園・遊び場」 具体的には「公園の遊具が少ない」「児童館が遠い」など
- ・ 「0歳～2歳」「3歳～5歳」の子どもと来場している方の回答でも多かったのは
「保育・教育」 具体的には「希望する保育園に入れない」「休日の預け先が少ない」など
「経済的支援」 具体的には「保育料が高い」「手当の所得制限」など

区分	0歳～2歳	3歳～5歳	小学校1～3年生	小学校4～6年生	中学生以上
公園・遊び場	38	28	8	3	0
保育・教育	23	21	6	0	0
経済的支援	22	11	1	0	0
支援機関	14	5	1	0	0
交通	12	4	3	1	0
行政手続き	8	2	1	0	0
放課後施策	1	5	3	0	0
情報	5	1	0	0	0
支援制度	4	1	0	0	0
医療	2	2	0	0	0
イベント・行事	2	2	0	0	0
子どもと外出しやすいまちづくり	1	2	0	0	0
労働環境	2	0	0	0	0
その他	51	41	23	5	0
なし	106	91	34	14	3

(7) 子育てする上での名古屋市への要望・意見（市内のみ、自由記述）

- ・いずれの年齢層の子どもと来場している方の回答でも多かったのは

「公園・遊び場」 具体的には「小さい子が遊べる施設」「室内の遊び場」「駐車場のある公園」など

「経済的支援」 具体的には「子どもに関する手当の充実」「保育料無料」「タクシー無料券」「習い事等の助成」など

区分	0歳～2歳	3歳～5歳	小学校1～3年生	小学校4～6年生	中学生以上
公園・遊び場	85	75	20	5	0
経済的支援	37	24	5	2	1
保育・教育	23	12	3	1	0
子どもと外出しやすいまちづくり	11	8	3	0	0
支援機関	11	4	3	2	0
イベント・行事	12	6	1	0	0
オムツ	10	3	0	0	0
放課後施策	1	5	4	0	0
支援制度	5	2	1	0	0
交通	2	2	1	1	0
情報	2	1	0	0	1
労働環境	3	0	1	0	0
医療	0	1	1	0	0
行政手続き	1	0	0	0	0
その他	21	19	7	2	0
なし	67	54	30	10	1

【調査票】

名古屋市 子育てに関するアンケート

本アンケートは、「名古屋市子どもに関する総合計画」策定の参考にさせていただくため、子育て中の方のご意見を伺うものです。子どものよりよい未来のためにも、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。



なごや子どもの権利条例マスコット
キャラクター なごっち

Q1 お住まいはどちらですか？(1つだけ)

- ☐ 名古屋市内 () 区
☐ 名古屋市外 () 市・町・村

Q2 本日のフェスタに参加しているお子様からみたあなたの続柄を教えてください。(1つだけ)

- ☐ 母親 ☐ 父親 ☐ 祖母 ☐ 祖父 ☐ その他

Q3 本日のフェスタに参加しているお子様の年齢層を教えてください。(あてはまるものすべて)

- ☐ 0歳～2歳 ☐ 3歳～5歳(年少～年長)
☐ 小学校1～3年生 ☐ 小学校4～6年生 ☐ 中学生以上

Q4 お住まいの市町村の子育てしやすさを 10 点満点で評価すると何点ですか？(数字で記入してください)

点

※0点:子育てしにくい ← 5点:普通 → 10点:子育てしやすい

Q5 子育てをする上で、お住まいの市町村の「よいところ」・「不満なところ」があれば教えてください。

(1)よいところ

(2)不満なところ

Q6 子育てをする上で、「あったらうれしい」・「こんなものが欲しい」と思うものはありますか？どんなことでもいいので、教えてください。

～アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました～

なごっちサミット 2023 における定性調査 報告書

1 実施概要

目 的： 子どもにとって身近な事例から子どもの権利を学び、権利が守られていないケースをもとに権利が守られるには大人・社会がどうあるべきかを子ども目線で考え、意見表明するとともに、その意見を次期子どもに関する総合計画策定の参考とするもの。

実施場所： NHK 名古屋放送センタービル 大会議室

実施日時： 令和 6 年 3 月 16 日(土) 14 時 00 分～17 時 00 分

対 象 者： 「なごっちフレンズ」または「てつなぎなごもんず」のうち、なごっちサミット2023へ申込して参加した子ども

参加者数： 24 名

2 企画概要

子どもに身近な場面で、子どもの権利が守られていない事例をもとに、子どもの気持ちや考えを共有しながら、大人・社会がどうあれば、子どもの権利が守られるまち(→子どもにやさしいまち)になるかを考える。前半は参加者全員で、後半は 3 つのグループ(小学校低学年・高学年・中学生)に分かれてグループワークを行い、最後に全体発表を行う。

3 参加者構成

区分	学年	人数
小学校	1 年	2 名
	2 年	5 名
	3 年	4 名
	4 年	3 名
	5 年	3 名
	6 年	2 名
中学校	1 年	2 名
	2 年	2 名
	3 年	1 名
合計		24 名

4 成果

(1)全体でのワーク

【事例①】

「桃太郎」の劇の配役を決める際に、先生が生徒に「きみの役はサルに決まり！ぴったり！絶対うまくできると思う」と言った。

➤気持ち

- ・嫌だ
- ・勝手に決めつけないで

➤子どもにやさしいまちなら・・・

- ・校長先生に言って、先生の教育をしてもらう
- ・他の役がいいか聞いてみる

【事例②】

兄妹と母の3人で遊びに行った帰りの電車内。母が1つ空いた座席に妹を座らせ、兄には重い荷物を持たせながら、兄に向かって「大きいんだから我慢して！」と言った。

➤気持ち

- ・押しつけられるのは嫌だ
- ・小さいからという理由ではなく、一番疲れている人が座ればいい
- ・重いのは大変だけど、家族のためにがんばろう

➤子どもにやさしいまちなら・・・

- ・大丈夫か、気にかけてもらえる
- ・電車内にいる人が譲り合って、みんなが座れるといい

(2)グループワーク

小学校低学年(1～3年生)グループ

【事例①】

近所の公園で友だちとボールをけて遊んでいたら、ダメだって言われた。ボールで遊びたいなあ。

➤気持ち

- ・なんで？
- ・外でなんだからいいでしょ。遊ぶところなんだから
- ・「ダメ」と書いてあると悲しい

➤子どもにやさしいまちなら・・・

- ・話し合って納得できるルールにしてほしい
- ・注意のしかた、言い方を変える
- ・ボールで遊べるところを作してほしい

【事例②】

スーパーの福引で3等が当たった！景品は恐竜かウサギのぬいぐるみ。私は恐竜がよかったのに、ウサギを渡された。女で恐竜好きって変なのかな。

➤気持ち

・決めつけはいや！

➤子どもにやさしいまちなら・・・

・男、女は関係ない

・決めつけない

・人の気持ちを考えてから言う

【事例③】

近所の大人たちがやっている公園の掃除。私もよく遊ぶ場所だから一緒に掃除したいのに、子どもは邪魔だって。子どもだって役に立ちたい！

➤気持ち

・こどもにもチャレンジさせて

・こどもにできることもある

・「ダメ」「やめて」「邪魔」は大人も子どももいやでしょ？

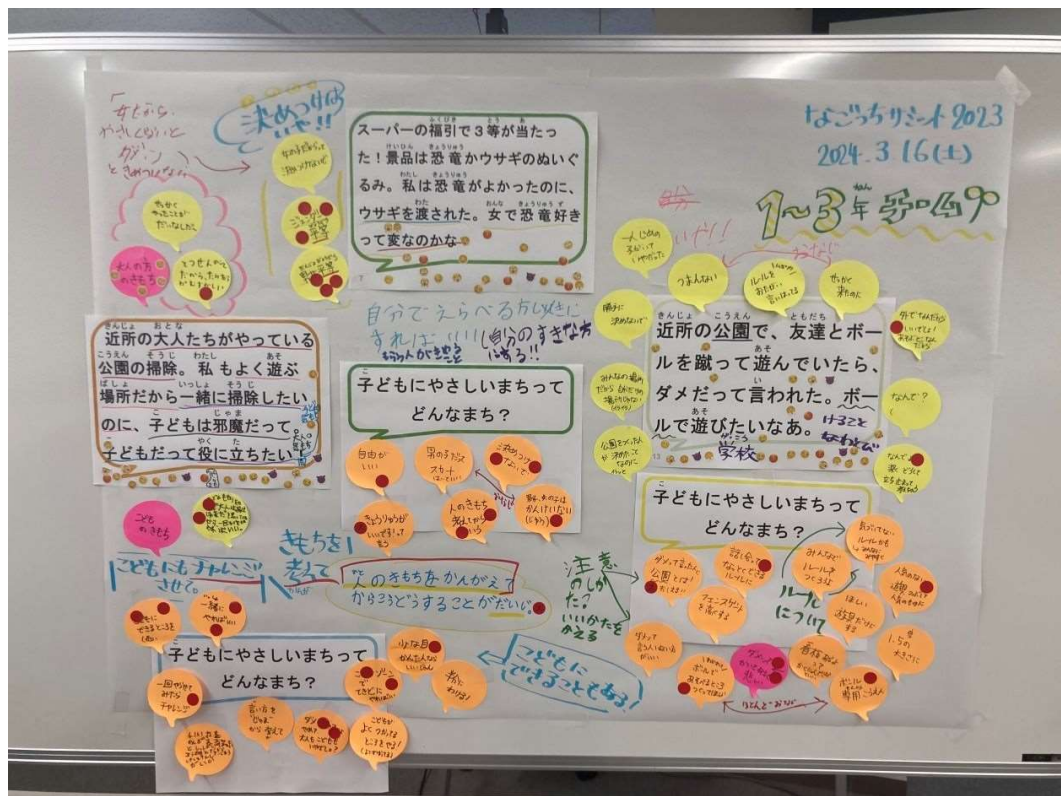
➤子どもにやさしいまちなら・・・

・一緒にやればいい

・子どもにできるところをやってもらう

・言い方を変える

【成果物】



小学校高学年(4～6年生)グループ

【事例①】

「男の子だから」って、弟の方がおやつが多いの、ずるくない？

➤気持ち

- ・ずるい！
- ・〇〇だからって決めつけてほしくない
- ・差別

➤子どもにやさしいまちなら・・・

- ・男だからじゃなくて、みんな平等にしてほしい

【事例②】

近所の大人たちがやっている公園の掃除。私もよく遊ぶ場所だから一緒に掃除したいのに、子どもは邪魔だって。子どもだって役に立ちたい！

➤気持ち

- ・子どもはきちんと仕事をやらない！と決めつけないでほしい
- ・なんで？
- ・じゃま?! ひどくない？

➤子どもにやさしいまちなら・・・

- ・地域の人全員で掃除したらいい
- ・「やりたい」と思えば参加できるようにする
- ・大人も子どもも自分の思いで参加できる

【事例③】

中学校の制服、女の子はスカートとズボンが選べるようになったみたい。本当はズボンにしたいけど、お母さんは、みんなと違うといじめられるんじゃないかって言うし、スカートにした方がいいのかな。

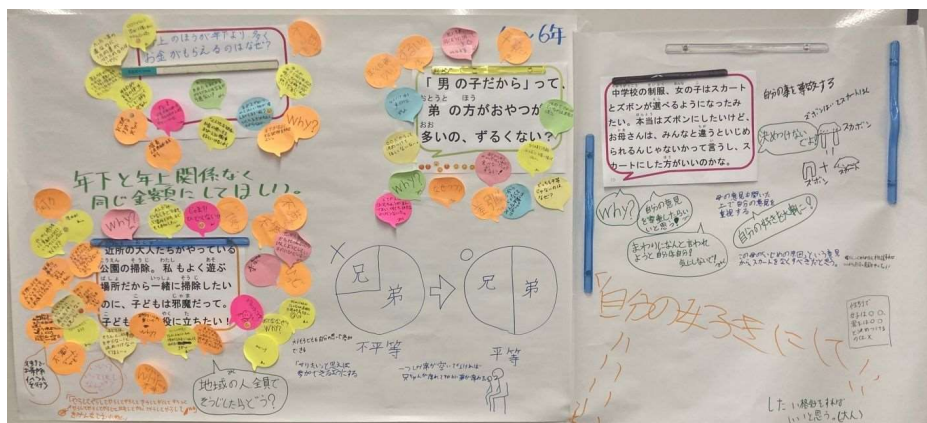
➤気持ち

- ・決めつけないでよ
- ・周りに何と言われようと自分は自分

➤子どもにやさしいまちなら・・・

- ・自分の意見を尊重したらいい
- ・自分の好きを大事に
- ・性別で女子は〇〇、男子は〇〇と決めつけるのは×

【成果物】



中学生グループ

【事例①】

中学校の制服、女の子はスカートとズボンが選べるようになったみたい。本当はズボンにしたいけど、お母さんは、みんなと違うといじめられるんじゃないかって言うし、スカートにした方がいいのかな。

➤気持ち

- ・なんでお母さんが言うの？私のことなのに
- ・お母さんの意見も一理あるけど

➤子どもにやさしいまちなら・・・

- ・お母さんは相談されたら言えばいいけど、されなかったら言わない方がいい
- ・スカート＝女、ズボン＝男という考え方のないまちだといいなと思う
- ・そもそもスカートやズボンで差別とかいじめめるまちをなくす

【事例②】

校則が厳しすぎる！！髪の毛が肩にかかる縛らなくてははいけない。スクールランチ 20 分。放課が短すぎ！7 分！先生に言っても変わらないんじゃないか？だから言わない。

➤気持ち

- ・厳しい校則がある理由を教えてください
- ・なんでここまで厳しくしないといけない？もっと自由がほしい

➤子どもにやさしいまちなら・・・

- ・生徒にも校則の変更に関わる権限がほしい
- ・私たちは生徒で未熟ではあるが、同時に 1 人の人である。先生とも同じレベルで話したい
- ・誰でも意見を出せるような環境、匿名で意見を出せるなど
- ・先生たちは校則以外でも理由とともに教える

【事例③】

毎日、塾や習いごとで忙しい。たまには家で休ませてよ。

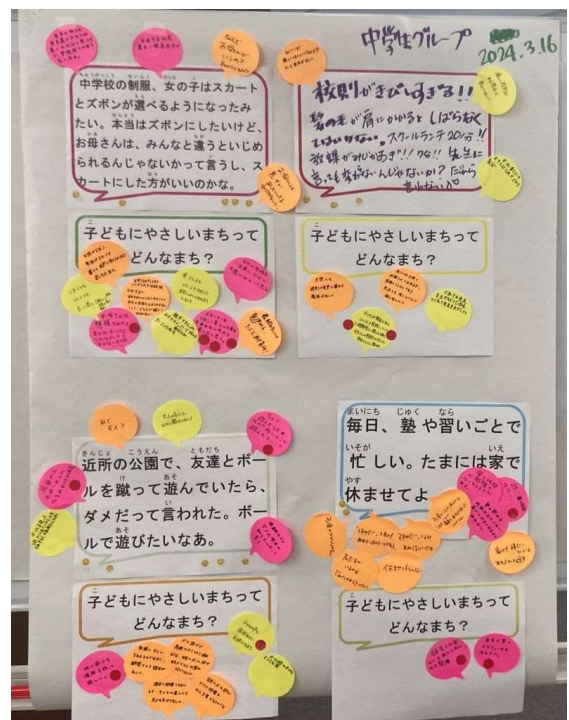
➤気持ち

- ・休ませてもらえない
- ・寝る時間が勉強でなくなる時がある
- ・お金のことがあるから、“休む”ことで親とあまり話したことがない

➤子どもにやさしいまちなら・・・

- ・自分で塾のスケジュールを決めたい

【成果物】



ステップアップルーム等における若者からのヒアリング調査 報告書

1 実施概要

目 的： ニートや引きこもりなど、困難を抱えた若者に対し直接ヒアリングを行い、次期子どもに関する総合計画における若者施策検討の参考とする。

実施場所： ① 北部ステップアップルーム (利用者 7 人、事業者 3 人)
② なごや若者サポートステーション (利用者 4 人、事業者 1 人)

実施日時： ① 令和 5 年 7 月 28 日(金) 13 : 30～15 : 30
② 令和 5 年 8 月 10 日(木) 15 : 10～16 : 10

聴取方法： 市職員が事業実施場所へ出向き、利用者と座談会形式でヒアリングを行った。

・ヒアリングの流れ

- (1) 市職員から自己紹介とヒアリングの趣旨説明。現在策定中の「次期子どもに関する総合計画」に意見を反映させたい旨を話し、協力依頼。
- (2) 利用者から利用前の生活の様子や利用状況、今後期待する支援などについて聴取。

2 意見聴取内容

① 北部ステップアップルーム（以下「北部」）

自立を目指す若者が集まる場として、電話相談やカウンセリングの実施をはじめ、ステップアップルームを拠点とした若者の自立を促す各種支援を行っている。利用者は若く、在学中の方や就労経験の無い方が多かった。

当日参加者

- A さん（女性、10 代）
- B さん（女性、10 代）利用歴浅い
- C さん（女性、10 代）
- D さん（男性、20 代）大学院生、一人暮らし
- E さん（女性、10 代）
- F さん（女性、10 代）利用歴浅い
- G さん（男性、10 代）

●ステップアップルームはどういう場所か

- A さん 話しやすいし、友達もできることになったからいい所。ここにくるのは楽しい。
家族みたいな、落ち着くところだからよかったなと思う。
- B さん 自分のもう 1 個の居場所。家以外に居場所がないから、そういう時に頼れる場所。
- C さん 家よりも落ち着くところ。
- D さん いろんな人が来る場所。ここではこの自分がいて、家では家の自分がいてみたいな。
- F さん 居場所。

●ステップアップルームをどこで知ったか

- A さん 中学校のカウンセリングの人に、学校の近くにあるから行ってみたらどう？と言われた。
行ってみたら結構話しやすかったから、友達にも教えた。
- E さん PFS（※1）の紹介。
- F さん PFS（※1）の紹介。
- B さん 子若センター（※2）の LINE 相談で教えてもらった。
- D さん 紹介されて最初は南部ステップアップルームの方に行ったが、職員から北部を勧められた。

（※1）一般社団法人 PFS 協会：北部ステップアップルームの他、家庭訪問型相談支援事業や学習支援事業などの受託業者

（※2）名古屋市子ども・若者総合相談センター

●ステップアップルームに来る前のイメージは	
A さん	家に引きこもっていて、家にいると自傷しかしないし、母からも行って見たらと言われ、あまりどんな場所か分からず行ってみた。
●ステップアップルームのような場所を自分で調べたことがあるか	
B さん	自分でいろいろ調べて吟味した。
●ステップアップルームに行くことを決めた理由	
B さん	ブログを見て、明るそうなイメージだったから。
●ステップアップルーム以外の場所へ行ったことはあるか	
A さん	前はデイサービスみたいなのに行っていたが、それきりない。
D さん	金山ランチは電車とかに広告を出してるから、そっちに行く人が多いのでは。あまりステップアップルームの広告は見ない。
●ステップアップルームを利用して自分が変わったと思うところ	
A さん	学校で女の子からいじめられていたのが女の子が苦手だったが、ここで女友達ができたり、病んだ時の捌け口ができた。ここ以外の子だとあまり話せないかもしれない。
B さん	ここに来ることに慣れてきた。
F さん	以前から PFS とは関わりがあり来やすい。ため口でいられる。
D さん	北部は代表者がよく変わるが、代表が変わっても人がいれば居場所はあるんだなという、場所に対しての安心感はあるような気がする。自分自身も明るくなったかもしれない。
C さん	前は問題児で性格がトゲトゲしていたが、今はそんなに。
事業者	G さんはアルバイトを始めたり、変わったと思う。
E さん	G さんは最初は全然話さなかったが、話すようになった。
●ステップアップルームでの過ごし方	
D さん	プログラムどおり。10 時～12 時は各々自由に過ごし、15 時まではプログラム、16 時までは遊んだり話したり。
E さん	自由。
F さん	暇している。絵を描いている。
C さん	スマホ。
A さん	たまに喋ったり。
事業者	ボードゲームをしたり、勉強する子もいたり。
D さん	月 1 でしか来なくなったから何をしたらよいか分からない。様子を伺っている。 ここにいる人はいろいろな事情を抱えているので、仲良くなるには時間がかかる。いきなり近づきすぎるとぶつかってしまうから、ちょっとずつ隣にいる時間を増やすという感じ。

●過去の自分にステップアップルームを勧めたいか
A さん またカウンセリングの人に言われて通っていると思う。 G さん 半々。分からない。
●ステップアップルームにこうなってほしいと思うことは
G さん 広くしてほしい。 D さん ボードゲームが増えたらいい。 悩みを抱えている人もいるから、たまにはカウンセラーが来る日があってもいい。専門 家じゃないから逆に話しやすいメリットもあるが。 B さん 午後 4 時までじゃなくて 7 時くらいまでやってほしい。
●ステップアップルームを知ってもらうためには
B さん ネット検索で上の方に出てほしい。 D さん ユースクエア（名古屋市青少年交流プラザ）みたいにもっと SNS に力を入れる。プロ グはそのサイトを知らないで見ない。X（旧 Twitter）とかなら流れてくる。でも人 が増えると狭くなるので、予算でこういう場所を増やして、各自家の近いところに行け ればよいのでは。
●家の近くでなくてもそこがよければ市内なら行くか
E さん めんどくさいから遠かったら絶対行かない。電車 30 分とか絶対行かない。
●歩いてどれくらいの時間だったら行けそうか
E さん 今の 30 分でも面倒。
●SNS は何を使うのか
D さん 今は X（旧 Twitter）より、TikTok の方が盛り上がっている。
●調べものをする時に SNS を使うか
D さん 調べる内容による。最新の情報を調べたかったら SNS、公式の情報を調べたかったら Google とか。
●中高生に役所の情報を知ってもらうにはどうしたらよいか
D さん LINE 広報とか。LINE の bot みたいな。QR コードから読み取って LINE 追加すると、毎月 お知らせが来ますとかだったら便利。登録すると定期メールが来るとか。それこそ役所 に張り紙があると分かりやすい。
●区役所にくる機会はあるか
D さん マイナンバーの手続きとか。何かしら、何か月に 1 回かは行く。区役所の中に、こうい う場所があってもいいかもしれない。 D さん 図書館とかもいいかもしれない。

●近隣の図書館だと学校の同級生が来たりして行きにくい等はあるか

Dさん 学校で居場所のない人たちが行く場所にまた学校の人がいたら、嫌だなと思うかもしれない。

② なごや若者サポートステーション（以下「サポステ」

職業的自立を目指している若者やその保護者に対して、就労を目指した支援を行う施設。ヒアリングは、支援の一環としてアルバイト中のAさん、プログラム受講後のBさん・Cさん・Dさんへの2回行った。

当日参加者①

Aさん（男性、30代） 就業経験なし、令和5年1月から利用開始。
職場体験としてアルバイト中

●サポートステーション利用のきっかけ

まず何をしたらいいかわからなかったので、ハローワークに行った。その氷河期世代の相談室で話を聞いてもらったが、大学を卒業してから就労経験がなかったので、なごサポを勧めてもらい、通うことになった。

●サポートステーションに通うまでの経緯

現在付き合っている人と将来どうしようという話になり、とりあえず行ってみようとハローワークに駆け込んだ。
母親が体調を崩しがちで、長期の入院をしていることもあったため、家のことを任されることもあった。姉が結婚して家を出たのもあり、家のことは自分がやろうと思い、大学を卒業してからもずるずると家にいることになった。今思い返すと働く機会は多分あったかと思うが、当時を考えると、家事をしていたのも一つの選択だったかと思う。

●焦りや不安はあったか

不安はすごくある。家から少し出なくなると、他の家の人からどう見えているのかというのが重荷になってきて、年々、外に出ようという気力も少しずつ失ってきた。買い物などの用事は最小限で、積極的に出かけようという気にはなりにくくなった。そういう期間が長いと、面接とか、仕事をするときはどうしたらいいのかも分からなくなってきた。時間が経てば経つほど積み重なると感じた。

●就労支援を行う場所以外にも居場所はあるが、働きたいと思ったのか

ここに通って思ったことは、きっかけがあれば、ものすごくチャレンジすることもできるし、自分でもこんなに他人と話せるというのは驚いている。最初のきっかけを自分で切り開くのはすごいエネルギーがいる。誰かの手が借りられたらと思う。私は付き合っている人の力を借りて外に

出られたが、誰もが助けを求めていると思う。やはりきっかけ。そこが難しかった。
●きっかけを得るまでは、自分で調べたり動こうとしたりは考えなかったか きっかけを得て動き出すまでは、向こうから来てくれたらと感じていた。他の利用者を見ていても、いろいろなタイプの人がいる。自分から一人でふっと動ける人もいるし、誰かから声をかけてもらうのを待っている人もいる。私の場合は、話しかけてくれると嬉しかった。
●利用し始めてからの変化は しっかり人の目を見て話せるようになった。どこかやはり後ろめたい気持ちがずっとあった。家に長い間いると、いらぬこと、変なことを考えたりした。外に出るきっかけ、口実があるだけで、外に出ても堂々としていられる。ここに行くから、昼間からブラブラしているわけじゃないのだと。外に出られるというのが変わったことの一つ。 あとは、周りに目が行くようになった。あの人は今困っているかなと。自分がすごく困っていたことがあったので、似たような境遇の人を見かけると、今同じことを考えているのかなとか、こういうことが今不安なのかなと、ちょっと声をかけてみたりとか、そういう気遣いが出来るようになった。それぐらい余裕が出たのかなと感じる。
●いつでも自由に出入りができるフリースペースよりもプログラムや講座のある支援機関が合っていると感じるか 私はやっぱり仲間がいること。一緒に取り組むうちに仲良くなった人もいて、その人たちに会いに行く感覚で来ているところもあった。自由に集まってグループができるのも好きだが、それに至るまでは時間を組んで、決まった時間にここに来て座っているだけでも、きっと良かったと思う。人による。場所というのは共通であるといいとは感じる。
●外に出て、知り合いが増えることは 心強い。一人で考えることもあるが、同じことを悩んでいるというのは安心というか、そういう人がいたと知るきっかけになって良かった。
●家族や身近な方の反応は そっと、やれるだけやってごらんみたいな。好きなようにやってみたらいいよという感じ。最終的には職について、安定した自立できるくらいの生活というのが最終目標なので、まだそこまでは至っていないが、ゆっくりやっていけばいいよとサポートしてもらっている。 いつ働くのというようなチクチクしたのはあまりなかった。それに甘えてズルズル来たものもあるが。追い込まれると、やっぱり考えてしまうこともある。そういう環境もよかったのかなと思う。きっと昔からいろいろ、こういうことができるというのは持っていたけど、どこかで自信を無くしてしまうとか。学校を出た後に居場所をなくしてしまって、どうしたらいいんだろうと自信を無くしてしまうと、そのまま眠ったままになってしまうというのがあると思う。こういうところに来て、自分はこんなことができたんだと驚くことばかり。成長したというものもあるが、掘り起こしたみたいな。元々あったものが出てきたというものもあるかと思う。

●今後のことは考えられるようになったか
年齢のことがあるので、これからどうなっていくかまだ分からないが、やはり少し未来に向かって光が見えたというだけで、何とかなるかなという気持ちはある。 それがない頃は、そういう話は聞きたくもなかったのでシャットダウンしていた。どうするのと言われたら、もう嫌だと言って、話を聞かなかった。
●どうするの、という言葉は身近な人からかけられることがあったのか
多少。追いつめられるほどではなかった。あたたかく見てもらっていた感じ。付き合っている人とは、将来どうするかという問題があったので、年齢の関係で。子どももいたらいいなという話もしていたので、そのあたりで今後の話になったりすることもあった。
●自身の経験を踏まえたり、同じような境遇の方を思ったりする時に、あったらいいと思う支援や場所、知らせ方などはあるか
大学卒業して就職するという理想的なルートがある中で、少し外れてしまうことがあったりして、そういうときにどうしたらいいかというのは課題だと思う。そういう人はやっぱり優しい人が多かったりして、優しすぎて傷ついてしまう人もいる。就職に向けた支援もいいと思うが、そういう傷ついたところをどう埋めたらいいのかと思う。
●ハローワークに行ったときはインターネットで調べたのか
まずハローワークがどこにあるかを調べた。働くというとハローワークがぱっと頭に浮かんだ。それくらいしか知らなかった。
●付き合っている人との今後の話がきっかけだから、働くということがまずあったということか
どうしたらいいかというのを誰かに聞こうというのが、まずあった。抱えている問題としては、職についていないことで将来プランが組みにくいということで、じゃあハローワークだと。 一番の元は、今この状況をどうしたらいいのかということ。働いていなくて、就労経験もなくて、年齢もいい年だし、どうしたらいいかというのを聞きたかったのが一番。聞けることは聞いて来よう。 背中を押してもらえたのは運がよかった。支えがなければ、絶対自分一人では動けなかった。本当に感謝している。まだまだ至っていないので、これからがんばらないといけないが。

当日参加者②

- | | |
|-------------|--|
| Bさん（男性、30代） | 退職後ブランク、令和5年3月末から利用 |
| Cさん（男性、30代） | 就職活動に失敗後ブランク、令和5年5月末から利用 |
| Dさん（女性、30代） | アルバイト先が廃業、仕事・暮らし自立サポートセンターから紹介、令和4年2月頃から利用 |

●サポートステーション利用のきっかけ

- Bさん ネットで検索し、ハローワークや民間がやっているような所が出てくる中で、自分はブランク期間が長いのでそれに合う所といったら、ここが1番かなと思う形で、ここに電話した。ブランク期間が長かったので、「ニートの就職支援」と検索した。
- Cさん 働こうと思ったが、自分ではどうしてもならなかった。単純に障害者支援を最初に思いついて、そこから、若者とか今働いていない人たち向けのものはないのかと検索をかけた時に、ここが引っ掛かった。それで電話をかけさせてもらって、来るようになった。
- Dさん サポステより前に、ネットで探した名古屋市暮らし・自立サポートセンター（くらサポ）に最初相談させてもらっていて、その時はまだ仕事をしていた。くらサポには1年くらい通っていたが、仕事を退職することになったので、仕事も探せるし対象に合っているだろうからと、どちらにも通っている臨床心理士の先生からこちらはどうかと紹介された。

●ここに来る前はどのように過ごしていたのか。

- Bさん 家の中でテレビを見たり、YouTubeを見たり。一度新卒で働いていたが合わず、メンタル的にダメになってしまい、辞めてしまった。
- Cさん 就活に失敗して、そのままにしていた。また就活を始めようかなと思ったところ。アルバイトやどこかに通うこともなく、家のことをやっていた。母親や祖母の調子が悪いので病院や買い物に連れて行ったりしていた。
- Dさん 学生時代からアルバイトをずっと続けていたがしんどくなってきた、これ以上同じ条件だと続けるのは難しいかなと、辞めるか辞めないかをずっとくらサポに相談していたら、職場がなくなることになった。

●不安や焦りはあったか

- Bさん 多かれ少なかれ感じていた。

●何かに繋がってみようと思ったきっかけは

- Bさん 漠然とした不安感がずっとあったが、いいかげん踏み出さないとと思った。家族から何か言われたとかはなく、自分で。おそらく、それまでは「なんとかなる」という気持ちの方が勝っていたのだと思う。
- Cさん 単純に親。働くか、出ていくかと親に言われて。親に言われる前からここを知ってはいたが、来る踏ん切りはつかない状態だった。

●サポートステーションでは何をして過ごしているか	
D さん	基本的にはプログラムに参加したり、担当の支援員や臨床心理士の先生と面談したり。
●利用し始めてからの変化は	
D さん	自分ではあまり変わったと感じていない。元々前向きな性格ではないので、これ以上後ろ向きにならないように、なんとか留まらせるために通っているみたいなイメージ。ゆっくりペースで変わっていつている感覚。
C さん	積極的に発言できるようになった。元々前向きなタイプの人間ではないのが、ここに来るようになって発言だったり行動が少しとれるようになった。
B さん	前向きな思考が持てるようになった。いろんな体験をさせてもらえて、自分にも出来ることが分かるようになって、自信がついた。あとは同じような仲間がいること。自分のことを話せて、分かってもらえる仲間がいることは通い続けていられる一つの大きな要因だと思う。
●これからの展望を考えられるようになったか	
B さん	就職というものが現実味をおびた。真剣に考えるようになった。
C さん	前よりは考えられるようになった。前にハローワークに通っていたが、ハローワークのプログラムは、準備万端でメンタル的にも就活の準備できています、という人が行くところ。それ以前の、その準備が出来ていない人が行っても準備不足というか、しっかり就活に向けての行動が出来ないのではと思う。こっちに来て、就活に向けての気持ちとか、何をやればいいのかだいぶ分かった気がするのよよかったと思う。
D さん	少しずつ話をきいてもらえて軌道修正しながらやれる。次も話を聞くよと言ってもらえたり、プログラムをお勧めしてもらったり、続けていったらなんとかなるんじゃないか、なんとかできるんじゃないかという気持ちは持てるようになった。1対1で話を聞いてもらえるのが、自分的には気持ちが楽になるところがあった。
●もっとこういう支援があったらいいと思うことは	
C さん	連絡手段が電話しかないのは、しんどい。ニート気味というか、人と交流をとっていない状態だったので、電話をかけること自体が億劫だった。なので、LINEやチャットみたいな形式で連絡がとれると、だいぶ連絡がとりやすいと思う。最初の一步が電話のみなのは、だいぶしんどい。声以外の連絡手段。
B さん	LINEやチャットみたいに、向こうから質問形式で送ってくるのに答える感じでやりとりできると。 どうしようもないと思うが、建物の1階は子どもの出入りが多く、外の音が入ってきてガヤガヤして気になる。音声を聞く講義なので集中がとぎれそうになることはある。子どもがいるところを通ってくることは平気。
●電話というのは、相手が人だからしんどいのか、時間帯等か	
C さん	人に電話をかけるのがダメだった。

●電話の相手が AI だったらどうか	
C さん	人によると思う。自分は AI だったら大丈夫かと。そもそも電話自体が、電話をかける行為自体が嫌って人もいると思う。
B さん	どういうことを聞かれるのか、話せばいいのか、電話をかける前に、やっぱりどこか負い目があるので、考える。つまってしまったらどうしようとか。
C さん	慣れた人になら大丈夫。
●ネット以外で、こういう風に知らせてくれたらいいのに、と思うこと	
B さん	情報を捕まえようと思うとスマホ。ネットで検索した時に引っかかってくれるといいか
C さん	
●広報なごやや、市の X（旧 Twitter）等は見ているか	
B さん	広報なごやは他の広告にまぎれてしまって見ない。
C さん	ポストに他のものが一緒に入っていると、まあいいやと一緒に捨ててしまう。市の X（旧 Twitter）もフォローしていないし見ていない。
B さん	駅のポスターとかなら目につくかも。役所に行く機会もないし。自分で思ったたないと検索もしない。何か、ふとしたきっかけで目につくものがある。
C さん	おそらくハローワークの方に、こっちのことも載っている？「働く」ということで最初に出てくるのはハローワークだと思うが、こういう支援をやっているところもある、というところまでいくだろうか。
B さん	ハローワークに行って、ここを紹介される人も何人かいる。検索するにも、そもそもこういうところがあると知らないと、検索しない。

3 ヒアリング結果の考察

(1) 事業の利用満足度が高い

北部ステップアップルーム、なごや若者サポートステーションともに、事業を利用することで、同じ悩みを抱えた仲間・相談できる職員と出会い、自分は1人ではないと安心できる居場所になっていると感じている方が多かった。

サポステでは、仲間や職員の存在に加え、就労に向けた様々な講座を通して、自分にも出来ることが分かり、将来に前向きな思考を持てるようになったという意見もあった。

精神面・生活面が安定し、自立に向けた意欲の向上がみられるなど、施策の効果が認められた。

(2) 事業の認知度が弱いため、より効果的な広報が必要

在学中であれば学校等から事業を紹介されるケースも多いが、学校卒業後の若者は周りからアプローチを受ける機会が減ってしまう。ご意見にあったように、駅のポスターや、LINE等で自動に情報が流れてくる等、自然に情報が目に入って、何かしらきっかけに繋がるような仕組みがあるとよい。また、高校・大学時代の事業周知がしっかりあれば、より早く動けるかもしれない。

さらに多かった意見として、インターネットで検索した際に、すぐに情報が出てきてほしい、というものがある。特にサポステのヒアリングでは、まずハローワークを調べていく中で、サポステに行き着いた方が多かった。ハローワークとの連携と併せて、事業の特性（ハローワークとの違い等）をアピールした情報発信が有効ではないかと考える。

(3) 困難に配慮した利用のしやすさの整備

サポステでのヒアリングの中で、連絡手段が電話しかないのはしんどい、というご意見があった。人と交流をもってこなかった中で、知らない相手に電話をかけるということは、かなり負担感が大きい。いろいろな来所予約等がインターネット上で出来る時代であるので、特に最初の第一歩は、同じように電話以外の手段での連絡手段の検討が必要と考える。

また、通いやすいよう立地等に関してもご意見があった。外に出ること自体を億劫に感じる人や、公共交通機関の利用に不安を感じる方も多いと思われるなか、施設の設置場所については、十分な検討が必要である。

名古屋市立大学の学生による「中学生の学習支援事業」 利用者及び支援者ヒアリング等調査報告書

1 実施概要

目 的： 名古屋市立大学教養教育科目「地域連携参加型学習」講義において、受講生が「中学生の学習支援事業」の会場見学や利用者・支援者を対象とするヒアリング調査を実施し、考えた事業の課題や解決に向けたアイデアを、若い世代の声として計画策定の参考とする。

対 象 者： 中学生の学習支援事業利用者及び支援者 47 人

実 施 者： 名古屋市立大学「地域連携参加型学習」谷口班 12 人

実施日及び実施内容

令和5年	9月 25 日(月) 10 月2日(月)	事前学習
	11～12 月	学習支援会場での調査(各会場 3 回以上) 会場見学、学習サポート、ヒアリング等
令和6年	1月 29 日(月)	名古屋市への提案と意見交換会

2 現状と課題・提案内容

(1)現状

【フィールドワークで気づいたこと】

◇学習支援事業のよい点

- ・学習活動やイベントの中での繋がりがある
- ・子どもの興味や夢に向き合う姿勢がある
- ・居場所を提供している
- ・学習習慣が形成できる
- ・年齢の近い大学生サポーターの支援により、安心感や話やすさがある
- ・生徒主体の学習が行われており、支援者が強制しない

◇居場所づくり中心や勉強中心など、学習支援会場ごとに特色があり、雰囲気が異なる

<居場所づくり中心の会場>

- 子ども同士の関りが多く、子どもの息抜き場になっている
- 子どもとサポーターの距離が近く、悩みごとを相談しやすい印象
- 勉強があまり好きではない子どもでも気楽に通える環境
- テスト前には集中するため、会場に来ずに家で勉強する子どももいて本末転倒？

<勉強中心の会場>

- 黙々と自分の勉強ができている
- 支援者と子どもの間や、子ども同士で距離感がある

【責任者の意見】

- ◇他の会場の様子がわからない
- ◇他の会場に行くと、雰囲気の差に驚くことがある

【子どもの声】

- ◇学校であったことなどを話せて息抜きの場になっている
- ◇定期的にイベントが開催されたらうれしい
- ◇話せない雰囲気の会場だったら行きたくない
- ◇先生や他の利用者との距離感をもっと近い方がよい

(2)課題と提案

課題①	他の学習支援会場との連携が取れていない →子どもに合った場所に通うことができるのか 会場間で方針に差が出すぎないか
提案①	他の学習支援会場と連携を取る ↓例) 学習支援会場ごとに、会場の特徴や雰囲気に記載したパンフレットを ↓ 作成して、会場責任者に配布するなど、会場間で情報を共有する 他の会場との違いを知ることができ、よい部分を取り入れることや、課題の発見 や改善につながる ➤子どもに応じた場を提供できる ➤会場間格差を軽減できる

課題②	参加申請の手続きが複雑で、親の協力が必要不可欠 (子どもの意思だけで学習支援に参加することができない) →親が子どもの学習に関心を持っている必要がある 家族に参加したい気持ちを伝えることが難しい子どももいるのではないか
提案②	◇学校と連携して申し込めるようにする ➤学校でプリント配布や掲示をしてもらうことで、支援が必要な子どもに情報が 届きやすくなる ➤学習支援を利用したい子どもの意思をより反映しやすくする ◇利用申請期間の制限をなくし、いつでも手続きできるようにする ➤参加を希望する子どもがより参加しやすくなる

課題③	居場所づくりを重視する会場ではお菓子を提供するところもあるが、委託費には お菓子購入費は含まれず、フードバンク等への寄附は年々減少している →事業所によってはお菓子を提供できない
提案③	居場所づくりを重視する会場の委託費には、お菓子購入費を含める ➤お菓子提供を通じて、家では落ち着けない子どもたちがさらに安心できる居場 所となる

課題④	学習支援会場では、学校の教材またはプリントを用いて学習している →学校の教材だけでは、受験への学習量を確保できない 問題と解答だけのプリントでは、自宅での復習が難しい
提案④	名古屋市で参考書の古本回収をし、学習支援会場の子どもに提供する ➤受験に向けた自宅学習をスムーズにする

子育て家庭の座談会

意見聴取の概要

1 企画概要

■タイトル

子育てカタラッテ。

名古屋で子育てするあなたと語らう cafe ～kosodate Catalatte 2023～

■ねらい

なごや子どもの権利条例第 20 条に規定する子どもに関する総合計画を策定するにあたり、広く市民の声を聴き、計画に反映させる取組みの一環として、子育て家庭の座談会を行う。

子育て中の方(母親、父親)が集まり、「子育て」をテーマに不安や喜び、苦労などを話し合う場とする。参加者の発言から、名古屋市の子育て支援の取組みへの意見や、子育てをする当事者から見た制度の課題や検討すべき事項を把握する。

座談会に先駆けて、758キッズステーションで7月から8月にかけて実施する事前アンケートの結果を取りまとめ、座談会で結果の紹介を行う。

■実施日・場所

令和5年9月 12 日(火曜日) 午後 1 時 00 分～午後 3 時 00 分

758 キッズステーションマルチルーム

(中区栄三丁目 18-1 ナディアパークビジネスセンタービル 6 階)

■対象(定員)

子ども(0 歳～18 歳)を持つ親(定員:15 名)

2 事前アンケートのとりまとめ

(1) アンケート概要

- ・アンケート名称:名古屋市からの「子育て」アンケート
- ・実施時期:令和5年7月24日～8月4日
- ・実施場所:名古屋市子ども・子育て支援センター758 キッズステーション
- ・回答者数:18名

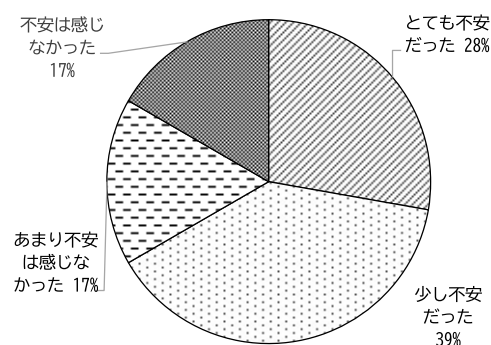
(2) アンケート集計結果

出産前について

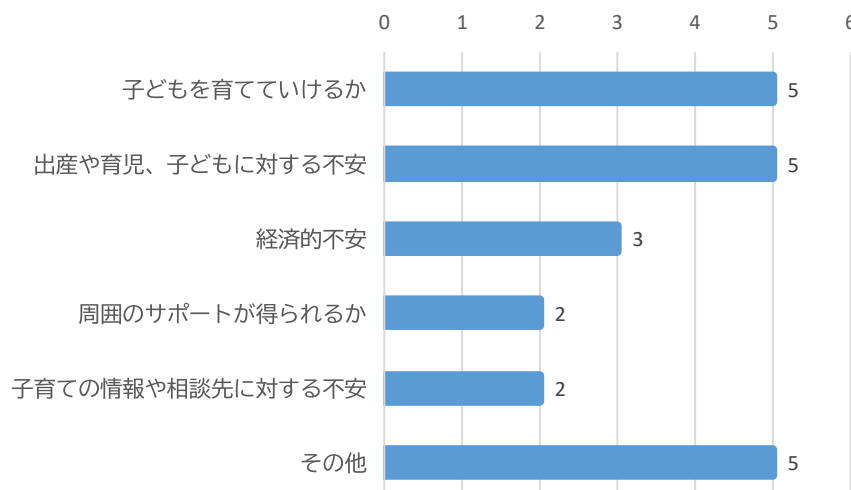
問1 出産前、子どもを生み育てていくことについて、あなたは「不安」を感じたことがありますか？

【集計結果】

「とても不安だった(28%)」「少し不安だった(39%)」を合わせて、約7割の方が出産前、子どもを産み育てていくことに「不安を感じている」ことが分かります。



問2 あなたが「不安」に感じたことは何ですか？（複数回答可）



【集計結果】

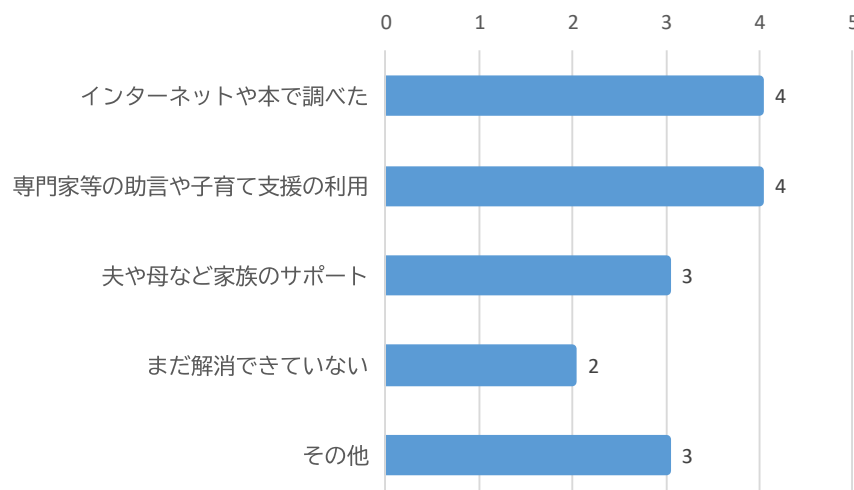
出産前の不安で最も多く挙げられたのは、「子どもを育てていけるか」という育て方の不安や、出産・授乳のイメージや小さい子どもとの関わりそのものに対しての「出産や育児、子どもに対する不安」で、次いで「経済的不安」で、子育て費用に対して不安を感じている声がありました。

「出産や育児、子どもに対する不安」と回答された方は、問1では「とても不安だった」と答えており、出産や子育てのイメージや子どもとうまく関わられるかということが、不安を大きくさせる傾向にあると言えます。

【実際の回答（抜粋）】

子どもという生き物が好きでも嫌いでもなかったので、大丈夫か心配だった
育て方、精神面
小さい子（小学生以下）と関わったことがほとんどなかった。授乳や出産は嫌なイメージだった。
金銭面 自分の体力など
初めての育児なので子育てについて全般分からないことがあった時にどう調べたり誰に聞いたらするといいのかが不安だった
育児についてわからないことが多い。ネットの情報は信憑性が不明なので、正確な情報を得るのにどこに相談したら良いかわからない。シングルマザーなので1人で育てられるか不安だった。
金銭面、これからの日本の未来、保育園に入れるのか
育て方、ワンオペ育児、私も夫も実家が遠方で助けを求めにくいこと

問3 その「不安」をどうやって解消しましたか？（複数回答可）



【集計結果】

不安解消法として最も多く挙げられたのは、「インターネットや本で調べた」や「専門家等の助言や子育て支援の利用」でした。次いで夫に相談したり、母や義母の助けを借りるなど「夫や母などの家族のサポート」でした。

出産前の不安が子育てしながら解消されていく一方で、「まだ解消できていない」との意見があり、子育てをしていく中で、不安を取り去ることの難しさも窺えます。

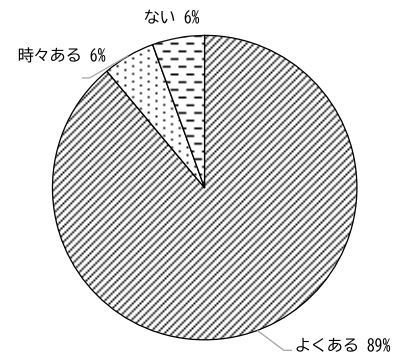
その他の意見では、経済的な不安の対策として「貯金する」、情報収集の手段として「ママ友から聞く」、「子どもがかわいくて不安がなくなった」との声もありました。

現在の子育てについて

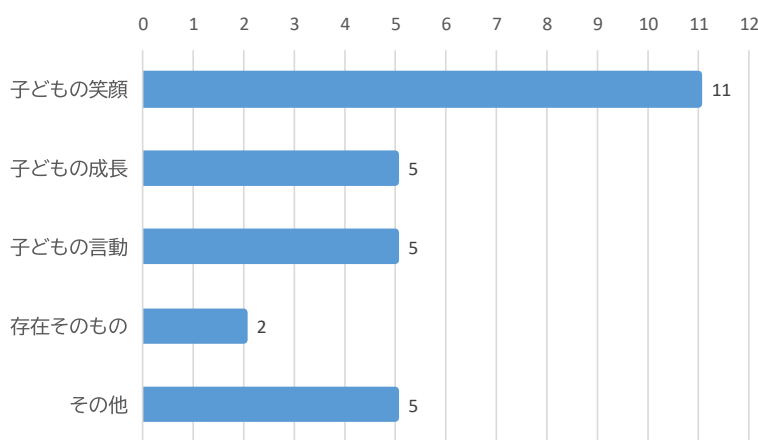
問 4 子育てをしていて「嬉しい」と感じることはありますか？

【集計結果】

「よくある(89%)」という回答が9割近くを占め、「時々ある(6%)」も合わせると、ほとんどの方が、現在の子育てに「嬉しいと感じることがある」と答えています。



問 5 あなたが「嬉しい」と感じることは何ですか？（複数回答可）



【集計結果】

子育ての喜びとして最も多く挙げられたのは、「子どもの笑顔」が圧倒的に多く、次いで少しずつ大きくなることやできることが増えていくといった「子どもの成長」を感じた時、子どもが大好きと言ってくれたり、全力で生きている姿など「子どもの言動」を見聞きした時に喜びを感じるということでした。

その他では、「寝顔」「(子育てによって)自分も成長できる」「子育てを共有できる家族がいる」などの意見がありました。

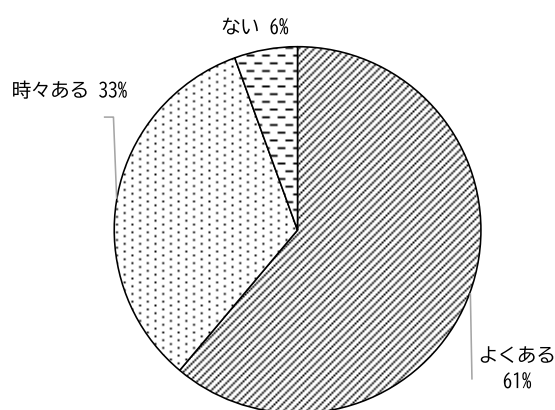
【実際の回答（抜粋）】

話ができるようになったので、簡単な会話が出来ること楽しいことがあると笑ってくれること
子供の笑顔や成長を感じる事
子供が少しずつ大きくなり、できることが増えて行くこと。目を見て笑ってくれたり、声を出してくれること。
にっこり笑ってくれた時、手作りのご飯をたくさん食べてくれた時
存在そのもの
子どもが毎日笑ったり泣いたり遊んだり、全てに全力で過ごしている姿を見ることができ、またそれを共有できる家族がいること。
思いやりのある言葉や行動をしているのをみた時。
なによりも自分の元に生まれてきてくれたことと、守るものができたことそのもの

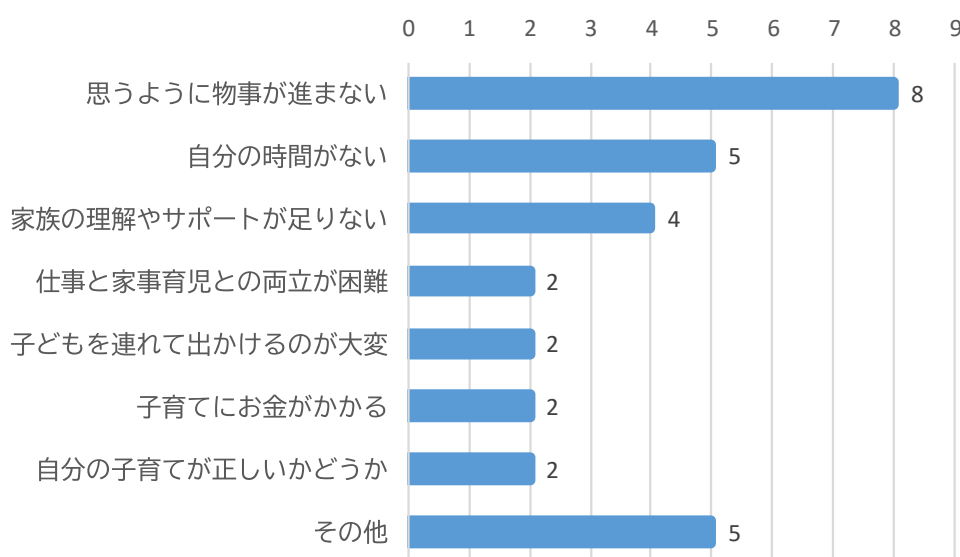
問 6 子育てをしていて「大変」や「不安」と感じることはありますか？

【集計結果】

「よくある(61%)」「時々ある(33%)」を合わせて、9 割以上の方が現在の子育てに「大変さや不安を感じている」ことがわかります。逆に、「感じたことがない」は、僅か 6%しかありませんでした。



問 7 あなたが「大変」や「不安」を感じることは何ですか？（複数回答可）



【集計結果】

子育ての「大変さ」や「不安」として多く挙げられたのは、自分のペースでできない、予定通りに進まない、やることが中断されるなど「思うように物事が進まない」ことでした。次いで「自分の時間がない」ことで、トイレにゆっくり入れなかったり、一時預かりの申込みがしづらかったり、一人の時間を持てても預けた子どもが気になってしっかり休まらないなど、自分の時間が持てないことの理由はさまざまでした。

その他の中には、「怒ってばかりいる」「自分の子育てが正しいのかわからない」といった自分自身に対してのものや、「エレベーター、誰も譲ってくれない」という、「家族の理解やサポートが足りない」「仕事と家事育児との両立が困難」と同様、周りの理解や配慮が足りず、子育てに対して寛容な社会ではないとの意見もありました。

【実際の回答】

自分のペースで物事が進まない時に大変だなと思う。後回しで良いことはもちろん後でやればいいけど、今すぐにやらなければいけないことをすぐに出来ない。
毎日、毎日、気づくと注意やおこっていることがある
子供の主張が強いとき、自分によゆうがないとき、マルチタスクが大変
時間が上手くやりくりできない

慢性的な睡眠不足、金銭面、自分の時間がない、計画通りに物事が進まない
仕事との両立を図るために周囲の人に理解を得ることや子育てについて何が正しいのかなかなか正解のないので
子供に合わせたスケジュールになるので、なかなか予定通りに動けない。荷物も多く、出かけるとすぐに疲れてしまう。
ワンオペである事
自分 1 人の時間がない(ストレスを発散できない)。将来の経済面(子育てにお金がかかりすぎ)。夫への苛立ち(育児に関する勉強、理解、向き合い方が足りない)。仕事復帰は不安しかない(ワーママへの理解がない勤め先だと無理ゲー)。エレベーター、誰も譲ってくれない(社会の理解のなさ、冷徹な世の中)。
トイレにゆっくり入れない
自分の作業がたびたび中断される
家事ができない
ワンオペ育児、一時預かりの申込が取りにくく 1 人時間の確保ができない、免許がないので移動が大変

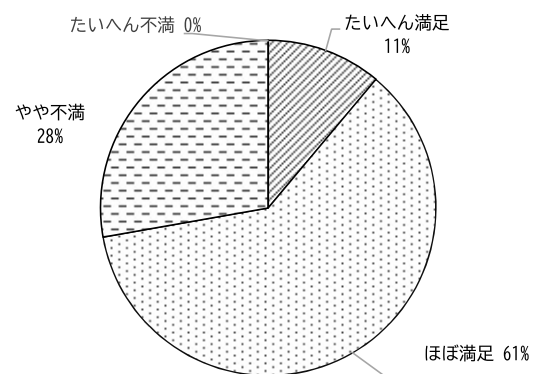
名古屋市の子育て環境について

問 8 名古屋市の子育て環境や支援施策についてどう思いますか？

【集計結果】

「たいへん満足(11%)」「ほぼ満足(61%)」を合わせて、7 割以上の方が名古屋市の子育て環境や支援施策に「満足している」ことがわかります。

逆に、「やや不満(28%)」「たいへん不満(0%)」を合わせ、約 3 割の方が「不満」を感じています。



問9 そう思った「理由」を教えてください。(複数回答可)

【集計結果】

名古屋市の子育て環境や支援施策について「満足」している理由として、子育て支援が充実している、地域に子育て支援施設があるなど「子育て支援」が多く挙がっていました。一方で、「満足」と回答された方の中にも、キッズステーションが狭い、お金がかからない施設が欲しい、2人目からはイベントが減ってしまうなどの意見もありました。

次いで医療費無料や子育て支援金が助かるといった「経済的支援」で、年々サポートの機会や金額が増えて助かっているとの声もあり、コロナや物価高に対応した施策による評価も見られました。

「不満」としている理由としては、公園を整備してほしいや一時預かりを利用しやすくしてほしいといった「子育て支援」とベビーカーでの移動が大変という「移動」について主に挙がっていました。また、「経済的支援」では所得制限によりひとり親で手当を受けたくても受けられなかったと声もあり、行き届かない部分も見受けられました。

その他の意見として、特に不自由なところはない、マイナンバーも煩わしい手続き等を省ける意味では子育て支援になるとの声がある一方で、職場復帰の支援が充実してほしい、充実させることによって、将来国を背負う子どもたちにしわ寄せがいかないかとの意見もありました。

	満 足	不 満
子 育 て 支 援	・支援センターが地域にある ・子供スペースがさまざまなところに設けて頂いていること ・子育て支援が充実していると感じるから ・子育て応援拠点など、地域に親子の遊び場がたくさんある ・2人目から急に色々なイベントがなくなるので、あるとうれしいです 【11件】	・公園が整備されていない(ホームレスがいて入りにくい、草が生い茂っていて危ない) ・一時預かりの制度を増やしてほしい。親は遠方に住んでいて預けられず、旦那の休みが少ないため1人時間を確保できない。 【2件】
経 済 的 支 援	・医療費無料 ・子育て支援金はすごく助かった。 【3件】	・ひとり親だが所得制限があり受けられる手当がなかった。金銭面の支援を受けられると良かった。 【1件】
移 動		・ベビーカーの移動が大変です。施設間の移動に必要以上に遠回りしたり、駅構内でエレベーターに乗れる場所が限られていたり、乗降場所も1~2箇所。そもそもの設備が足りてないと感じます。 【2件】
そ の 他	・たいへん満足でない理由は、この先その分のツケのように彼らが大人になった時に国に収める金額が多くなるなどの代償を負うのではないかと悩んでも仕方ないことを思ってしまうこと 【2件】	・名古屋市のことを思えば職場復帰の支援が充実してほしいです。 ・長時間になる役所の手続きを避けるという意味で、マイナンバーカードによる住民票等の発行ができれば、それも広義の子育て支援になります。 【2件】

問 10 「名古屋市にこんな子育て環境やサポートがあったらいいな！」というご意見やアイデアがあったら、ぜひ教えてください。

【ご意見やアイデア】

①近くや利便性のよいところに子育て支援施設を！

- ・西区那古野に支援拠点作ってほしいです！
- ・駅の近くや車でなくても行きやすい場所に子供の遊び場があると嬉しい。(免許がないため。都内から転勤で来ているため車もない。首都圏からの転勤族は車がない世帯も多く、雨の日や夏は移動がとても大変)

②キッズステーションの存続、拡充を！

- ・758 キッズステーションのような、土日もやっている、小さい子のための遊べる施設はとても助かっています。職員さんもとてもいねいで優しく、すばらしいと思うので、758 キッズステーションのような施設は大切にしてほしいです
- ・キッズステーションをもっと広く、駅近にして欲しい

③子育て中だってリフレッシュしたい！

- ・有料託児の場所が増えると利用しやすいです
- ・もう少し気軽に一時預かりをしてもらえる施設があると助かります
- ・幼稚園で夏期保育の実施園拡大もしくは夏期のみ預け保育可能な施設の紹介
- ・一時預かりの制度を増やしてほしい。(こころとを利用しているが、毎月3分ほどで全ての枠が埋まってしまうほど争奪戦で、周りの話を聞いても一時預かりの需要は高いと感じる)

④昼間だけでなく夜間も利用できるようにしてほしい！

- ・支援センターは昼過ぎや夕方までのところばかりなので、夜までやっているところもあるといい
- ・夜間の一時保育もあると嬉しい

⑤公共空間への配慮を！

- ・除菌シートの普及
- ・授乳室の普及
- ・おむつのゴミ箱が全部匂い対策なされたものになるといいなと思います
- ・多目的お手洗いの充実(オムツ替え授乳可能)
- ・エレベーターの増築

⑥講座やイベントの充実を！

- ・リトミック、ベビーマッサージ、抱っこ講座など、イベントをたくさんやってほしいです！
- ・離乳食講座

⑦ベビーカーでも移動しやすい道路や交通の整備を！

- ・ベビーカーを畳まずに乗れるタクシーがあると良いなと思います。ベビーカーをタクシーのトランクに積んでもらうのですが、よくタクシーの運転手さんが積んでいることを忘れており、天気が悪い中、降車に時間がかかり雨に打たれるなどがある為
- ・ベビーカーが通りやすいように道を整備。交差点にある木を切るな！（信号待ちで日陰が無くなり辛い）

⑧子育て情報の発信方法や内容の充実を！

- ・子育てサロンの情報を LINE で提供して欲しい(紙ベースでは周知に限界があるのでは?)、アプリはダメ、いちいち開く時間さえない
- ・子供が遊べる公園の整備、公園の紹介、子供ウェルカムのお店の紹介など。子供が歓迎されている場所を知りたい

⑨もっと子育てしやすい環境に向けた取り組みを！

- ・上記に述べた通り、とにかく設備とシステムが足りません。一時的な投資は必要ですが、人の手を減らす仕組みとバリアフリーの施設を増やすことが、結果的に未来へ繋がると思います
- ・育休＝休みで楽しいという勘違いが減る教育を取り入れて欲しい、特に男子学生や若い女子学生。子育て世代だけに向けた施策では根本的な解決になってない。子育てのサポートは行政だけでなく、名古屋に暮らすみんながやるべき。もっと若い人(中高生中心)に、保育や育児の世界を知ってもらう授業などを取り入れて、10年後20年後、もっと子育て世代への理解や期待、希望が膨らむ教育をして欲しい。産後ケア事業をもっと手厚く→虐待や心中を防いで欲しい

⑩相談先の増設を！

- ・対面で気軽に相談できる場所がもっと増えたらうれしい。コロナが落ちついて予約不要も増えたが、要予約だとハードルが高い。

⑪連絡しやすい環境を！

- ・区役所への通話を無料にして欲しい。(産後から、役所に病院に、通話料金が極端に増えている)

3 座談会の内容

わくわくプラン2024の成果指標の一つである、「自分のことを好きと答える子ども」を育てるといふ子育ての目標像を、導入テーマとしました。

前半では、『『自分のことを好きと答える子ども』とはどのような子か？どのような育ち？どのような子育て？どのような環境があればいい？』といった大きなテーマについて自由に話し合いました。後半では、名古屋市での子育ての経験と照らして、課題を出し合いました。

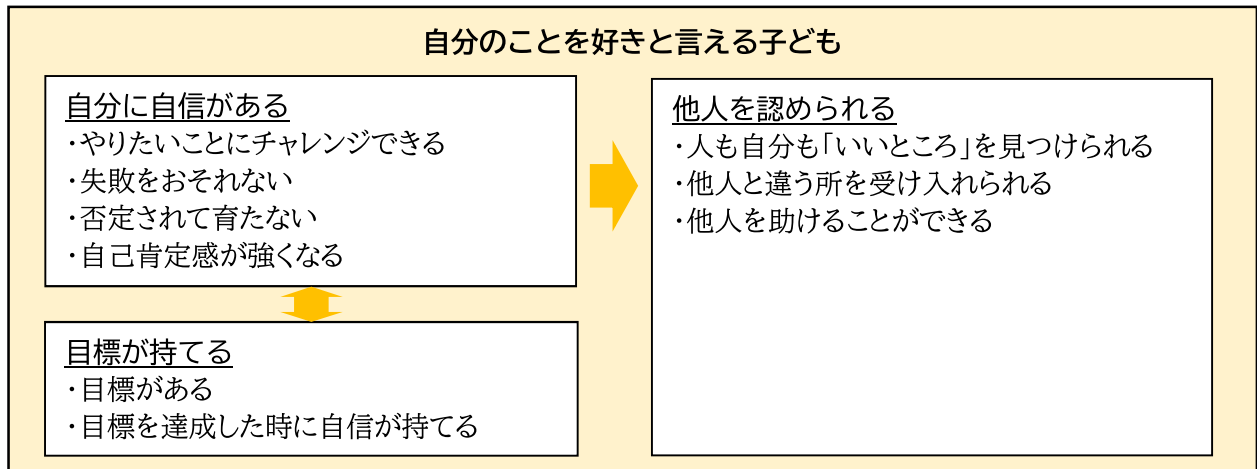
まとめでは、目標像と課題を踏まえて、どのようなモノやコトがあれば実現していけるか、アイデアを出しました。



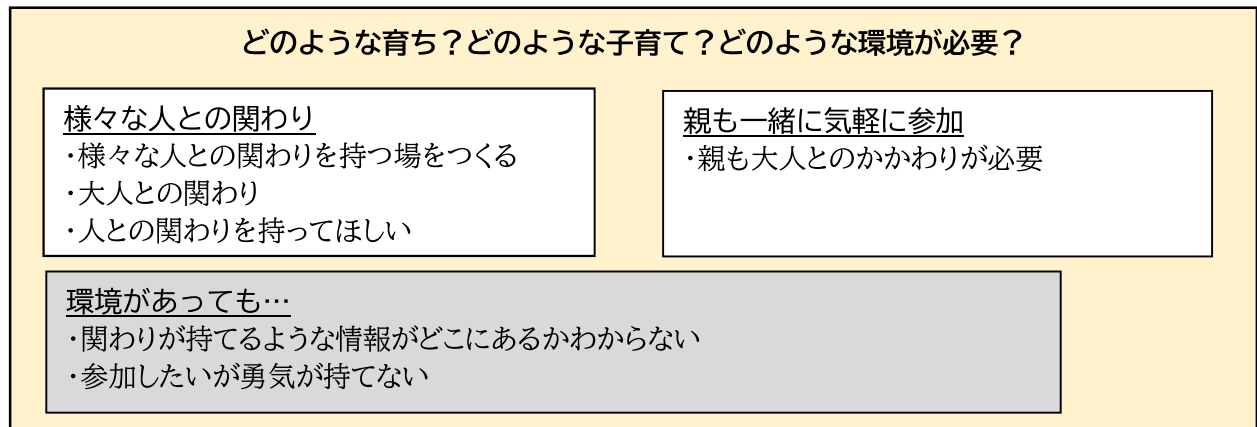
(1) グループトーク結果

Aグループ

①-1 「自分のことを好きと言える子ども」とは、どのような子だろうか？



①-2 どのような育ち？どのような子育て？どのような環境があればいい？



②-1 子育てで、あなたがこころがけていることは？それはどう難しい？なぜ難しい？

心がけていること	それはどう難しい？なぜ難しい？
<遊び> ・子どもといっぱい遊ぶ時間をつくる ・集中を邪魔しない ・イタズラをやらせておく ・毎日写真を撮る、写真をかざる ・家の中にとじこもらない <気持ち> ・子どもがいる時、家族(父親)を怒らない、ケンカしない ・子どもといる時はにこにこする ・上手にできたら、大げさにでもほめまくる ・他の人に迷惑をかけたら、ちゃんと注意する ・過保護にならない ・人と比べない <愛情表現> ・抱きしめて、毎日大好きと伝える ・1日100回愛情表現をするとよい	<時間の余裕> →集中して遊べないときもある →後片付けなどを気にしてしまう →危ないものや持たせたくないものもある、自分での掃除が面倒… →時間がない →その日の気分や子どものタイミングで外に出ないときがある <気持ちの余裕> →イライラして怒ってしまうときもある →子どもを注意しない親御さんも多くいる →比べてできない事が心配になってしまう

②-2 どのような場や環境、支援があれば、そういう子育てができる？

子育ての課題

<自分自身が困っていること>

- ・気持ち、時間の余裕を持ちたい
- ・子育てで心がけたいことをできるだけやりたい
- ・児童館などで会う親御さんには、毎回会うので、逆に悩み相談ができない

<家庭で（現在困っていること）>

- ・夫の協力が無い
- ・育休を夏休みと思っている夫に困っている
- ・プレパパに子育て支援施設に行ってほしい
- ・産休育休に対する理解がない（職場）



どのような場や環境、支援が必要？

自治体で

- ・1才以降の支援がほしい
- ・キッズステーションの講座が人気で受講できない
- ・一時預かりよりもっと手軽な何か
- ・気軽に話せる子育てサロンがほしい
- ・離乳食を食べさせられる所が少ない
- ・オンライン講座がもっとほしい！知名度なさすぎる！
- ・男性に育児に対する意識の啓発
- ・児童館、夏休みも赤ちゃんプログラムやって！
- ・子育て支援施設の大きいマップがほしい
- ・講演とか本当に必要な講座を開いてほしい
- ・保育園をもっと入りやすくしてほしい、数を増やして
- ・子育て教室の開催

社会

- ・制度は充分整っているはずなのに人の意識改革ができていない。
- ・テレワークの普及
- ・子育て教室の開催



Bグループ

① -1 「自分のことを好きと言える子ども」とは、どのような子だろうか？

だんだんチャレンジしようとしなくなってしまう・・・失敗を恐れる

▲否定的な言葉、プレッシャー

◎ちゃんと見てるからやってみよう、そばで見守る、あと押しする



失敗しても否定されない

- ・失敗しても否定しない、されない
- ・自分で頑張ったと自分を褒められる
- ・つまづいても(ころんでも)立ち上がる手段を知っている



大切にされている

- ・愛されている、大切にされている、必要とされている…と感じられている
- ・誰が自分のことを好きか知っている
- ・自分の事を「好き」と言ってくれる人がいる
- ・ちゃんと見てくれている、分かってもらえる、対価なく愛してもらっている



自分の意見を認めてくれる



自分の意志で行動できる



好きなことが言える

- ・得意なことがある
- ・好きなことに取り組める、好きなことがある
- ・自分の「好き」が言える(アイデンティティの確立)



親以外の大人と接して、社会経験を積んで・・・

- ・ 自分は自分、他人は他人と考えられるようになる
- ・ 自分と周りを比較しない (劣等感を感じない)



①-2 どのような育ち？どのような子育て？どのような環境があればいい？

(②-1 子育てで、あなたがこころがけていることは？それはどう難しい？なぜ難しい？を含む)

日々のコミュニケーションの心がけ

子ども本人にたずねる、つたえる

- ・子どもの「私のことをちゃんと見て」に応えるには？
- ・子ども本人がどこをがんばったのか？本人に尋ねるのが大事
- ・ママにも体調も浮き沈みがあること
- ・具体的にほめる

②-2 どのような場や環境、支援があれば、そういう子育てができる？

心・時間・お金のゆとり が必要（ほしい）

- ・家に帰ったら子どもと過ごせる時間
- ・親が子に向き合える余裕、時間
- ・色々なことを経験できるお金、機会
- ・残業のない職場

仕組み・取組み

- ・不安を減らす取り組み(経済的、インフラ的)
- ・病児保育の充実
- ・働き方・育て方改革
- ・社会全体で子育てする仕組み
- ・子どもの頑張りを見てくれる場

親に余裕をつくる支援

- ・一時預かり
- ・積極的な子育ての手伝い
- ・こういう子育てが いいですよ～というセミナー



4 座談会に関するまとめ

①-1 「自分のことを好きと言える子ども」とは、どのような子だろうか？

- 自信を持てると、他人を認められる子になるのではないか。目標を持ち、それを達成することで自信につながるといふ、いい循環ができるだろう。
- 「大切にされている」ことが実感できることが原点ではないか。そうすれば、「自分の意見を認めてくれている」ことが感じられ、自信をもって「自分の意志で行動できる」し「好きなことを好きと言える」。「失敗しても否定されない」ことは大切で、それが「チャレンジしようと思える」ことの基礎になる。
- いずれのグループでも、自分で目標を立てること、チャレンジすること、が成長の中で注目されている。自信があることは「自分のことを好きと言える子ども」の重要な要件であると考えられ、その背後には、まずは「大切にされている」と実感することができるとの関係性が必要であると考えられる。

①-2 どのような育ち？どのような子育て？どのような環境があればいい？

- 様々な人と関わり合う関係性が、自信を育てるために必要だろう。また親も子どもと同じように、家庭外の開かれた大人の関係性に参加することが重要。
- 日々のコミュニケーションの心がけが大切で、子ども扱いせず、子ども本人に言葉で伝える。子どもが「見て見て」と作品を持ってきたら、「どこを工夫したのかな？」と本人に問いかけ、具体的にほめるなど、丁寧な向き合い方をする。
- 母親もいつも完璧なわけではない、今日は体調がよくない、など、母親の状況や本音を無理せずに伝えるほうがいいのではないか。
- 以上から、親との対等な関係性、親以外の大人との開かれた関係性、が重要であると考えられる。

②-1 子育てで、あなたがこころがけていることは？それはどう難しい？なぜ難しい？

- 子どもとゆったり遊ぶこと、気持ちに余裕をもって子どもと接する、しっかりと愛情表現するなど、気持ちの余裕をもって子どもと接することを心掛けている。
- それが難しい時は、「時間の余裕がない時」、「気持ちの余裕がない時」など。

②-2 どのような場や環境、支援があれば、そういう子育てができる？

- 「心・時間・お金のゆとり」が必要。
- そのために、「経済面、インフラ面で不安を減らす」「病児保育の充実」「働き方・育て方改革」「子どもの頑張りを見てくれる場（親だけで閉鎖的な子育てをしなくていいようにする環境）」「子育て講座などのセミナー・プログラム・オンライン講座」「保育園の入りやすさ」などの仕組みや環境がほしい、という意見が出た。
- また、社会（職場等）には、産休育休への理解、職場の人の子育てへの理解、などが進んでほしい、という意見があった。
- 「親の心に余裕をつくる支援」として、「一時預かり」などの充実や、「一時預かりよりももっと手軽に利用できる仕組み」が求められている。

名古屋市からの「子育て」アンケートのお願い

名古屋市では「子どもに関する総合計画」策定の参考にさせていただくため、広く市民のみなさまから意見を伺いたいと考えており、その一環として、子育て世帯の方による「座談会」を開催します。座談会に先駆けてアンケート調査を行いますので、ぜひご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

アンケートはオンラインでもご回答いただけます。
オンラインの場合は右の二次元コードからアクセスしてください。
オンラインで回答いただいた場合は、本調査票の提出は不要です。



名古屋市子ども青少年局企画経理課

出産前について

問1 出産前、子どもを生み育てていくことについて、あなたは「不安」を感じたことがありますか？ <あてはまる番号に○をつけてください>

- | | | | |
|------------|------|----------------|------|
| 1 とても不安だった | ⇒問2へ | 3 あまり不安は感じなかった | ⇒問4へ |
| 2 少し不安だった | ⇒問2へ | 4 不安は感じなかった | ⇒問4へ |

問2 あなたが「不安」に感じたことは何ですか？

(例:子どもの育て方、金銭面 等)

問3 その「不安」をどうやって解消しましたか？

(例:NPO 等の支援機関へ相談、本やインターネットで調べる 等)

現在の子育てについて

問4 子育てをしていて「嬉しい」と感じることはありますか？

<あてはまる番号に○をつけてください>

- | | | | |
|--------|------|------|------|
| 1 よくある | ⇒問5へ | 3 ない | ⇒問6へ |
| 2 時々ある | ⇒問5へ | | |

問5 あなたが「嬉しい」と感じることは何ですか？

(例:子どもの笑顔が安らぎや生きがいを与えてくれる等)

問6 子育てをしていて「大変」や「不安」と感じることはありますか？

<あてはまる番号に○をつけてください>

- | | | | |
|--------|--------|------|--------|
| 1 よくある | ⇒問 7 へ | 3 ない | ⇒問 8 へ |
| 2 時々ある | ⇒問 7 へ | | |

問7 あなたが「大変」や「不安」と感じることは何ですか？

(例:仕事や自分のやりたいことができない、家族の協力が得られにくい 等)

名古屋市の子育て環境について

問8 名古屋市の子育て環境や支援施策についてどう思いますか？

<あてはまる番号に○をつけてください>

- | | |
|----------|----------|
| 1 たいへん満足 | 3 やや不満 |
| 2 ほぼ満足 | 4 たいへん不満 |

問9 そう思った「理由」を教えてください。

(ご自由にお書きください)

問10 「名古屋市にこんな子育て環境やサポートがあったらいいな！」というご意見やアイデアがあったら、ぜひお教えてください。

(ご自由にお書きください)

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました！
8/4(金)までに「子ども・子育て支援センター」の職員へ提出をお願いします。



なごや子どもの権利条例マスコットキャラクター なごっち

令和 5 年度

名古屋市子ども・若者・子育て家庭

意識・生活実態調査報告書（概要）

令和 6 年 3 月

名 古 屋 市

1 調査目的

令和 6 年度に策定予定のなごや子どもの権利条例第 20 条の規定による「子どもに関する総合計画」及び子ども・子育て支援法第 61 条の規定による「市町村子ども・子育て支援事業計画」策定の基礎資料とするため、子ども・若者・子育て家庭の意識・生活実態・ニーズ等を調査する。

2 調査対象

名古屋市内に居住する者のうち、次の年齢に該当する者等を住民基本台帳から無作為に抽出し、調査対象とした。

① 子育て家庭

ア) 0 歳～5 歳の子どもの属する世帯（就学前保護者） 12,000 世帯

イ) 6 歳～17 歳の子どもの属する世帯（就学後保護者） 12,000 世帯

② 子ども 10 歳～17 歳の子ども 8,000 人

①のイ)のうち、子どもが10歳以上の世帯について子どもも調査対象とした。

③ 若者 18 歳～39 歳 10,000 人

3 調査方法

調査票を郵送で配布し、郵送またはオンラインによる回答を対象者が選択。

4 調査期間

令和 5 年 7 月 3 日から 7 月 24 日

5 回収結果

区分	調査対象数	回収数	回収率 (%)
就学前保護者	12,000	3,596	30.0
就学後保護者	12,000	3,017	25.1
子ども	8,000	1,516	19.0
若者	10,000	1,951	19.5
合計	42,000	10,080	24.0

目 次

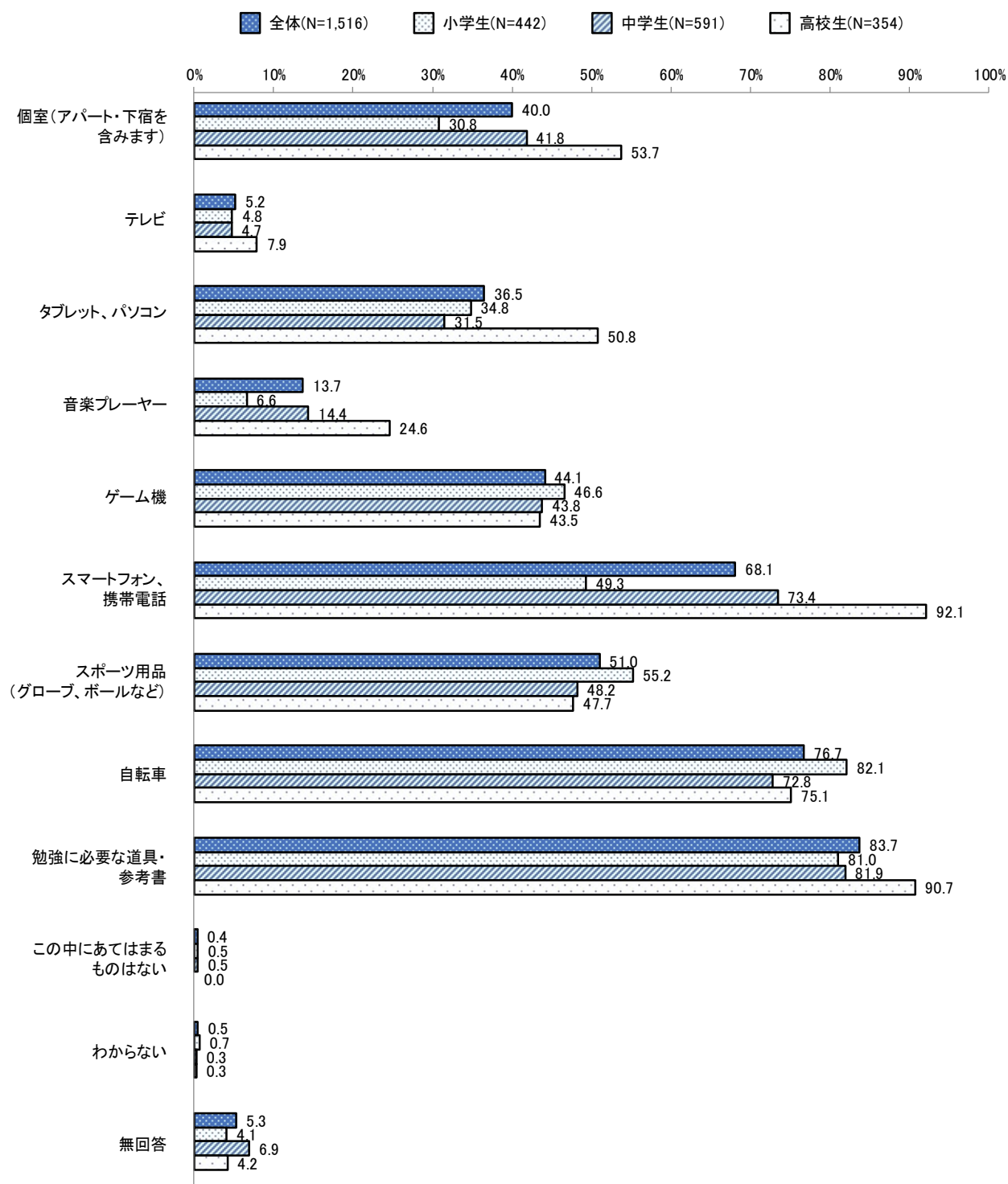
I	子ども調査	1
	自分専用の持ち物について【問 11】	1
	インターネットの使用時間について【問 12】	2
	経済的な生活レベルについて【問 14】	3
	通っている学校について【問 21】	3
	悩みの相談相手について【問 27】	4
	自分のことが好きかについて【問 32】	5
	今の生活の満足感について【問 34】	5
	40 歳になったときの状態について【問 43】	6
	なごや子どもの権利条例を知っているかについて【問 45】	7
II	若者調査	8
	あなたの経済状況について【問 2】	8
	経済的に独立するのに必要な支援について【問 4】	8
	結婚願望の有無について【問 15】	9
	結婚に対する不安について【問 16】	9
	子どもが欲しいかについて【問 18】	10
	子どもが欲しいとは思わない理由について【問 19】	11
	少子化対策として必要な支援について【問 20】	12
	5 年後の自分のイメージについて【問 48】	13
	居場所について【問 52】	13
III	子育て家庭調査	14
	地域の子育ての状況について【問 6】	14
	なごや子どもの権利条例について【就学前問 8・就学後問 9】	15
	名古屋市の子育て支援の取り組みについて【就学前問 10・就学後問 11】	
	（1）期待の有無	16
	（2）現状の満足度	18
	両親の就労状況について【就学前問 11・18、就学後問 12・19】	20
	出産にともなう母親の退職や転職について【就学前問 25・就学後問 26】	21
	育児休業の取得について【就学前問 27】	21
	家事・子育ての分担について【就学前問 32・就学後問 31】	22
	子育ての経済的負担について（世帯の暮らし向き）【就学前問 71・就学後問 32】	23
	少子化対策として特に必要だと思う支援【就学前問 83・就学後 47】	24
	お子さんの人数について【就学後問 84・就学後問 48】	26
	お子さんの人数が理想とする人数より少ない理由について【就学前問 85・就学後問 49】	27

I 子ども調査

自分専用の持ち物について 【問 11】

■あなた「専用」のものを持っていますか。(複数回答)

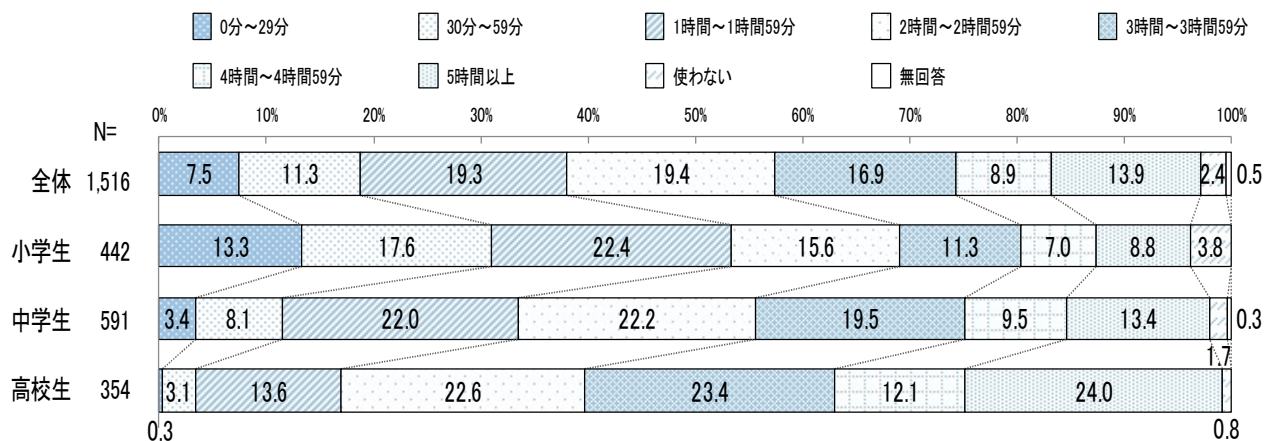
- ◇ 全体では、「勉強に必要な道具・参考書」が83.7%で最も多く、次いで「自転車」が76.7%、「スマートフォン、携帯電話」が68.1%となっている。
- ◇ 「勉強に必要な道具・参考書」は、小学生、中学生、高校生のいずれも同様に、80%以上と高い割合がみられる。
- ◇ 「勉強に必要な道具・参考書」以外で割合が高いのは、小学生の場合は「自転車」、中学生、高校生の場合は「スマートフォン、携帯電話」である。



インターネットの使用時間について 【問 12】

■学校の授業以外で、タブレット、パソコンやスマートフォン、携帯電話などでインターネットを1日どのくらい使いますか。(1つ)

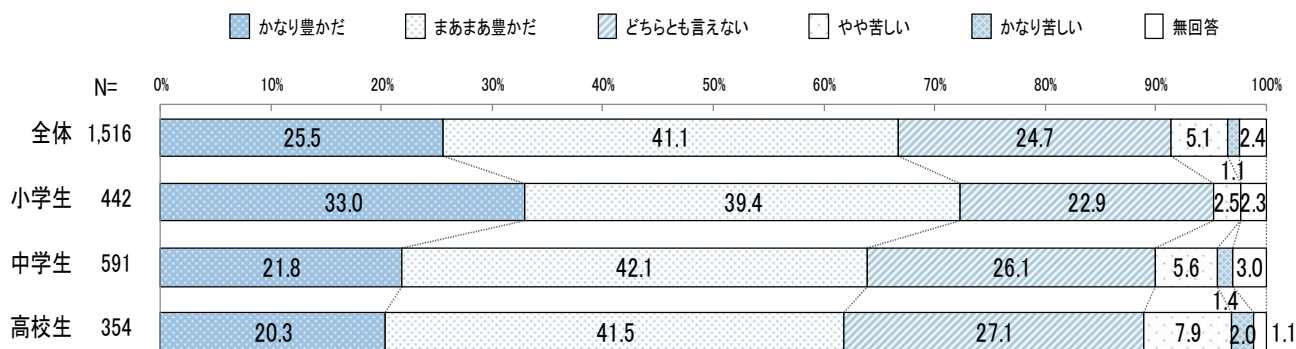
- ◇ 全体では、「2 時間～2 時間 59 分」が 19.4%で最も多く、次いで「1 時間～1 時間 59 分」が 19.3%、「3 時間～3 時間 59 分」が 16.9%となっている。
- ◇ 高校生になるにつれて、2 時間未満の割合は低くなっているが、2 時間以上の割合は高くなっている。



経済的な生活レベルについて 【問 14】

■あなたの家庭の「経済的な生活レベル」について、あなたはどのように思いますか。（1つ）

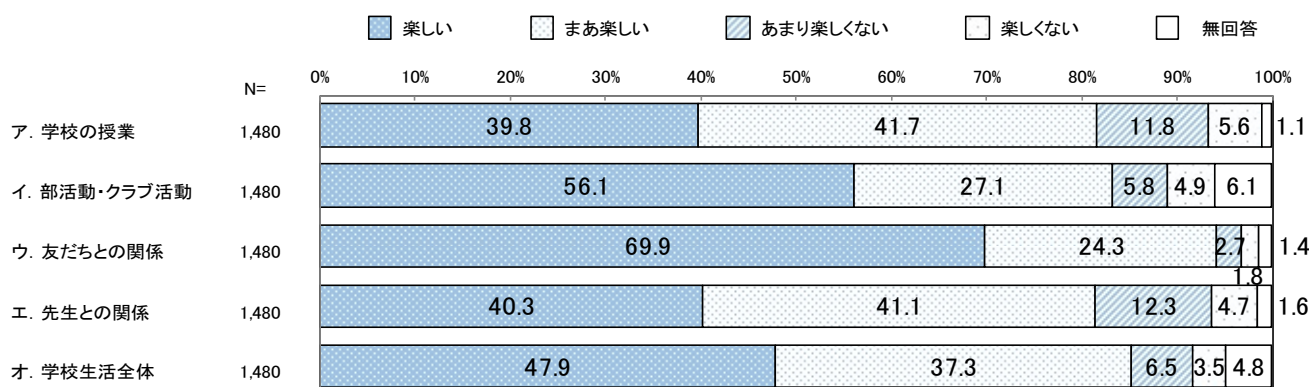
- ◇ 全体では、「まあまあ豊かだ」が 41.1%で最も多く、次いで「かなり豊かだ」が 25.5%であり、66.6%は豊かだと回答している。
- ◇ 小学生の場合、豊かだと感じている割合は 72.4%であるが、高校生になるにつれてその割合が低下し 61.8%となる。



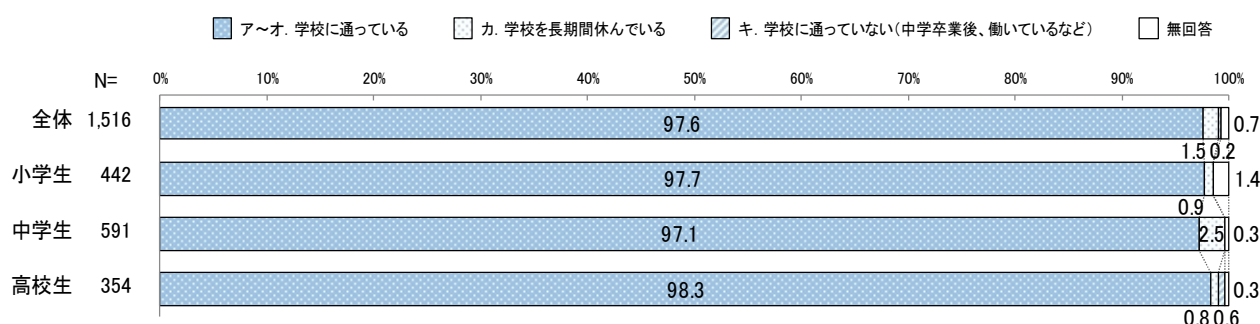
通っている学校について 【問 21】

■いま通っている学校での生活は楽しいですか。（各 1つ）

- ◇ 全体において、「楽しい」と回答している項目は、「友だちとの関係」が 69.9%と最も高く、次いで「部活動・クラブ活動」が 56.1%、「学校生活全体」が 47.9%である。
- ◇ 全体において、「楽しくない」と回答している項目は、「学校の授業」が 5.6%と最も高く、次いで「部活動・クラブ活動」が 4.9%である。
- ◇ 長期間学校を休んでいる子どもの割合は全体で 1.5%である。



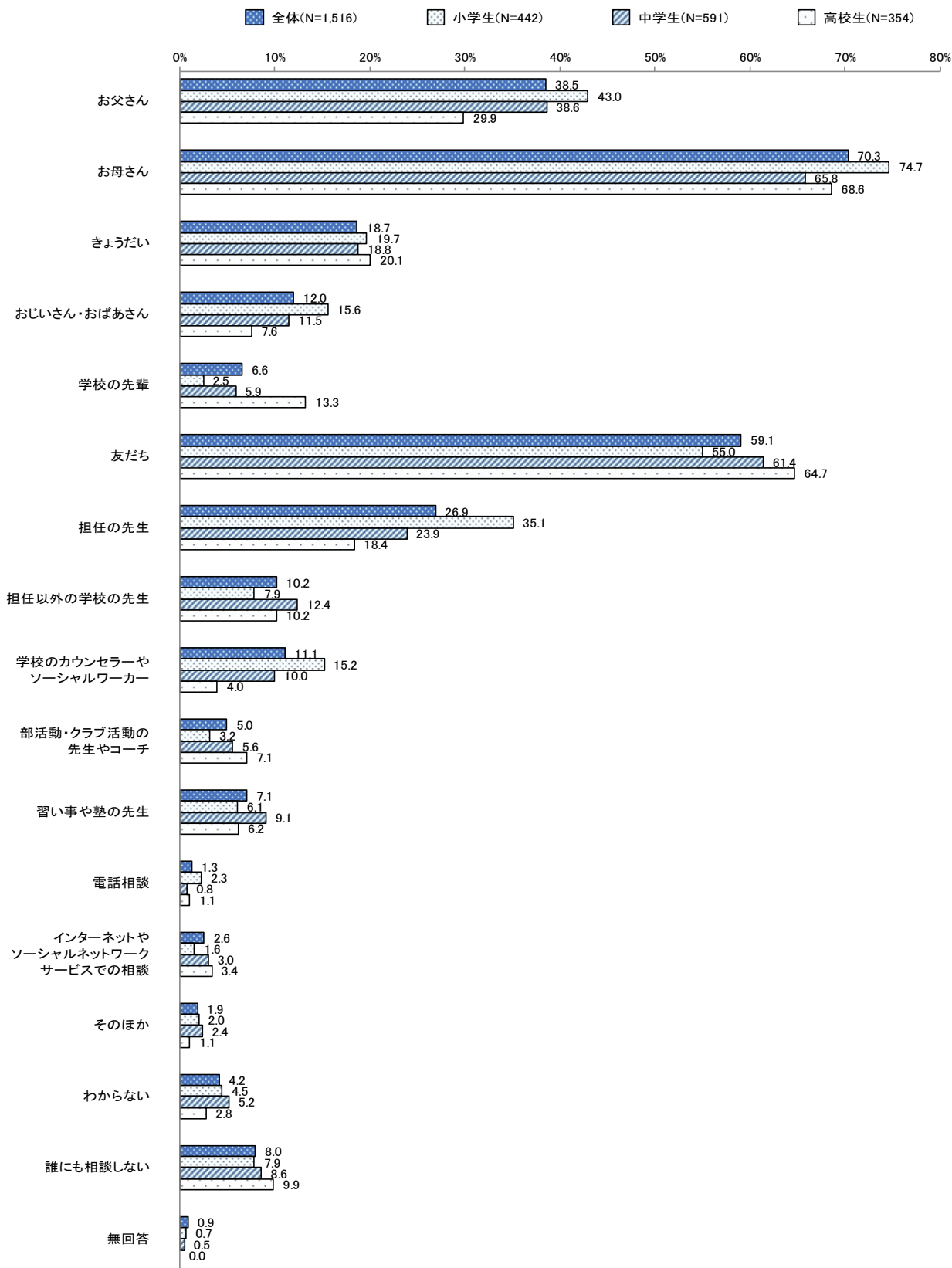
【学校に通っているか】



悩みの相談相手について 【問 27】

■ 悩みや困ったことがあるときに相談する人はだれですか。（複数回答）

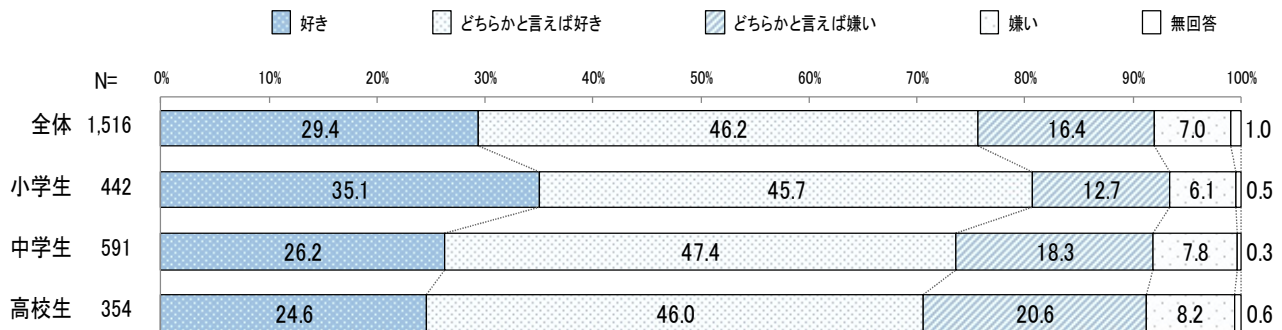
- ◇ 全体では、「お母さん」が70.3%で最も多く、次いで「友だち」が59.1%、「お父さん」が38.5%、「担任の先生」が26.9%、「きょうだい」が18.7%となっている。
- ◇ 「お父さん」「お母さん」に相談する割合は、ともに小学生が最も高い。



自分のことが好きかについて 【問 32】

■ 自分のことが好きですか。（1つ）

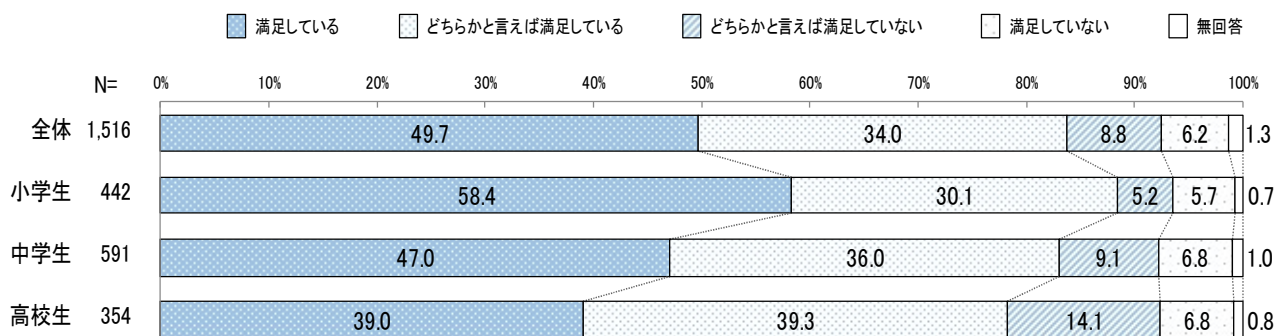
- ◇ 全体では、「どちらかといえば好き」が46.2%、「好き」が29.4%となっている。
- ◇ 高校生になるにつれて「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の割合が高くなる。



今の生活の満足感について 【問 34】

■今の生活に満足していますか。（1つ）

- ◇ 全体では、「満足している」が49.7%、「どちらかといえば満足している」が34.0%である。
- ◇ 高校生になるにつれて、「満足している」の割合が低くなる。

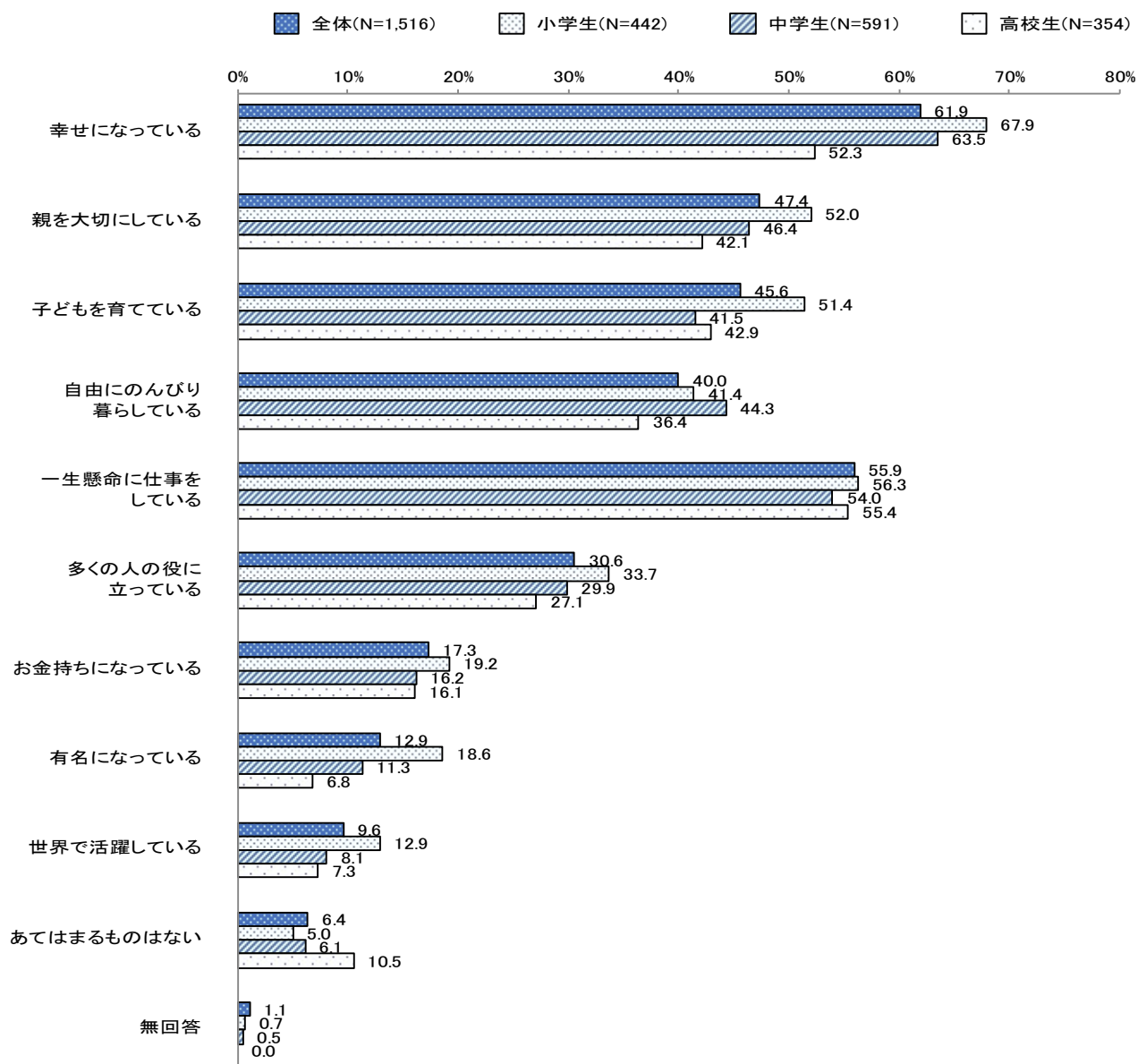


40 歳になったときの状態について 【問 43】

■あなたが40 歳くらいになったとき、次のような状態になっていると思いますか。

(複数回答)

- ◇ 全体では、「幸せになっている」が61.9%で最も多く、次いで「一生懸命に仕事をしている」が55.9%、「親を大切にしている」が47.4%、「子どもを育てている」が45.6%となっている。
- ◇ 「一生懸命に仕事をしている」の割合は、学校種別でほとんど差はなく、いずれも55%前後となっている。

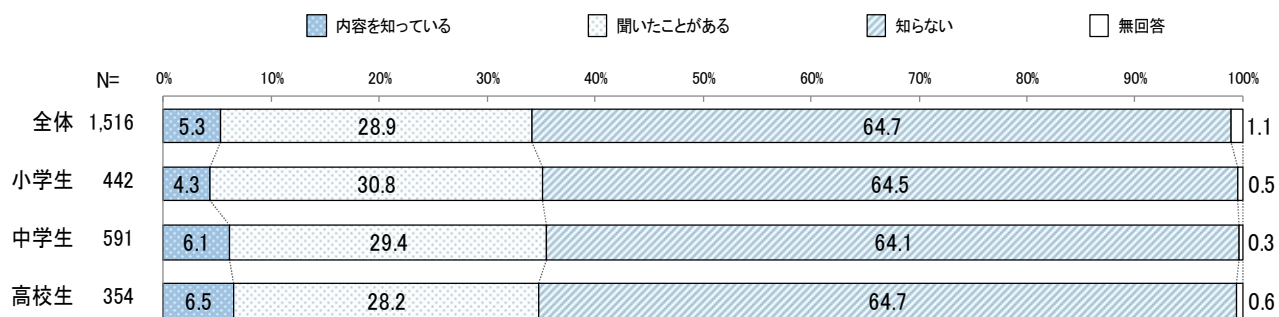


なごや子どもの権利条例を知っているかについて 【問 45】

■ なごや子どもの権利条例を知っていますか。(1つ)

◇ 「知らない」が64.7%と全体の6割以上を占める。

◇ 小学生の「内容を知っている」割合が4.3%で、高校生になるにつれて高くなる。

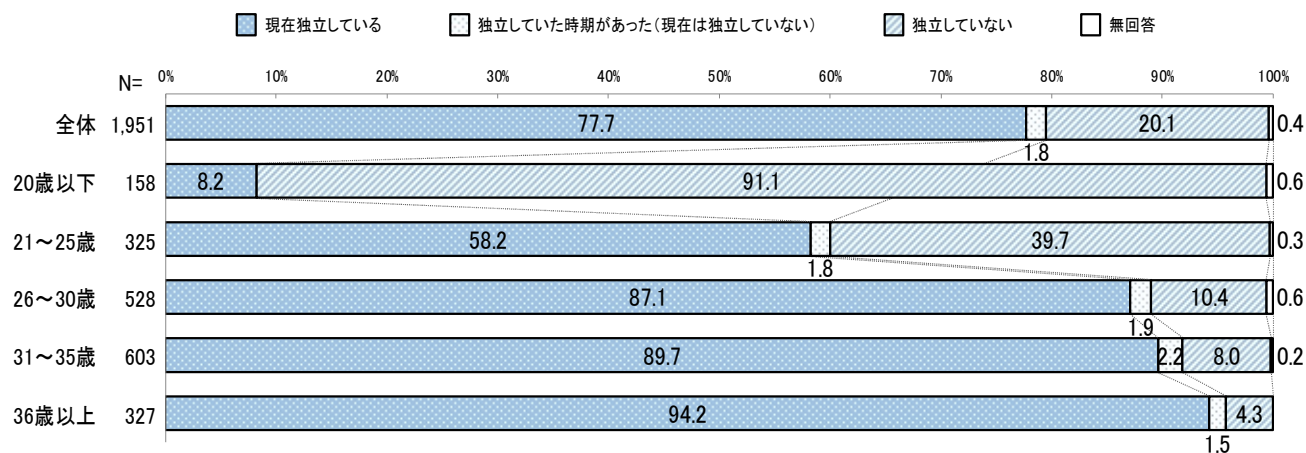


Ⅱ 若者調査

あなたの経済状況について 【問 2】

■現在、あなたは親から経済的に独立していますか。(1つ)

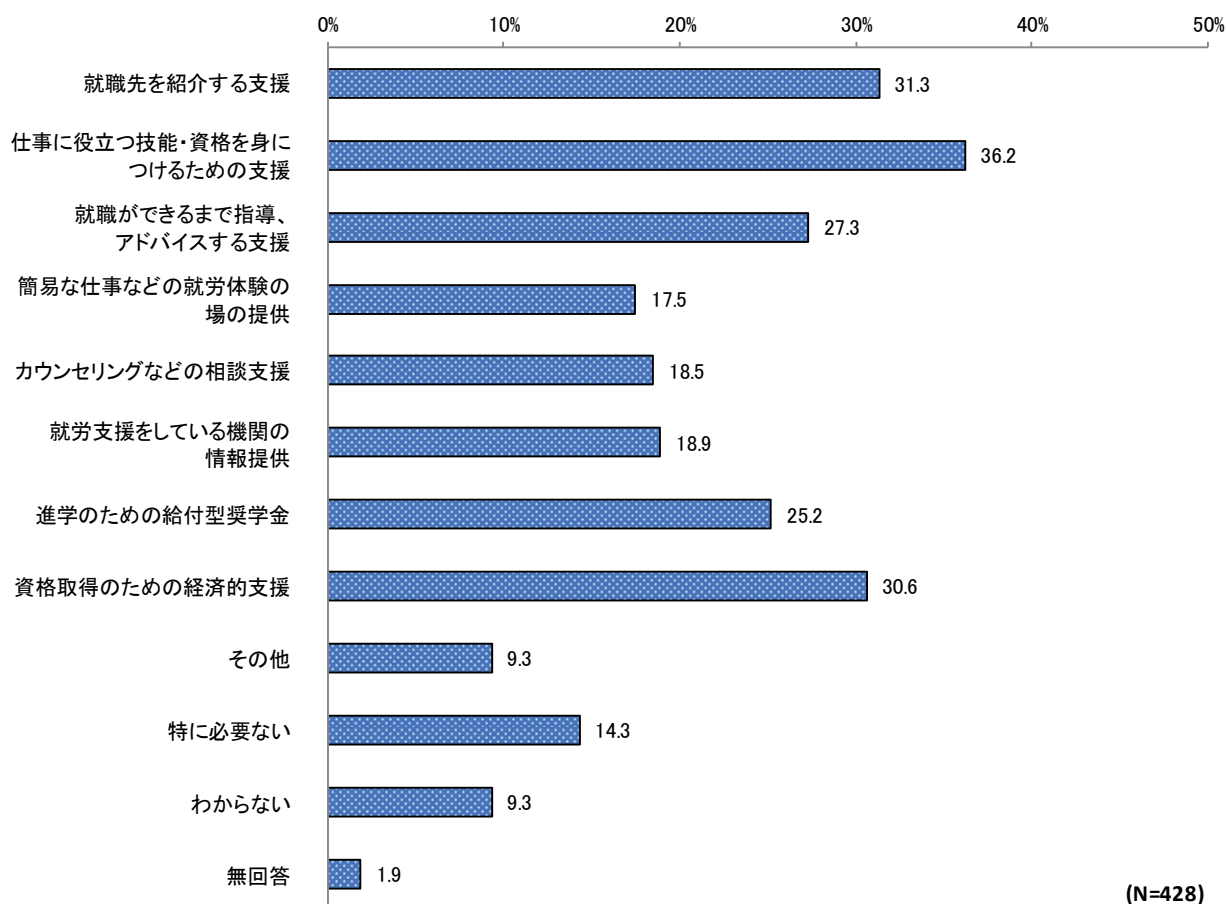
◇ 全体では、「現在独立している」が77.7%と最も多く、次いで「独立していない」が20.1%となっている。



経済的に独立するのに必要な支援について 【問 4】

■経済的に独立するために、あなたが必要だと思う支援は何ですか。(複数回答)

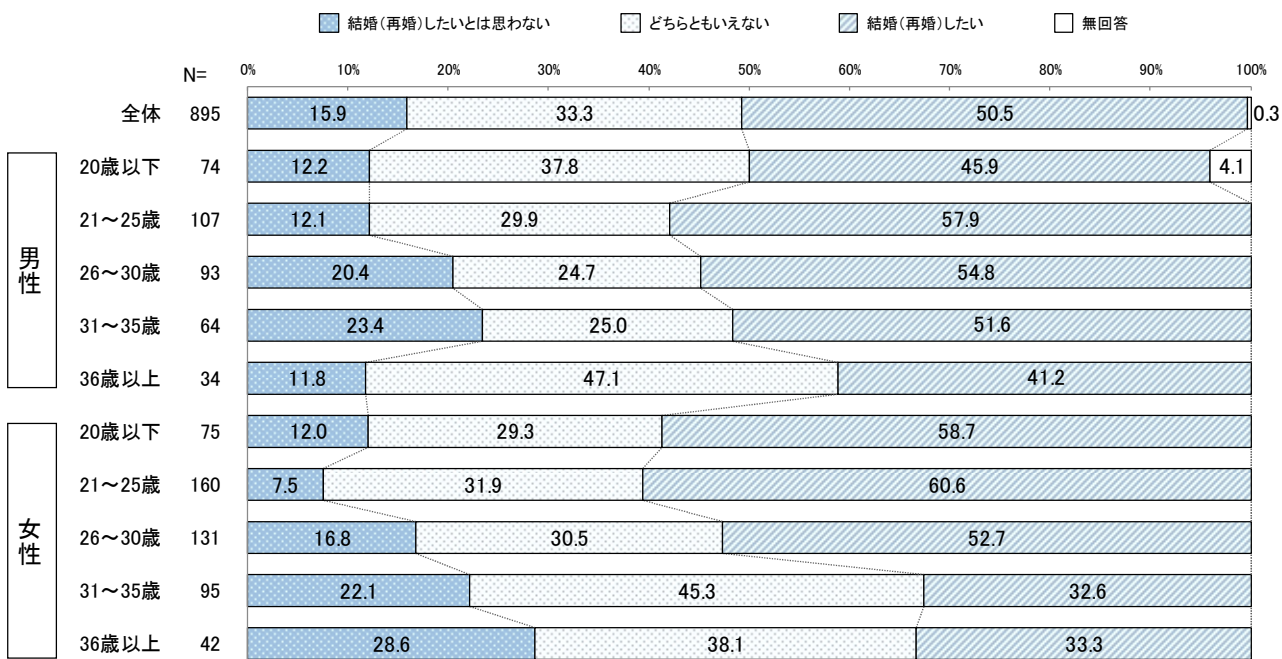
◇ 「仕事に役立つ技能・資格を身につけるための支援」が36.2%と最も多く、次いで「資格取得のための経済的支援」が30.6%となっている。



結婚願望の有無について 【問 15】

■ 将来、結婚（再婚）したいですか。（1つ）

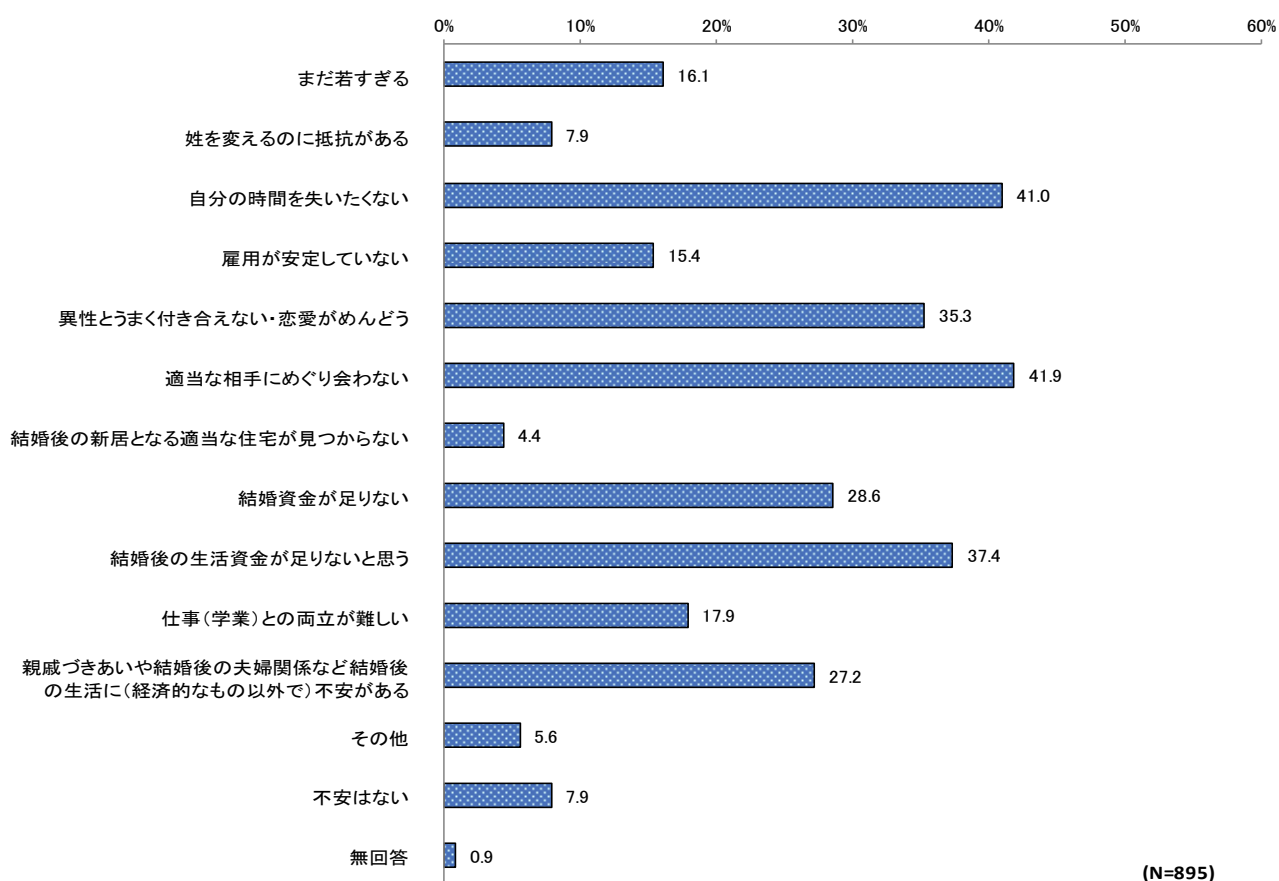
◇ 全体では、「結婚（再婚）したい」が 50.5%と最も多い。



結婚に対する不安について 【問 16】

■ 結婚について不安に感じていることはありますか。（複数回答）

◇ 「適当な相手にめぐり会わない」が 41.9%と最も多く、次いで「自分の時間を失いたくない」が 41.0%となっている。

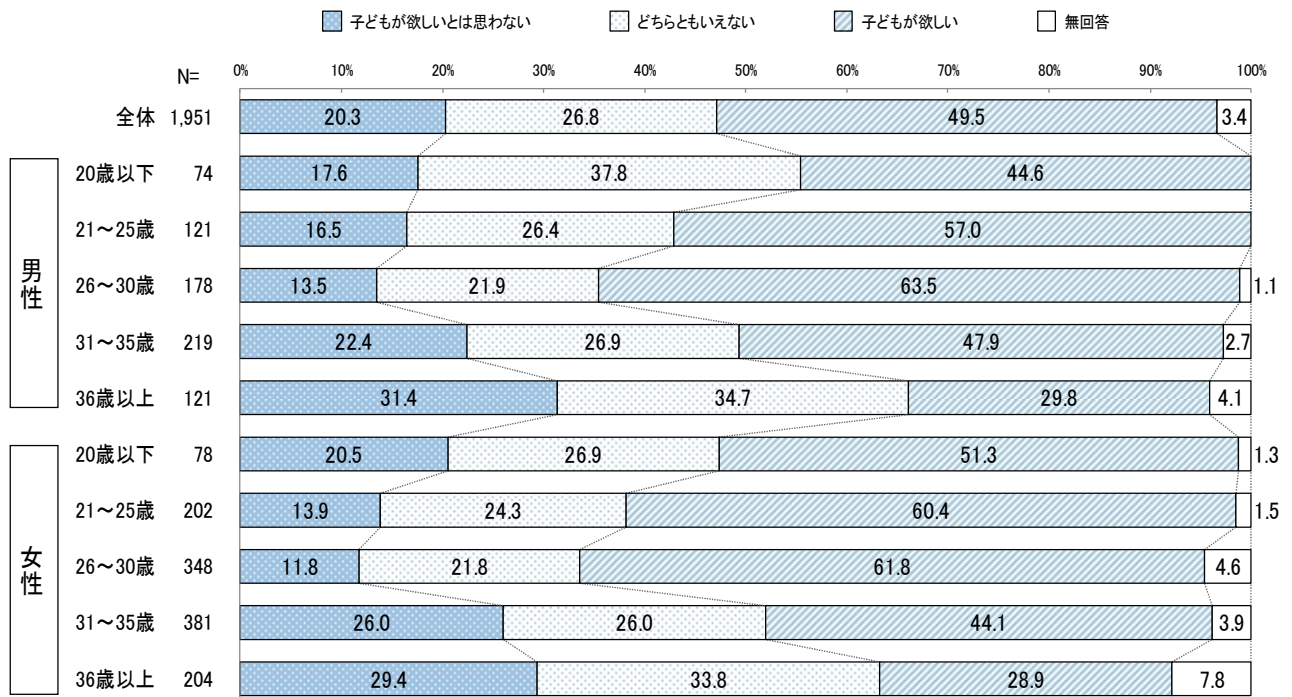


(N=895)

子どもが欲しいかについて 【問 18】

■ 将来、子どもが欲しいですか。すでにお子さんがいる方も、もっと子どもが欲しい、という方は「子どもが欲しい」を選んでください。(1つ)

◇ 全体では、「子どもが欲しい」が 49.5%と最も多い。

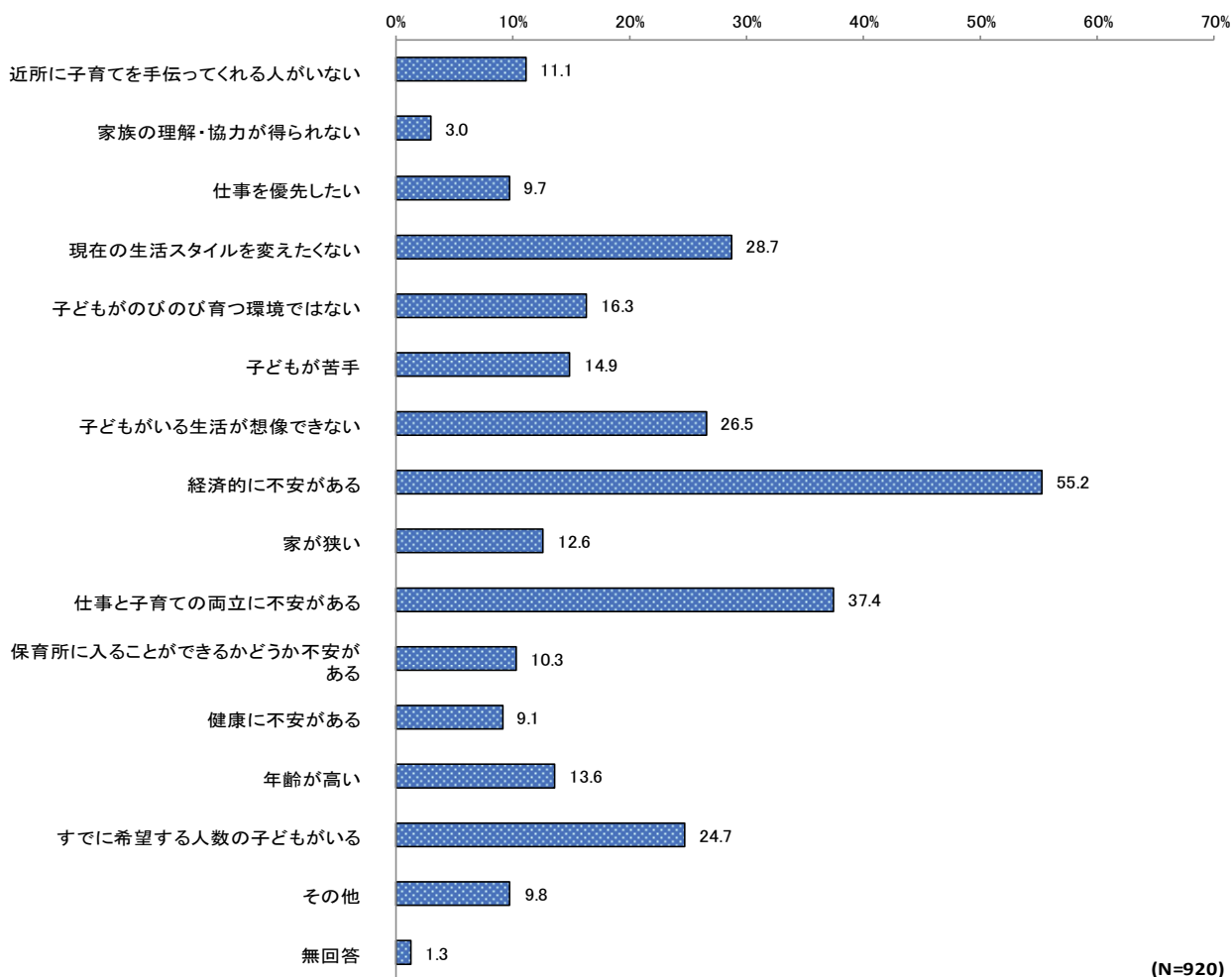


子どもが欲しいと思わない理由について 【問 19】

■子どもが欲しいとは思わない理由またはどちらともいえない理由は何ですか。

(複数回答)

◇ 「経済的に不安がある」が 55.2%と最も多く、次いで「仕事と子育ての両立に不安がある」が 37.4%となっている。

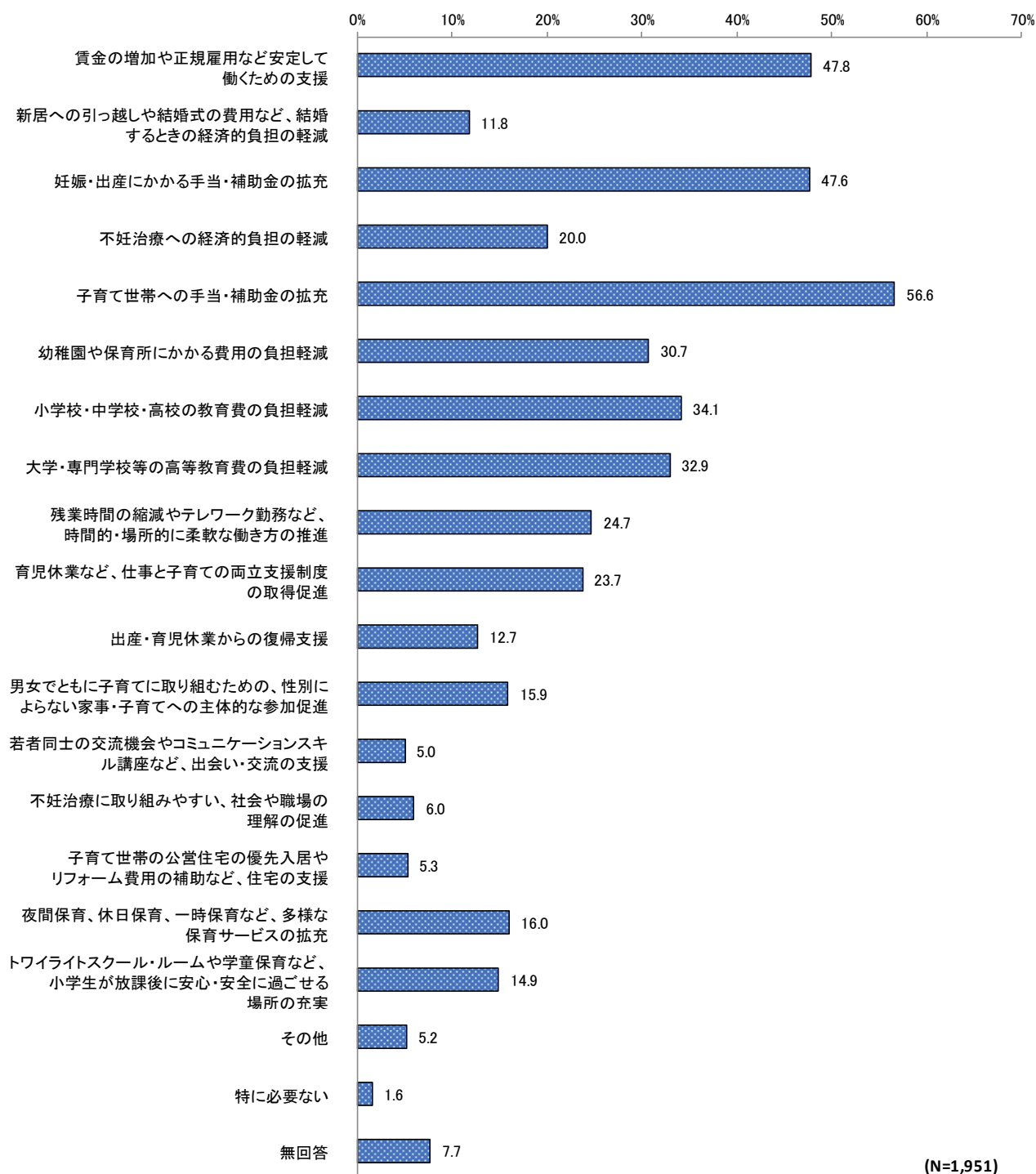


(N=920)

少子化対策として必要な支援について 【問 20】

■ 少子化対策として、あなたが特に必要だと思う支援は何ですか。（5つまで回答）

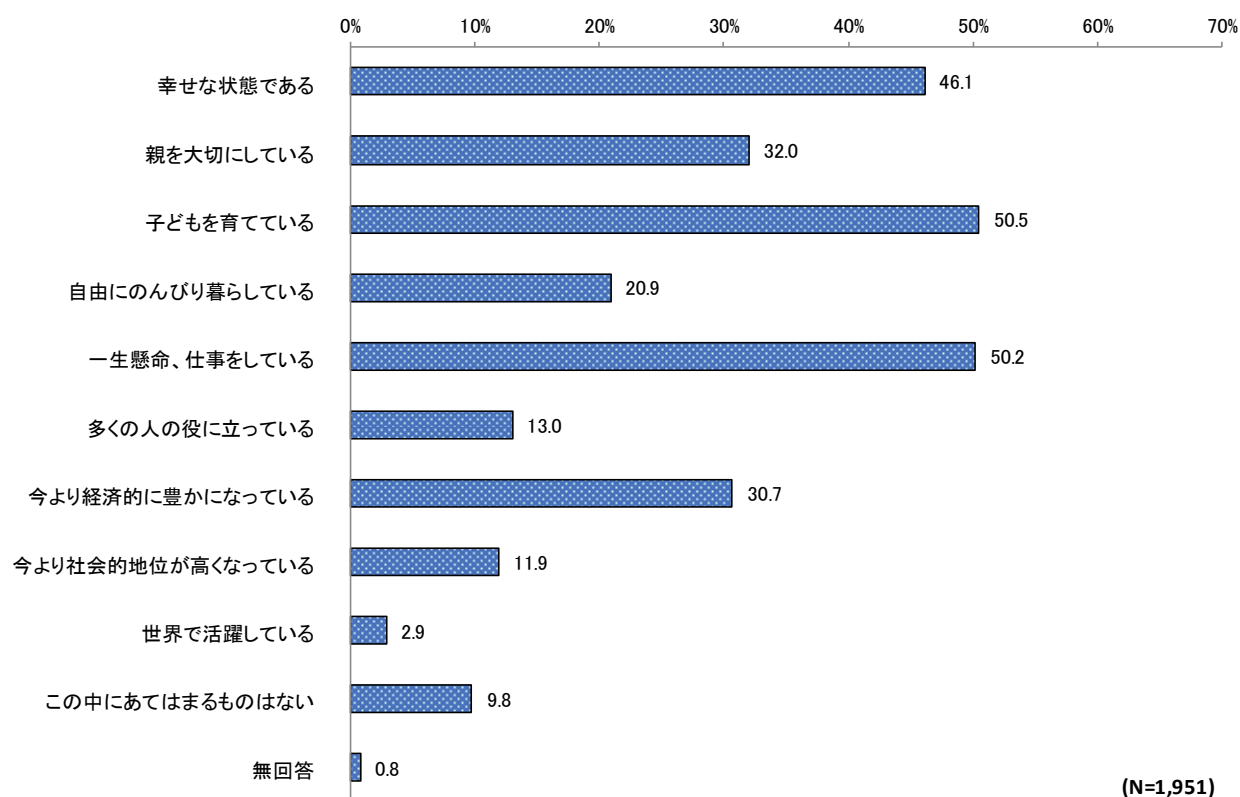
◇ 「子育て世帯への手当・補助金の拡充」が 56.6%と最も多く、次いで「賃金の増加や正規雇用など安定して働くための支援」が 47.8%となっている。



5年後の自分のイメージについて【問 48】

■ 5年後の自分をどのようにイメージしていますか。(複数回答)

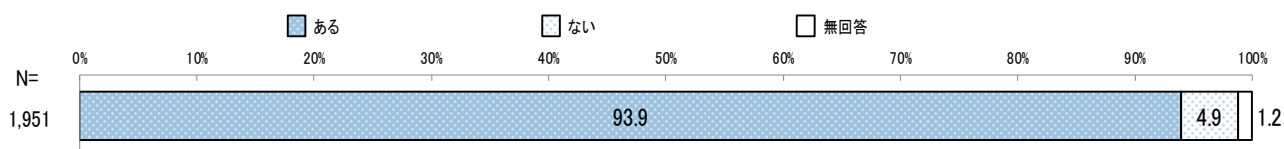
◇ 「子どもを育てている」が50.5%と最も多く、次いで「一生懸命、仕事をしている」が50.2%、「幸せな状態である」が46.1%となっている。



居場所について【問 52】

■ あなたにとって、居場所（ほっとできる場所、居心地のよい場所）はありますか。
(1つ)

◇ 全体では、「ある」が93.9%、「ない」が4.9%となっている。



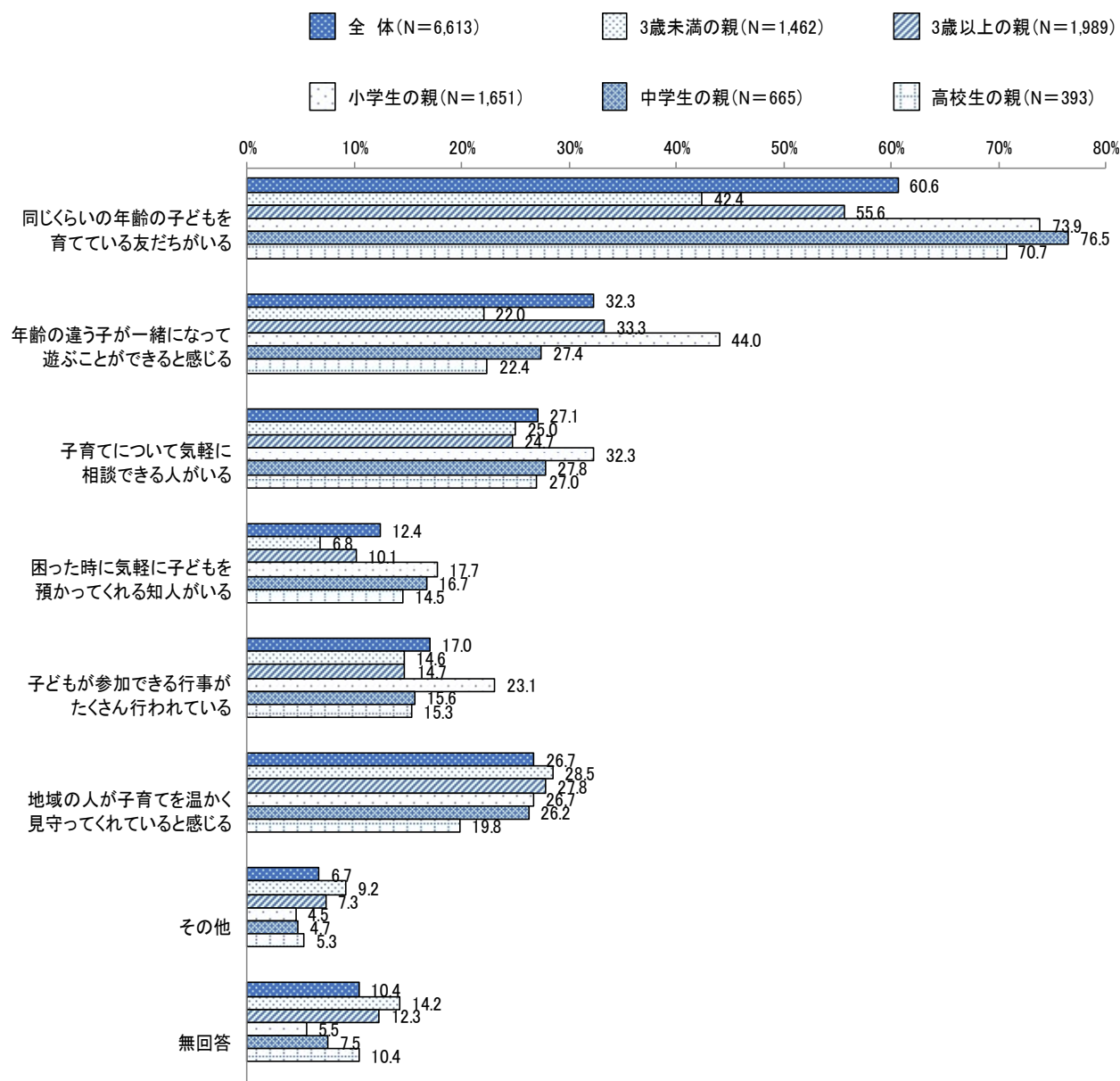
Ⅲ 子育て家庭調査

地域の子育ての状況について 【問 6】

■子育てについて、あなたのお住まいの地域にあてはまるものを選んでください。

(複数回答)

- ◇ 全体では、「同じくらいの年齢の子どもを育てている友だちがいる」が60.6%と最も多く、次いで「年齢の違う子が一緒になって遊ぶことができると感じる」が32.3%、「子育てについて気軽に相談できる人がある」が27.1%となっている。
- ◇ 「同じくらいの年齢の子どもを育てている友だちがいる」では、就学後の親の割合がいずれも7割以上である。

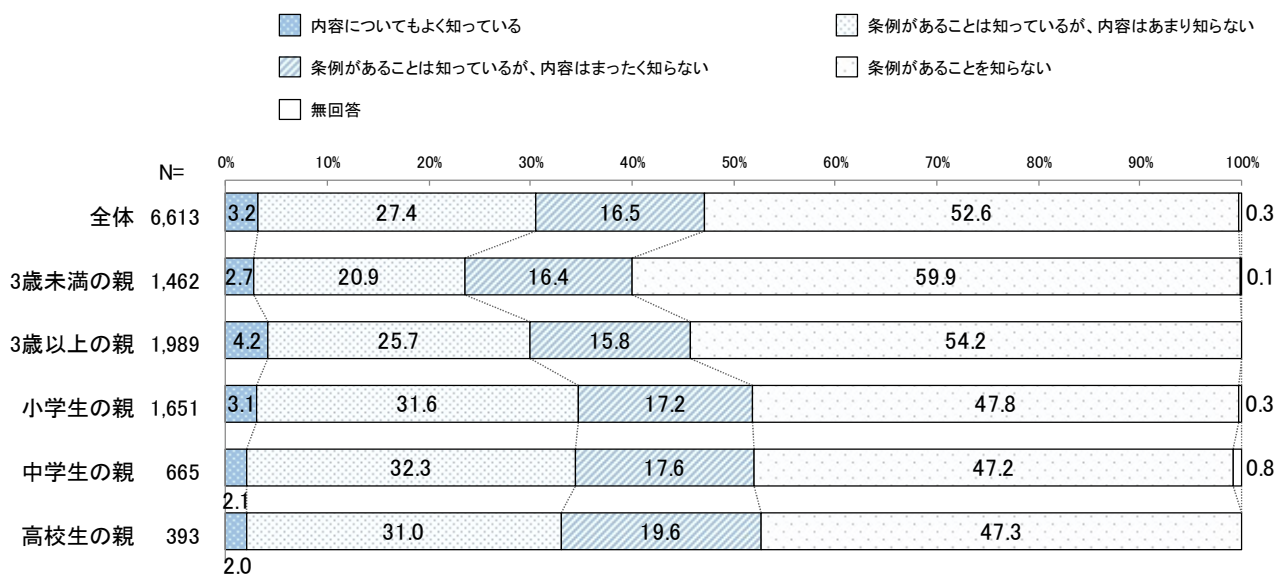


なごや子どもの権利条例について 【就学前 問8・就学後 問9】

■あなたは、「なごや子どもの権利条例」を知っていますか。（1つ）

◇ 全体では、「条例があることを知らない」が52.6%と最も多く、次いで「条例があることは知っているが、内容はあまり知らない」が27.4%、「条例があることは知っているが、内容はまったく知らない」が16.5%、「内容についてもよく知っている」が3.2%である。

◇ 子どもが就学前の親の過半数は、条例があることを認知していない。



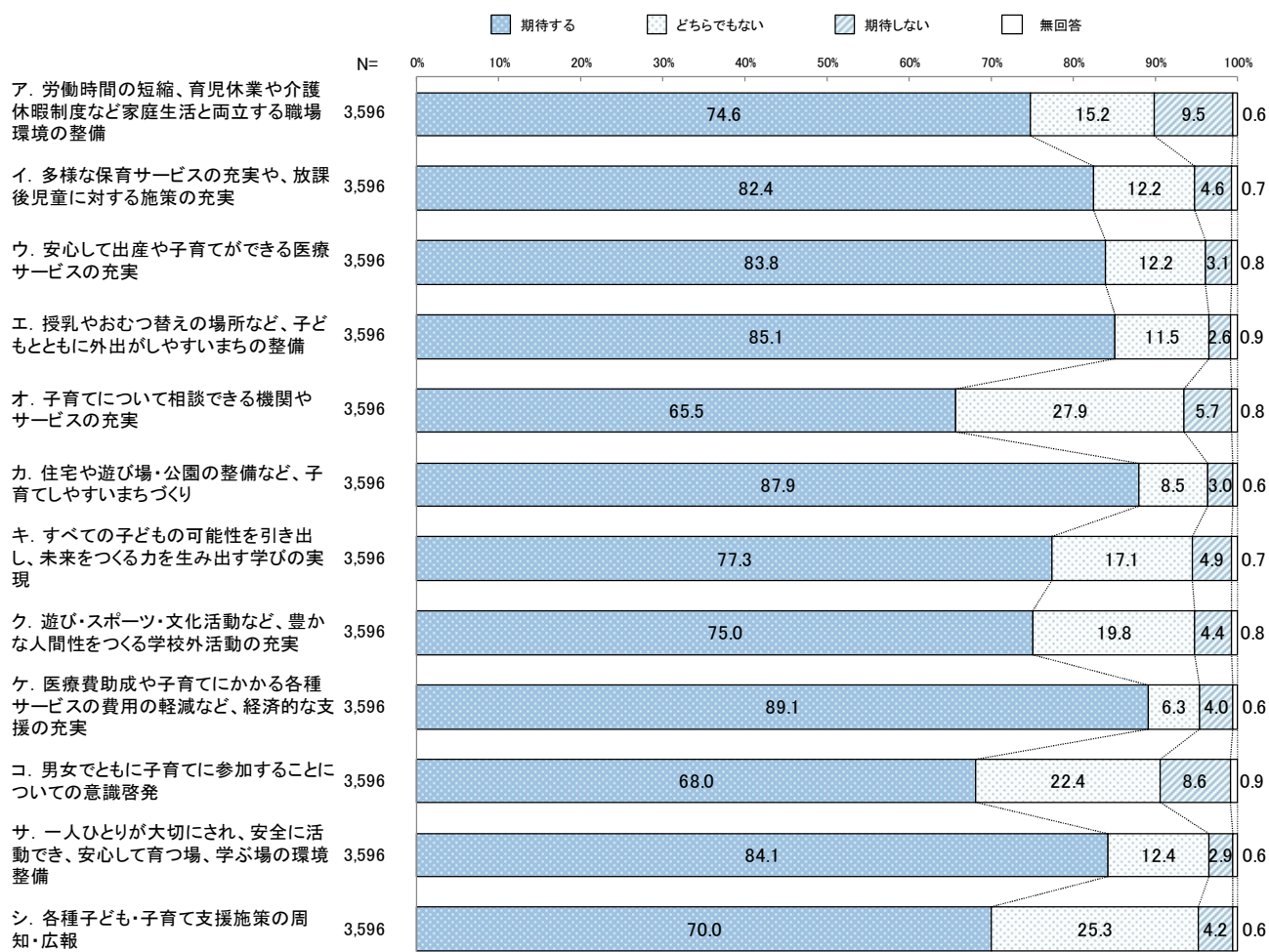
名古屋市の子育て支援の取り組みについて【就学前 問10・就学後 問11】

■名古屋市の子ども・子育て支援への取り組みについてあてはまるものを選んでください。

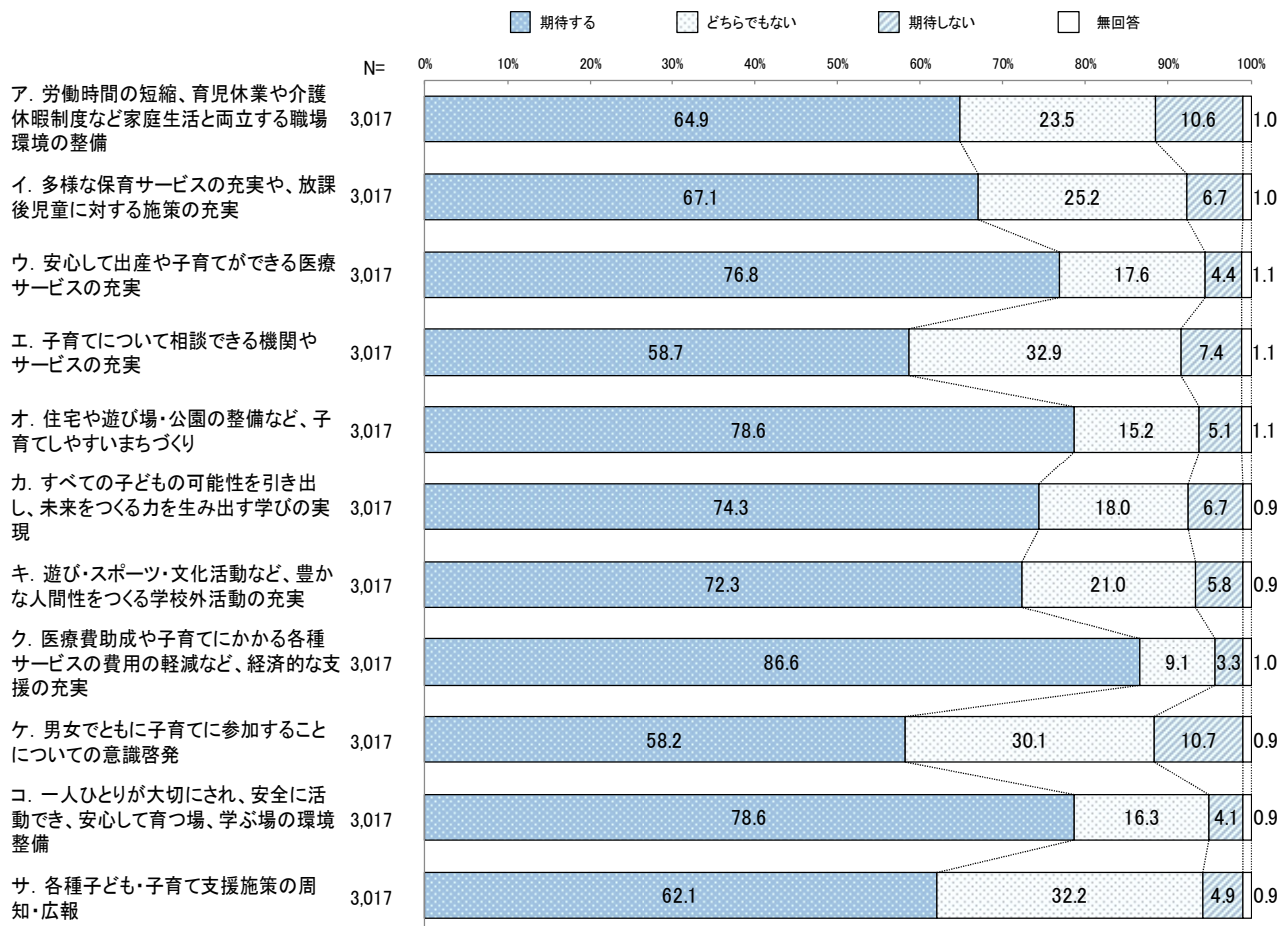
(1) 期待の有無

- ◇ 子どもが就学前・就学後の親がともに「期待する」の割合が最も高いのは、「医療費助成や子育てにかかる各種サービスの費用の軽減など、経済的な支援の充実」である。
- ◇ 子どもが就学前の親が「期待しない」の割合が最も高いのは、「労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など家庭生活と両立する職場環境の整備」である。子どもが就学後の親は「男女でともに子育てに参加することについての意識啓発」である。

<就学前>



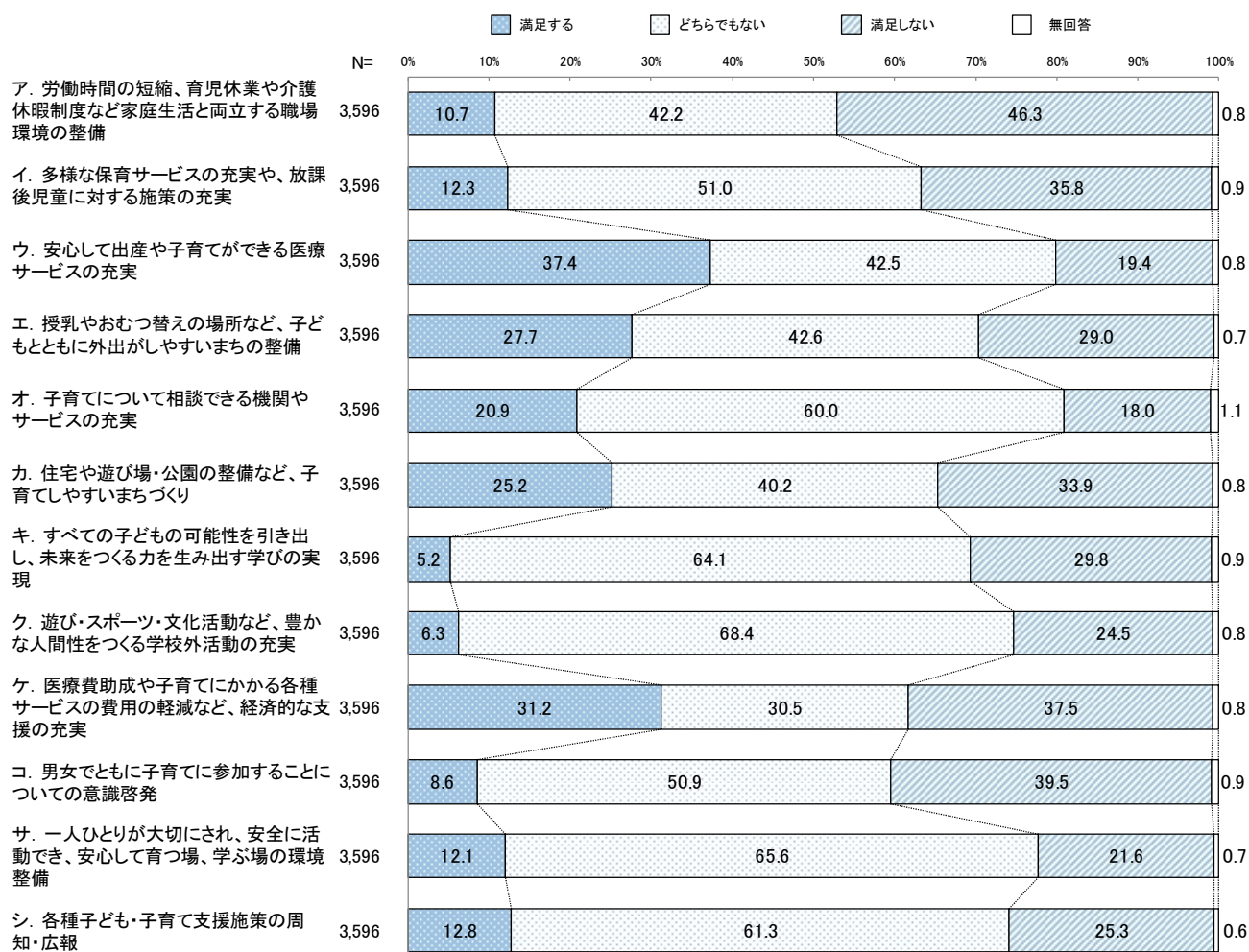
<就学後>



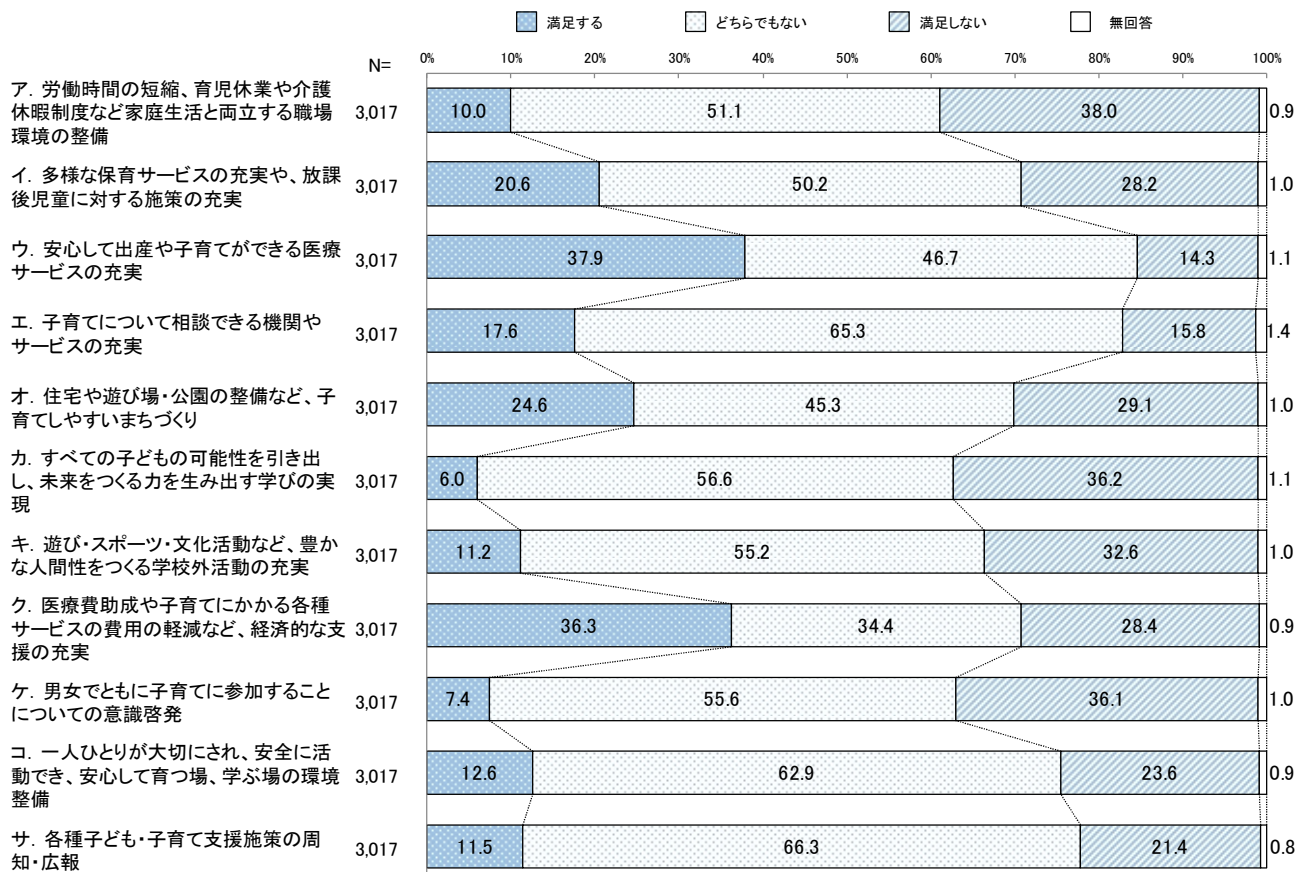
(2) 現状の満足度

- ◇ 子どもが就学前・就学後の親がともに「満足する」の割合が最も高いのは、「安心して出産や子育てができる医療サービスの充実」である。
- ◇ 子どもが就学前・就学後の親がともに「満足しない」の割合が最も高いのは、「労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など家庭生活と両立する職場環境の整備」である。

<就学前>



<就学後>



両親の就労状況について 【就学前 問11・問18】 【就学後 問12・問19】

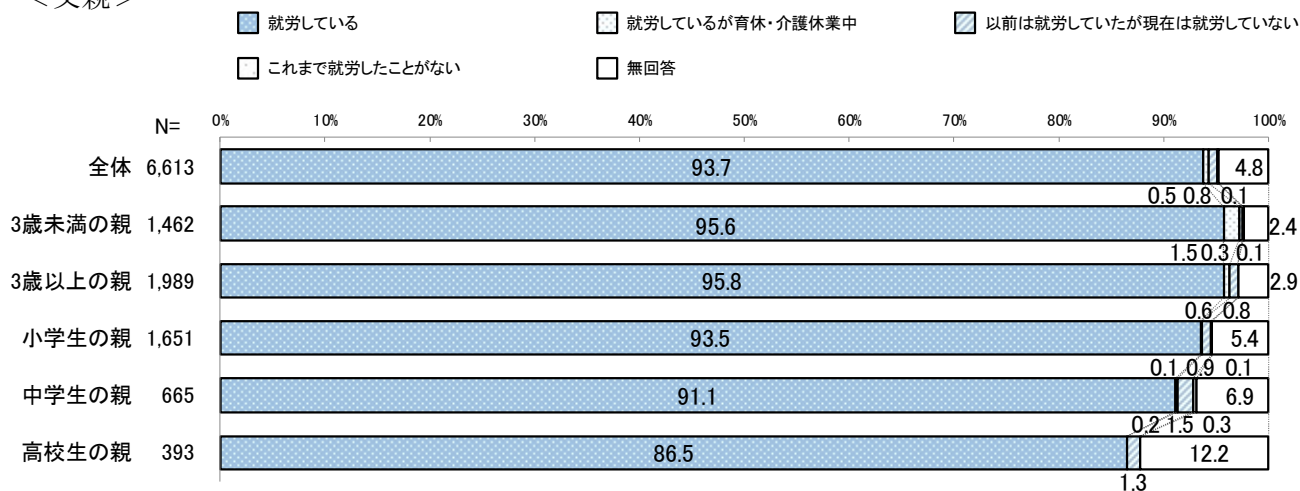
■ 父親の就労状況について、あてはまるものを選んでください。(1つ)

■ 母親の就労状況について、あてはまるものを選んでください。(1つ)

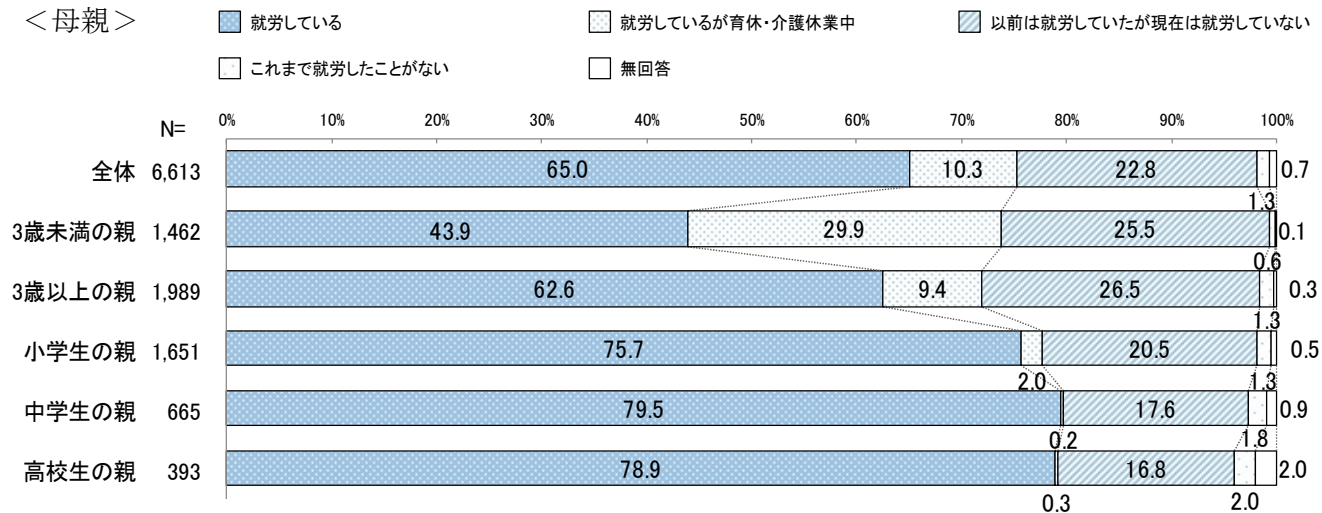
◇ 父親の就労状況では、「就労している」が93.7%である。

◇ 母親の就労状況では、「就労している」が65.0%である。

< 父親 >



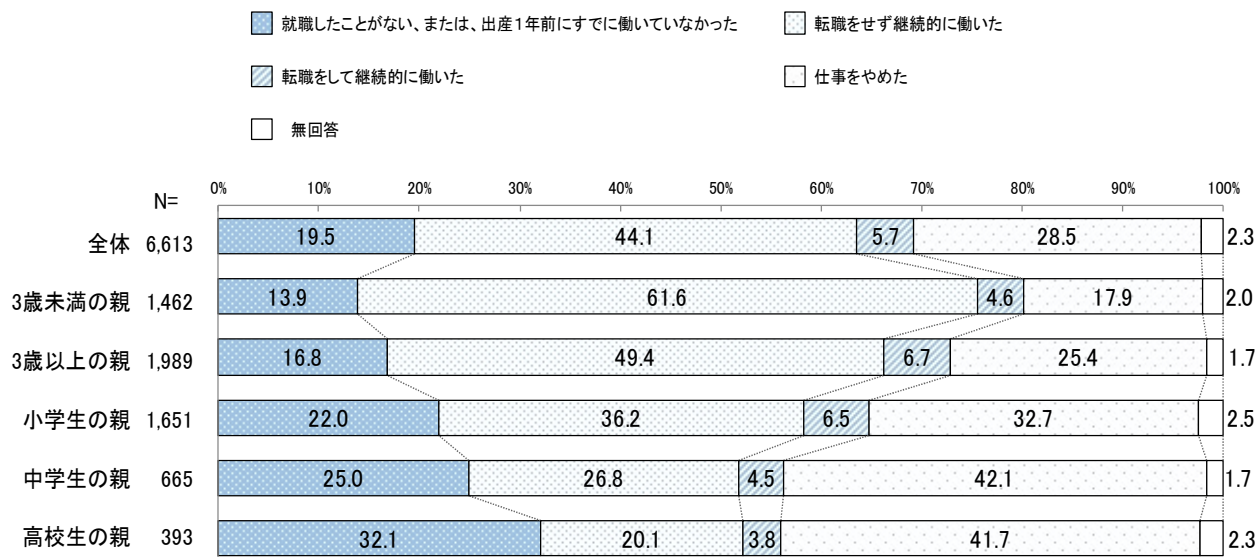
< 母親 >



出産にともなう母親の退職や転職について 【就学前 問25・就学後 問26】

■母親は、出産前後（それぞれ1年以内）に仕事をやめたり、転職をしましたか。（1つ）

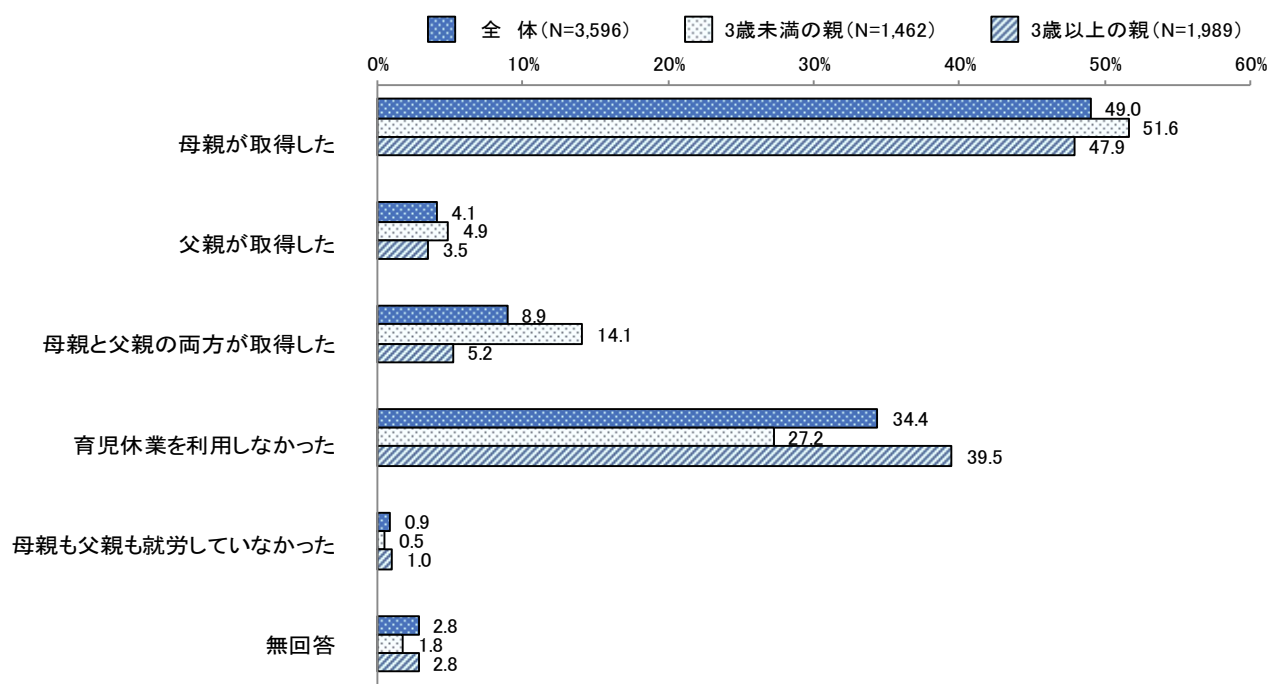
- ◇ 全体では、「転職をせず継続的に働いた」が44.1%と最も多く、次いで、「仕事をやめた」が28.5%、「就職したことがない、または、出産1年前にすでに働いていなかった」が19.5%となっている。
- ◇ 「3歳未満の親」では、「転職をせず継続的に働いた」の割合が最も高く、61.6%となっている。



育児休業の取得について 【就学前 問27】

■あて名のお子さんについて、母親または父親が育児休業を取得しましたか。（1つ）

- ◇ 全体では、「母親が取得した」が49.0%と最も高く、次いで「育児休業を利用しなかった」が34.4%、「母親と父親の両方が取得した」が8.9%となっている。
- ◇ 「育児休業を利用しなかった」割合は、「3歳以上の親」は「3歳未満の親」よりも10ポイント以上高くなった。



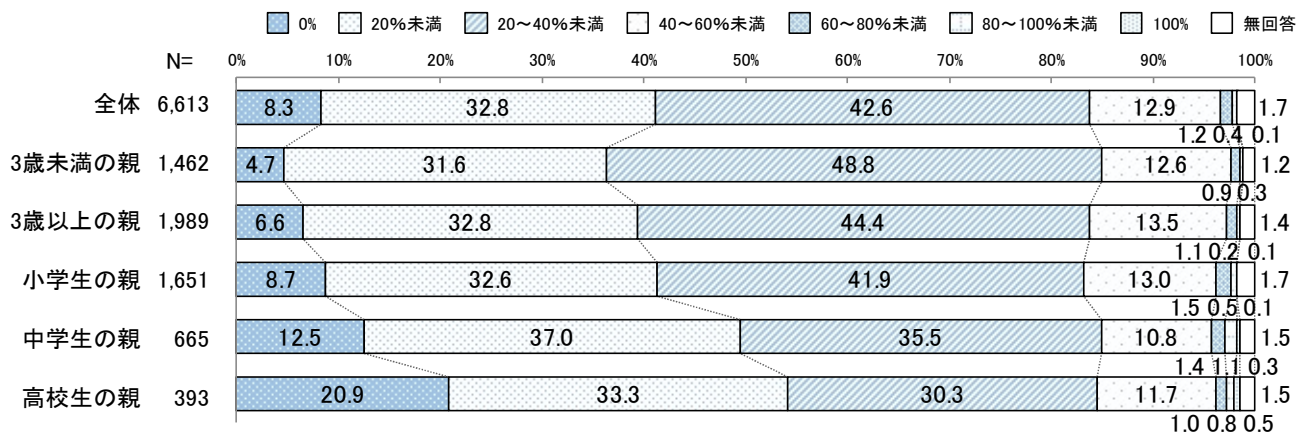
家事・子育ての分担について 【就学前 問 32・就学後 問 31】

■現在、家事・子育てをどのように分担していますか。父親と母親の分担の割合を、全体で100%になるように数字で記入してください。

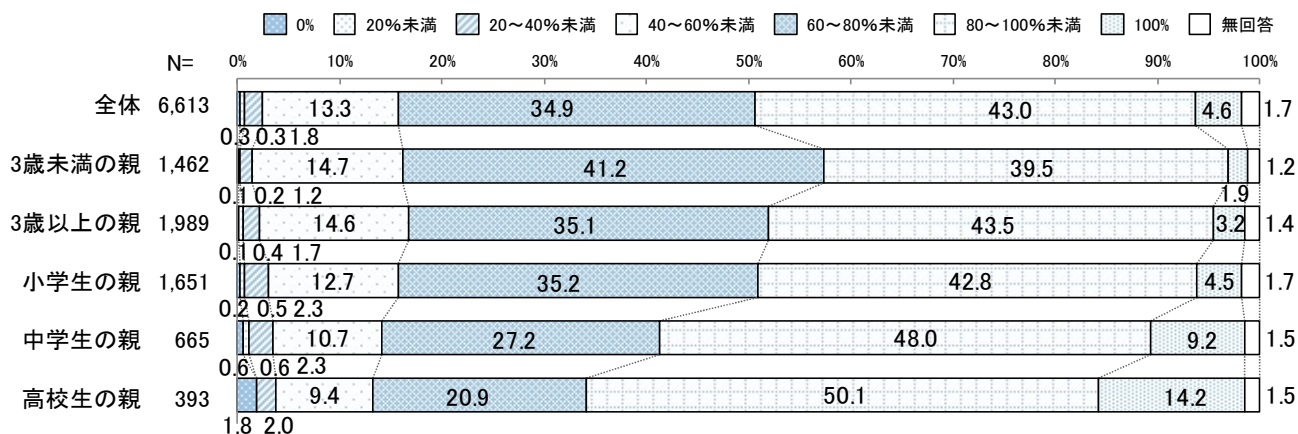
◇ 全体では、父親は「20～40%未満」が42.6%と最も多く、母親は「80～100%未満」が43.0%、祖父母等の援助は「0%」が57.2%とそれぞれ最も多い。

◇ 子どもの年代が高い親ほど、母親が80%以上と回答した割合が高くなっている。

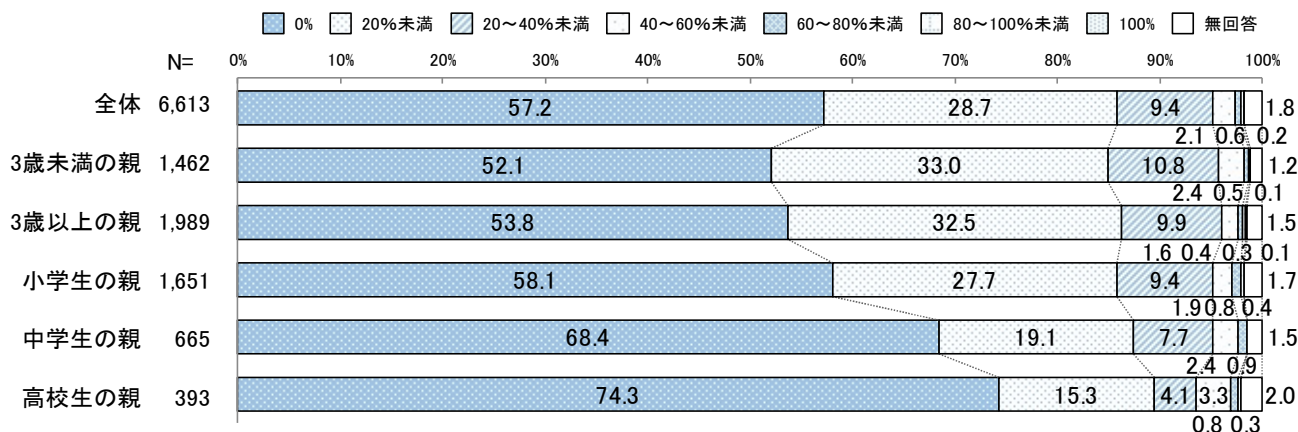
(1) 父親の割合



(2) 母親の割合



(3) 祖父母等の援助の割合

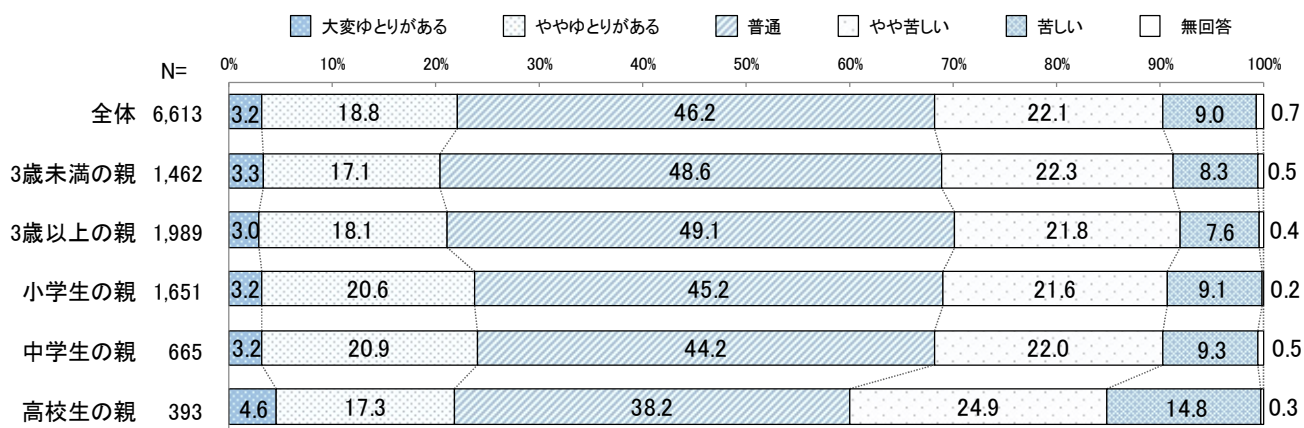


子育ての経済的負担について 【就学前 問 71・就学後 問 32】

■あなたの世帯の現在の暮らし向きについてあてはまるものを選んでください。(1つ)

◇ 全体では、「普通」が 46.2%と最も多く、次いで「やや苦しい」が 22.1%、「ややゆとりがある」が 18.8%となっている。

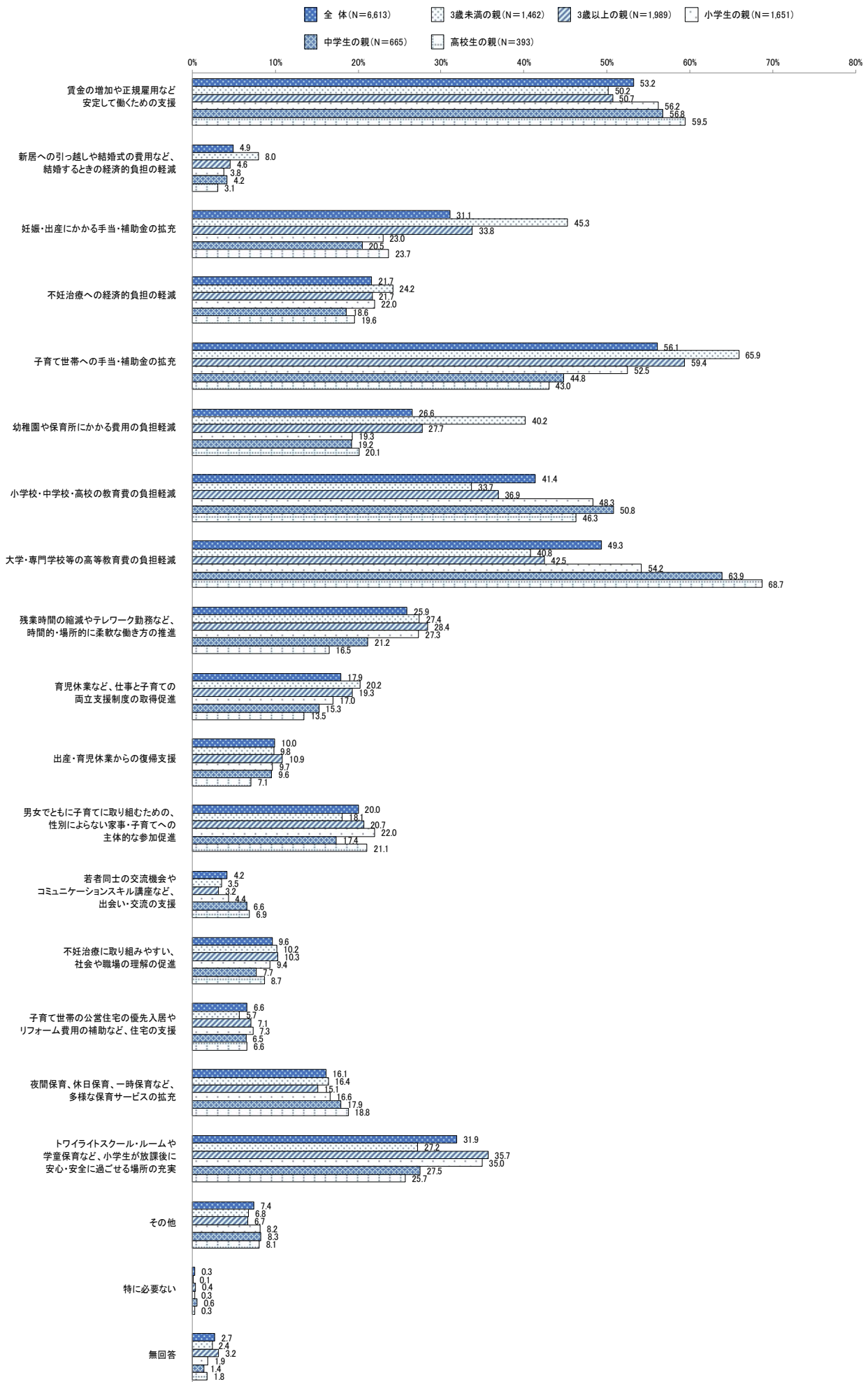
◇ 「苦しい」の割合は、「高校生の親」が 14.8%と最も高い。



少子化対策として特に必要だと思う支援【就学前 問 83・就学後 問 47】

■少子化対策として、あなたが特に必要だと思う支援は何ですか。（5つまで）

- ◇ 全体では、「子育て世帯への手当・補助金の拡充」の割合が 56.1%と最も高く、次いで「賃金の増加や正規雇用など安定して働くための支援」が 53.2%、「大学・専門学校等の高等教育費の負担軽減」が 49.3%となっている。
- ◇ 「賃金の増加や正規雇用など安定して働くための支援」を見ると、いずれの年代の子どもをもつ親も過半数を占めている。



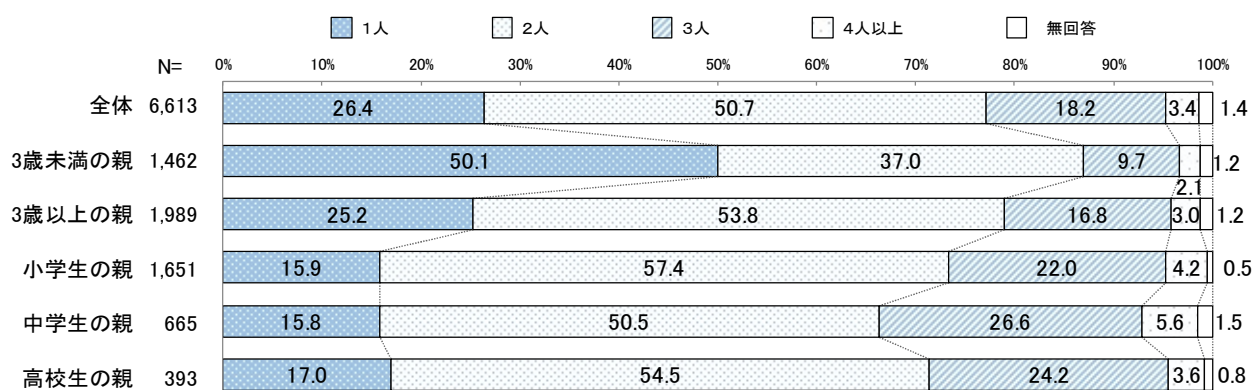
お子さんの人数について 【就学前 問 84・就学後 問 48】

■ あなたには何人のお子さんがいますか。また、理想としては、子どもは何人いるのが望ましいと考えていますか。(各1つ)

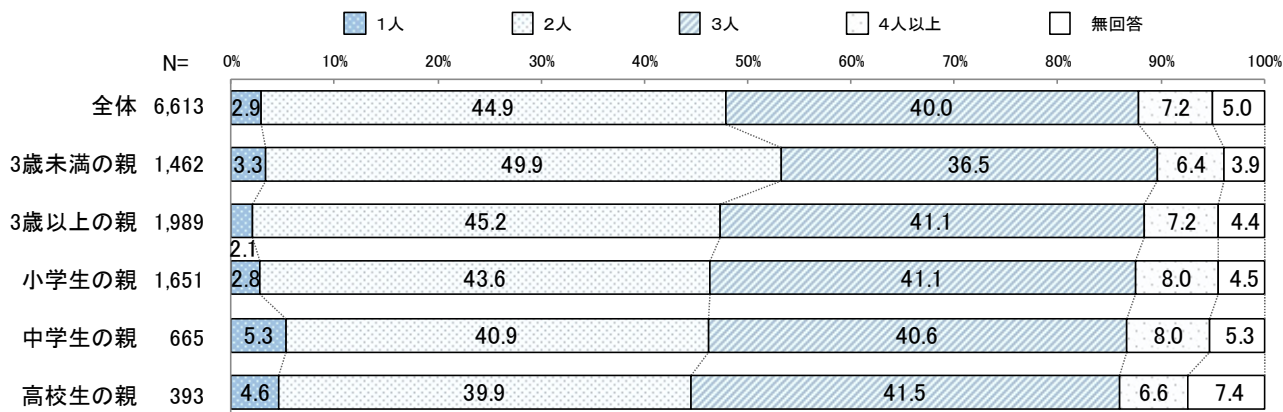
◇ 全体では、実際の子どもの人数は、「2人」が50.7%、次いで「1人」が26.4%となっており、理想とする子どもの人数は、「2人」が44.9%、次いで「3人」が40.0%となっている。

◇ いずれの年代の子どもをもつ親も、実際の子どもの人数を3人以上と回答した割合より、理想とする子どもの人数を3人以上と回答した割合の方が高い。

(1) お子さんの人数



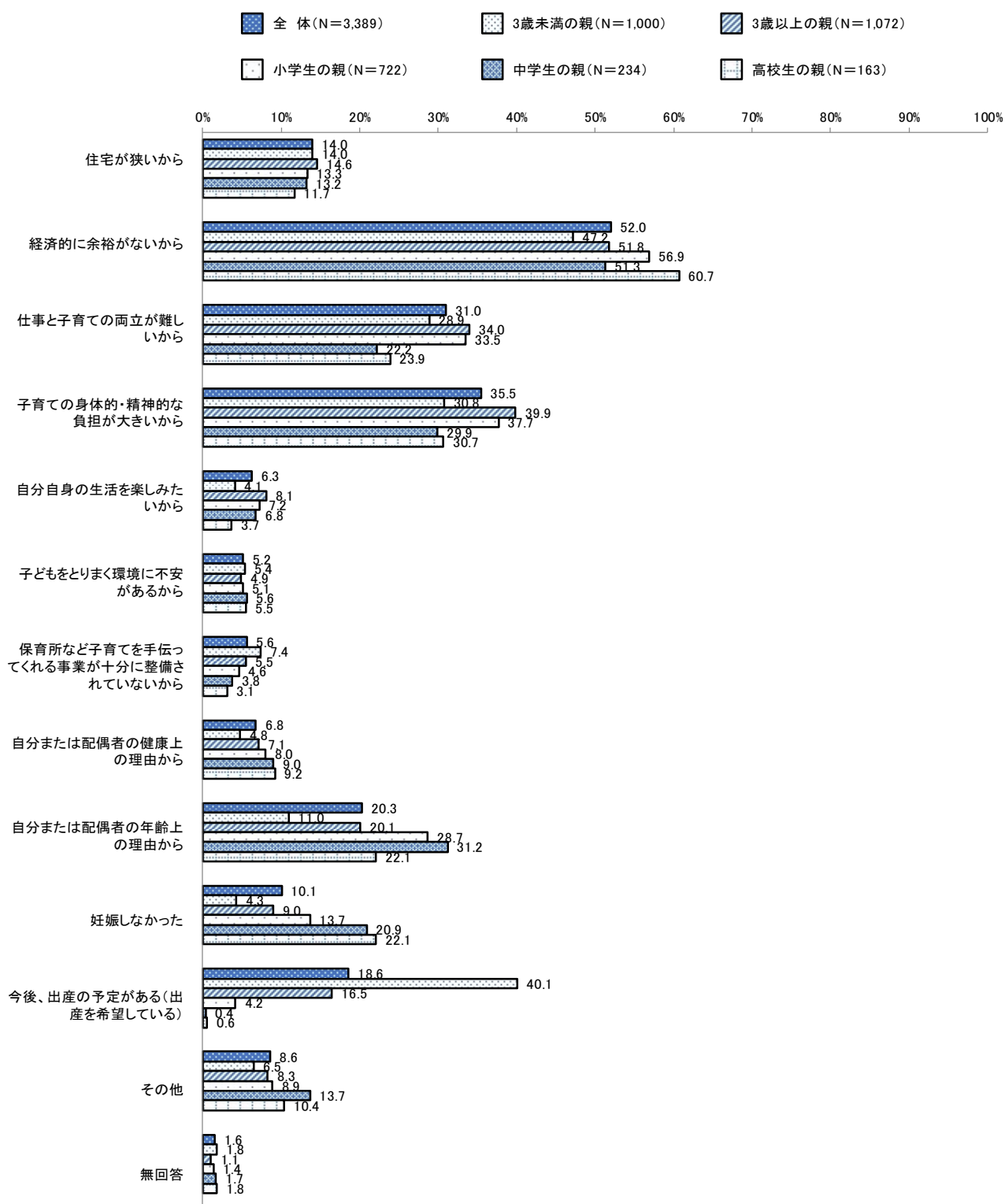
(2) 理想とする人数



お子さんの人数が理想とする人数より少ない理由について【就学前 問 85・就学後 問 49】

■お子さんの人数が理想とする人数より少ない理由は何ですか。（3つまで）

- ◇ 全体では、「経済的に余裕がないから」が52.0%と最も多く、次いで「子育ての身体的・精神的な負担が大きいから」が35.5%、「仕事と子育ての両立が難しいから」が31.0%となっている。
- ◇ 「3歳未満の親」では、「今後、出産の予定がある（出産を希望している）」が40.1%と高くなっている。



令和5年度ひとり親世帯等実態調査結果の概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

ひとり親世帯等（母子世帯、父子世帯、両親のない子のいる世帯、寡婦世帯、寡夫世帯）の生活状況、生活意識等を調査し、ひとり親世帯等に対する福祉行政を推進するための基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 調査方法

郵送で配布し、郵送またはオンライン調査の併用により回収した。

(3) 調査期間

令和5年7月31日から8月18日（当初）

※回収率の低迷により、調査票の回答期限について9月30日まで延長。

※前回調査の調査期間は、平成30年7月17日から7月31日。

(4) 対象者及び回収結果

令和2年国勢調査により設定された名古屋市内の調査区から、無作為に抽出した2,000地区を指定し、当該地区に居住する住民基本台帳の世帯構成等から両親のいる子の世帯など、調査対象世帯に該当しない世帯を除いた調査対象世帯に該当する可能性がある世帯について、母子世帯及び寡婦世帯については各1世帯、寡夫世帯については連続する2調査地区から各1世帯（いずれも該当世帯が存在しない場合は他地区より1世帯）、父子世帯及び両親のない子のいる世帯については全世帯を対象とした。

【大人調査票】

回答者	抽出数	回収数	回収率
母子世帯	2,000 世帯	575 世帯	28.8%
父子世帯	517 世帯	118 世帯	22.8%
両親のない子のいる世帯	16 世帯	6 世帯	37.5%
寡婦世帯	2,000 世帯	769 世帯	38.5%
寡夫世帯	1,000 世帯	250 世帯	25.0%
合 計	5,533 世帯	1,718 世帯	31.1%

【子ども調査票】

回答者	抽出数	回収数	回収率
母子世帯、父子世帯、両親のない子のいる世帯に含まれる10歳以上18歳未満の児童（複数名存在する場合は、最年長の児童を調査対象とする。）	1,346 世帯	292 世帯	21.7%

2. 主な指標の推移

【母子世帯と父子世帯の状況】

	母子世帯	父子世帯
1. 世帯数（推計値）	24,820 世帯 (25,986 世帯)	2,424 世帯 (2,973 世帯)
2. ひとり親世帯になった理由	離婚 74.8% (78.4) 未婚 13.2% (13.6) 死別 8.9% (5.6)	離婚 65.8% (69.1) 死別 27.8% (23.6)
3. 就業状況	88.8% (90.7)	97.5% (90.8)
4. 世帯の平均年間総収入	317.9 万円 (319.3 万円)	659.6 万円 (570.4 万円)
5. 名古屋市の施策等で期待すること	①相談事業の充実 51.6% (69.4) ②経済的支援の充実 48.9% (31.0) ③子どもの学習・教育支援の充実 22.2% (16.6)	①相談事業の充実 41.8% (73.1) ②経済的支援の充実 34.5% (22.1) ③子どもの学習・教育支援の充実 21.8% (8.7)

※（ ）の値は、前回（平成30年度）の調査結果を表している。

※「世帯の平均年間総収入」は、令和4年の1年間の収入

3. 結果の概要(大人調査)

(1) ひとり親世帯の親の年齢（報告書 P. 13～14、160～161）

	母子世帯	父子世帯
平均年齢	42.8 歳	48.6 歳
10 代	0.0%	0.0%
20 代	7.4%	1.3%
30 代	25.7%	11.4%
40 代	43.0%	39.2%
50 代	23.4%	41.8%
60 歳以上	0.4%	6.3%

(2) ひとり親世帯の人員の状況（報告書 P. 17～19、163～165）

	母子世帯	父子世帯
平均世帯人員	2.85 人	2.76 人
子ども以外の同居者がいない世帯	76.0%	74.7%

(3) ひとり親世帯の子の人数（報告書 P. 20～23、166～168）

	母子世帯	父子世帯
平均人数	1.68 人	1.65 人

(4) ひとり親世帯になった理由 (報告書 P. 25～26、170)

	母子世帯	父子世帯
離婚	74.8%	65.8%
死別	8.9%	27.8%
未婚	13.2%	0.0%

(5) ひとり親世帯の困っていること【複数回答】 (報告書 P. 33～36、176～178)

	母子世帯	父子世帯
困っている ことがある	89.9% 子どもの教育や将来 : 55.3% 生 活 費 : 53.9% 仕 事 : 31.8%	85.3% 子どもの教育や将来 : 57.4% 家 事 : 30.9% 仕 事 : 27.9%

※内訳は、回答が多かった上位3項目を示している。

(6) ひとり親世帯の住まい (報告書 P. 41～45、183～187)

	母子世帯	父子世帯
住まい	民営の賃貸住宅 : 30.1% 持ち家 : 28.3% 親族と同居 : 12.6% 市営住宅 : 12.6%	持ち家 : 63.8% 市営住宅 : 12.5% 民営の賃貸住宅 : 11.3%

※内訳は、回答が多かった上位3項目を示している。

(7) ひとり親世帯の就業状況 (報告書 P. 54～59、196～199)

	母子世帯	父子世帯
現在の就業状況	仕事についている : 88.8% 雇用されている : 81.6% 自 営 業 : 7.0% 内 職 : 0.2% 仕事についていない : 11.2%	仕事についている : 97.5% 雇用されている : 86.1% 自 営 業 : 11.4% 内 職 : 0.0% 仕事についていない : 2.5%
雇用されている者の 雇用形態	正 規 採 用 : 48.0% アルバイト・パート : 38.7% 契 約 社 員 : 5.1%	正 規 採 用 : 91.9% アルバイト・パート : 4.8% 家 族 従 業 者 : 1.6%
ひとり親になった 当時の就業状況	仕事についていた : 66.1% 仕事についていなかった : 33.9%	仕事についていた : 98.8% 仕事についていなかった : 1.3%

※雇用されている者の雇用形態の内訳は、回答が多かった上位3項目を示している。

(8) ひとり親世帯の年収の状況 (報告書 P. 81～82、216～217)

	母子世帯	父子世帯
世帯の平均年間総収入	317.9 万円	659.6 万円

(9) ひとり親世帯の養育費の取り決め状況 (報告書 P. 95～98、227～229)

	母子世帯	父子世帯
取り決めをしている	71.8%	59.6%

(10) ひとり親世帯の面会交流の取り決め状況 (報告書 P. 104～108、234～238)

	母子世帯	父子世帯
取り決めをしている	59.4%	54.9%

(11) 離婚する前に知りたかった情報【複数回答】 (報告書 P. 116～117、244)

	母子世帯	父子世帯
知りたかった情報がある	92.2% 経済的支援の情報：63.0% 相談窓口の情報：31.7% 子どもの学習・教育支援の情報：25.5%	76.5% 経済的支援の情報：35.3% 子どもの学習・教育支援の情報：31.4% 家事や介護の支援の情報：19.6%

※内訳は、回答が多かった上位3項目を示している。

(12) ひとり親世帯の子どもについての悩み【複数回答】 (報告書 P. 118～120、245～246)

	母子世帯	父子世帯
悩みがある	80.5% 教育・進学：64.5% しつけ：28.4% 育児：22.3%	78.5% 教育・進学：62.0% しつけ：27.8% 就職：21.5%

※内訳は、回答が多かった上位3項目を示している。

(13) ひとり親世帯のワーク・ライフ・バランスの悩み【複数回答】 (報告書 P. 145～147、266～267)

	母子世帯	父子世帯
悩みがある	83.8% 精神的にゆとりがない：41.4% 仕事が忙しくて、子どもと接する時間が少ない：34.0% 仕事が忙しくて、家事等、家のことに手がまわらない：30.7%	78.7% 精神的にゆとりがない：32.0% 仕事が忙しくて、家事等、家のことに手が回らない：30.7% 仕事が忙しくて、子どもと接する時間が少ない：24.0%

※内訳は、回答が多かった上位3項目を示している。

(14) ひとり親世帯の福祉施策の利用状況 (報告書 P. 150～153、270～273)

	母子世帯	父子世帯
利用したことがある	ひとり親家庭等医療費助成 : 87.7% 名古屋市ひとり親家庭手当 : 83.1% 児童扶養手当 : 83.0%	就学援助 : 69.6% ひとり親家庭医療費助成 : 51.7% 中学生の学習支援事業 : 50.0%

※内訳は、回答が多かった上位3項目を示している。

(15) ひとり親世帯の名古屋市の施策等で期待すること【複数回答】(報告書 P. 156～158、274～275)

	母子世帯	父子世帯
期待すること	相談事業の充実 : 51.6% 経済的支援の充実 : 48.9% 子どもの学習・教育支援 : 22.2%	相談事業の充実 : 41.8% 経済的支援の充実 : 34.5% 子どもの学習・教育支援 : 21.8%

※内訳は、回答が多かった上位3項目を示している。

4. 結果の概要(子ども調査)

(1) 学年 (報告書 P. 518)

学年	全体
小学生(5、6年生)	19.0%
中学生	37.2%
高校生	40.6%
専門学校等	0.4%
就職している	0.8%
その他	2.0%

(2) 自分のことが好きか (報告書 P. 493)

全体
① どちらかと言えば好き : 51.2%
② 好き : 25.0%
③ どちらかと言えば嫌い : 16.1%
④ 嫌い : 7.7%

(3) 今の生活の満足度 (報告書 P. 496～497)

全体
① どちらかと言えば満足している : 41.5%
② 満足している : 35.5%
③ どちらかと言えば満足していない : 15.3%
④ 満足していない : 7.7%

(4) 経済的な生活レベル (報告書 P. 476～477)

全体	
① どちらとも言えない	: 39.4%
② まあまあ豊かだ	: 25.2%
③ やや苦しい	: 15.9%
④ かなり豊かだ	: 12.6%
⑤ かなり苦しい	: 6.9%

(5) 自分専用の持ち物 【複数回答】(報告書 P. 474～475)

全体	
① 勉強道具・参考書	: 86.7%
② スマートフォン・携帯電話	: 85.5%
③ 自転車	: 74.3%

※回答が多かった上位3項目を示している。

(6) 悩んでいることや困っていること【複数回答】 (報告書 P. 489～490)

全体	
① 勉強のこと	: 49.2%
② 将来のこと	: 44.4%
③ 性格のこと	: 22.2%

※回答が多かった上位3項目を示している。

(7) 悩んでいることや困っていることの相談相手【複数回答】 (報告書 P. 491～492)

全体	
① お母さん	: 60.5%
② 友だち	: 53.5%
③ 担任の先生	: 18.9%

※回答が多かった上位3項目を示している。